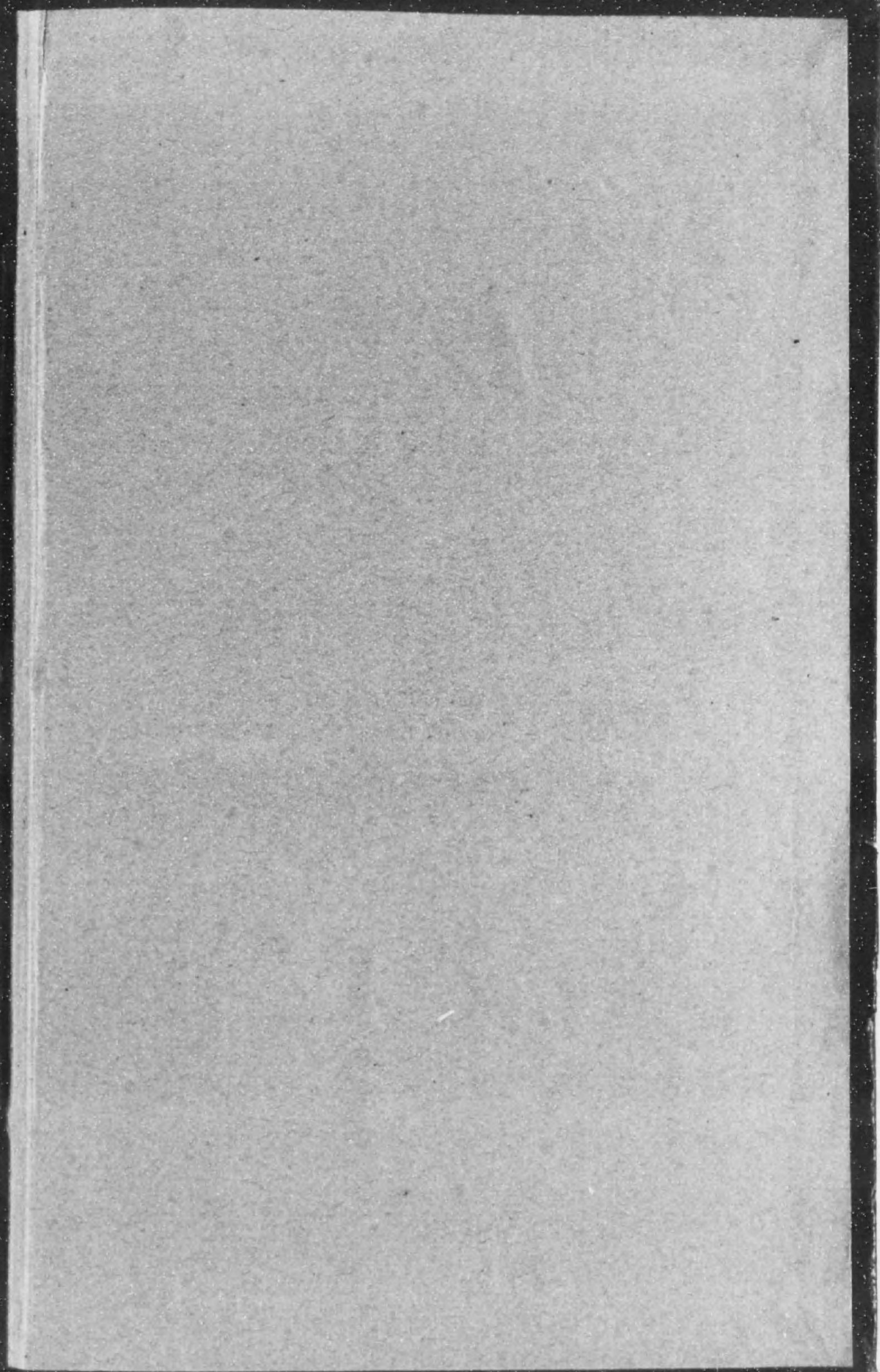
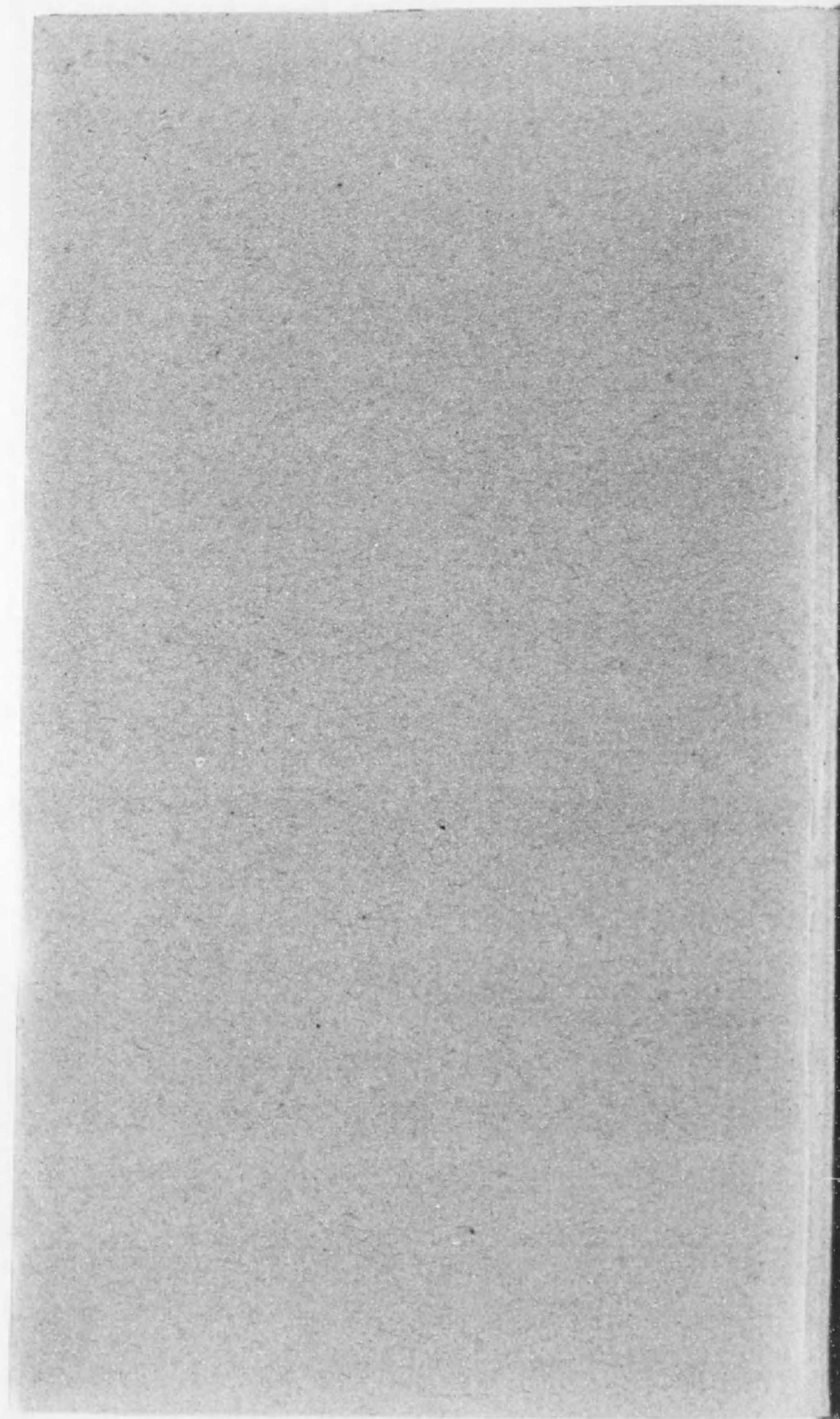


500
3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

始





南洋協會譯編
南洋研究叢書第十五篇

一九二九年
蘭領東印度貿易大觀

大正
14. 1. 13
丙午

發行所 東京 南洋協會

凡 例

曩に本會爪哇支部に於て、一九二二年、蘭領東印度政廳農商工務省商務局出版『一九二一年に於ける蘭領東印度の商工農に關する報告書』を邦譯、南洋叢書第廿八卷『蘭領印度貿易大觀』と改題、本會臺灣支部之を發行せり。然るに今回更に其一九二二年度分を入手、本會に於て之を上梓することとせり。

本書の記述せるもの、經濟的概觀、通商、金融及株式、輸出入貿易、工業、農業、海運業の七部門にして貿易業者その他、一般の研究に資し得べきもの鮮からず。

勿々の際に於ける印行なるを以て、校正の嚴正を期したれど必ずしも魯魚焉鳥の誤なきを保せず。訂正を再版の際に期す。

南洋協會調查編纂部

一九二〇年 蘭領東印度貿易大觀目次

第一章 經濟的概観	(一)	第三節 爲替市場	(三)
第二章 對外通商關係	(一九)	第四節 株式市場	(四)
第一節 蘭印の貿易關係	(一九)	第四章 輸出入貿易	(七)
第二節 通商條約	(五)	第一節 物産貿易	(八)
第三節 輸出入禁止	(七)	一、カカオ	(八)
第四節 税率變更	(七)	二、護謨及グタペルチャ	(九)
第五節 關稅及電信鐵道及軌道收入高	(六)	護謨：(爪哇の護謨市場)	(九)
關稅	(六)	土人産護謨：(パンヂヤルマシン、ボンチヤナツク、パレンバン、アムステルダム市場)	(一〇)
郵便電信	(七)	グタペルチャ	(一〇)
鐵道及軌道	(七)	ダタ	(一〇)
第三章 金融及株式市場	(七)	三、野生護謨及グタ種	(一〇)
第一節 金融	(七)	グタセルトウング	(一〇)
第二節 爪哇銀行	(七)	ルネオ西部：新嘉坡市場	(一〇)
		グタハンカン	(一〇)
		ネオ西部	(一〇)

目次

二〇、茶……(一九二二年度倫敦茶市場
 ……古倫母の競賣…カルカッタ…和蘭の茶
 市場…アムステルダム…パタピヤ市(二〇九)

二一、纖維類……(三一)

ゴモトウ……(三一)

カボツク……(パタピヤ市場…スマラン市
 場…スラバヤ市場…(三三)

棉……(バンムバン)…(三九)

藤……(パンチヤルマシ…バダン…マカ
 ツサ…ボンチヤナツク…ゴロンタロ…メ
 ナド…アツチエ及屬領…タルナテ…スマ
 トラ東海岸)…(三一)

サイザル麻……(三五)

二二、生果……(三六)

二三、蜂密……(三七)

二四、合油種子……(三八)

落花生……(スラバヤ市場…パタピヤ市場
 ……スラバヤ市場)…(三八)

パラム及ステンテイビット……(四一)

コブラ……(瓜哇市場…マカツサ…バダン
 ……パンチヤルマシ…メナド…スマトラ
 東海岸…アツチエ及屬領…ボンチヤナツ
 ク…タルナテ…アムステルダム)…(四一)

比 蘇 子……(二五二)

カボツク實……(二五二)

棉 實……(二五三)

ケミリ實……(二五三)

胡 麻……(二五三)

タンカワン實……(二五四)

第二節 輸入貿易……(二五五)

一、陶磁器……(二五五)

皿……(二五五)

小腕及小皿……(二五六)

洗 盤……(二五七)

耐火煉瓦……(二五七)

瓦……(二五八)

二、自動車及自轉車……(二五八)

貨物自動車及トラクター……(二五九)

其他の自動車……(二五九)

自動車附屬品……(二六〇)

自動車タイヤ……(二六〇)

自 轉 車……(二六一)

自轉車タイヤ……(二六一)

三、化學藥品……(二六二)

明 礬……(二六二)

液體安母尼亞……(二六三)

醋 酸……(二六三)

カルシウムカーバイト……(二六四)

苛性曹 達……(二六四)

炭 酸 曹 達……(二六五)

丹 礬……(二六五)

四、屋根葺材料……(二六六)

五、食料及飲料品……(二六七)

アルコール飲料……(二六八)

ビスケット……(二七〇)

罐入天然牛酪……(二七一)

チ ー ス……(二七二)

大 豆……(二七三)

麥 粉……(二七三)

牛乳…消每牛乳…煉乳……(二七四)

米……(瓜哇の米市場)…(二七五)

魚 類……(二七九)

生 肉……(二七九)

六、絲 類……(二八〇)

麻 糸……(二八〇)

織物用綿糸……(二八〇)

七、硝子及硝子製品……(二八一)

硝子製屋根瓦……(二八一)

ランブ火屋……(二八二)

コツブ、瓶、皿等……(二八三)

詰 瓶……(二八三)

鏡 硝 子……(二八四)

窓 硝 子……(二八四)

八、麻 袋……(二八五)

九、小間物……(二八七)

一〇、人造染料……(二八九)

一一、亞麻仁油……(二九〇)

目次

一、二、燐寸……………(二九一)

一三、機械類……………(二九一)

一四、織物……………(キヤンブリック、金巾、シユーパーイス、ドリル、プリント及びフアンシリス、毛布)……………(二九一)

一五、肥料……………(二九二)

一六、金屬……………(三〇〇)

一七、紙……………(書寫用紙、自色新聞用紙、古新聞)……………(三〇四)

第五章 工業……………(二〇四)

一、更紗業及染糸業……………(三〇五)

二、建築材料……………(三〇六)

セメント……………(三〇六)

煉瓦及瓦……………(三〇七)

火山土……………(三〇八)

耐火煉瓦……………(三〇八)

三、カッチ……………(三〇九)

四、鑛物……………(三二〇)

石油及石油製品……………(三〇九)

金剛石……………(三一三)

金銀……………(三四四)

沃度……………(三四四)

マンガン原礦……………(三四五)

天然石……………(安山岩、玄武岩、陶土、キルセリト)……………(マリアダラス及石膏、アスファルト)……………(三三六)

石炭……………(一、外國炭、英國炭、濠洲炭、日本炭)……………(二、國內炭)……………(三三七)

錫……………(三三三)

ウオルフラミト……………(三三六)

硫黃……………(三三六)

五、印刷業……………(三三七)

六、帽子……………(三三八)

竹製帽子……………(三三八)

パンダン帽子……………(三三九)

七、製材業……………(三三九)

八、規尼涅……………(三三九)

九、鞣皮業……………(三三九)

一〇、金屬工業……………(三四四)

鑄工場……………(三四四)

ホールト及び紙……………(三四五)

一一、脂肪性油……………(三四五)

比麻子油……………(三四五)

落花生油……………(三四五)

椰子油……………(三四五)

油椰子油……………(三四六)

一二、製紙業……………(三四七)

一三、造船業……………(三四七)

一四、酒精及アラック酒……………(三四七)

酒……………(三四七)

アラック酒……………(三四九)

一五、爆發物……………(三四九)

一六、製網業……………(三四九)

一七、塗料工場……………(三四九)

一八、糧秣……………(三四〇)

アンキル……………(三四〇)

モラスキユイト……………(三四二)

一九、包装材料……………(三四二)

製罐及び包装紙箱工場……………(三四二)

ベニア箱……………(三四二)

二〇、食料及贅澤品……………(三四三)

製粉……………(三四三)

鑛泉水及ラムネ……………(三四三)

菓卷煙草……………(三四三)

紙卷煙草……………(三四四)

石鹼……………(三四六)

二一、織物業……………(三四六)

二二、硫酸……………(三四七)

第六章 農業……………(三四七)

一、概観……………(三四七)

二、病虫害……………(三四八)

三、カカオ(植付面積、産額、豫想)……………(三四〇)

四、護謨及グタバネルチャ……………(植付面積、製造)……………(三四一)

五、コカ (三五)

六、土人農業：(概價) 植付及び收穫
 水稻・陸稻・玉蜀黍・カサバ・甘藷・
 落花生・大豆・其他の豆科作物・商業作物 (三五)

七、規那 (三六)

八、珈琲 (三六)

九、油椰子 (三七)

一〇、砂糖(生産費) (三七)

一一、煙草：(王領地煙草・ベスキ煙草
 ・デリー煙草) (三八)

一二、茶(産額) (三九)

第七章 海運業 (三九)

一、海運界：(和蘭籍船の海運・内海
 航路・遠洋航路・外國籍船の海運) (三九)

二、解船業 (四〇)

三、倉庫業 (四〇)

四、沿岸航路 (四一)

一九二二年 蘭領東印度貿易大觀 目次終り

一九二二年 蘭領東印度貿易大觀

第一章 經濟的概観

一九二二年度の初めに英國の經濟學者キーンズ教授が一九二二年は商工業の復活を見せるだろうと云つた豫言は大體に於て適中した。不景氣の最も甚だしかつた二一年と比ぶれば、産業界の多方面に亘つて世界を通じ生成伸張の氣が見られた。二二年に對する全ての資料は未だ集らないし、結論を下し得るのは九月迄にしか過ぎないが、手許にある數字(“Bulletin mensuel de Statistique” of the “Société des Nations” に據る)

から見ても恐慌がその最低點を越へた事は疑ふ余地がない。例へば英、佛、獨、米の石炭産額各月平均は二一年の六六、四七六、〇〇〇噸から二二年九月には八二、一九六、〇〇〇噸に上り、二〇年の平均と比較しても猶約十萬噸高い。だが大戰直前一九一三年

の産額八六、六八八、〇〇〇噸とはまだまだ甚だしい懸隔がある。英、佛、白、米、ルクセンブルグの鐵産額は九月に於て三、二八一、〇〇〇噸に達した。二〇年及二一年の各月平均産額は四、一八九、〇〇〇噸及び二、〇五五、〇〇〇噸である。鋼鐵の各月平均産額は再び一三年と同臺に上つた。併し二〇年と比べるとまだ七十萬噸少ない。歐洲五ヶ國の輸出入各月平均も又下表の如く明かに進歩の跡を見せてゐる。尤も一三年と對比すれば約二五パーセントの輸出入減少を示す。數字は上記の統計書に據つたもので位は千米突噸である。

輸 入	
國 名	噸
白 耳 義	一九二一
佛 蘭 西	一九二二
瑞 士	一、四四二
チエツク、スロベキア	三、一六四
獨 逸	三、一六四
計	四、一三八
白 耳 義	一九二一
佛 蘭 西	一九二二
瑞 士	一、四四二
チエツク、スロベキア	三、一六四
獨 逸	三、一六四
計	四、一三八

輸 出	
國 名	噸
白 耳 義	一九二一
佛 蘭 西	一九二二
瑞 士	一、四三〇
チエツク、スロベキア	一、三三三
獨 逸	一、三三三
計	二、六一六
白 耳 義	一九二一
佛 蘭 西	一九二二
瑞 士	一、四三〇
チエツク、スロベキア	一、三三三
獨 逸	一、三三三
計	二、六一六

二一年と對比すれば輸入は輸出よりも大きな増加を見せる。だが兩者とも一三年には遠く及ばない。併し假令僅かにしろ歐米經濟狀態の改善が蘭領印度に響かすにはなかつた事勿論である。蘭領印度は其生存資料を輸出向農業に見出すのである。歐洲の購買力は大了なものではなかつたが物産は一年を通じて絶へず買捌く事が出来た。

消費國に於けるストックの僅少は茲に與つてゐる。世界の市價が屢々低落を見せた反面に生産費は嵩張つてゐた關係から二二年の産額が従つて又輸出が最高限度に中々達せなかつたといふ事情も與つてゐる。例へば爪哇及マヅラの二二年輸出は約二百萬噸であるが二一年は約二百三十萬噸で一五パーセント餘計に輸出されたのであつた。

露西亞や中央歐羅巴の如き重要な販路の消滅は吾が貿易が近年發見し得た新しい市場の數々に依つて益々補充されて行つた。將來歐洲の状態が再び平常に復した曉に於ても此等の新市場は蘭領印度に取つて大に意義あるものとして残るであらう。本年度の終り數箇月は若干の重要輸出品茶護謨等の價格に著しい改善を見せ輸出も之に應じて増大した。輸出業者に取つては、景氣の改善に拘らず、本年度は想像され得る如くには順調でなかつた。商賣は猶圓滑に捗らず、二一年の苦しい經驗と、同年及二二年の前半に蒙つた莫大な損失とはまだ生々しい記憶として残り居り、消費者は又主として直接な必要額丈けしか賣ひ取らぬ。年度を通じて規則的な商買の出來たのは砂糖あ

るのみである。併し際物商賣は相當の利益を擧げる事も少くなかつた。輸入貿易は大體に於て二一年よりも更に悪かつた。價格の低落も底に達したと云ふ二一年末の想像は見事に裏切られ、二二年になつても低落は止まず、手持ストックの減價大償却は又もや必要となつた。更に又大商館で清算を餘議なくされたものも多く、多少強制的な見切賣も少くなかつた有様で大數量の商品特に反物などが低値で市場に投げ出された爲めに價格は屢々原價以下に低落した。外領でも若干の商館は清算せねばならず、その在荷が餘りに多大な爲めに、利害關係を有つ銀行は地方的に處分する事が出來ず、清算人も亦爪哇での賣捌きを要請するに至つた。従つて爪哇は既に多大過ぎる爪哇在荷のみならずバダン、マカツサ其他の商品までも吸収せねばならなかつた。所が外領の商品は爪哇のそれと仕上やサイズが違つてゐた爲めに特別な安値で提供されねばならぬ事が屢々だつた。かゝる事情の下にあつて、當地の市場が神經過敏だつたのは無理も無い。一時品切となれば數十ポイントの上騰を來し、品豊富となれば價格も急轉

直下した。若干の輸入業者などは品物が到着するや否や賣拂ふ必要に迫らるゝ状態にあり、とても永く持ち堪へる事は出来なかつたのである。

政府側からも個人側からも一般的に行はれた經費節限は販路を狭塞すること甚だし、爲めに競争は激烈となり、利益のマージンは僅少となつた。併し年度の後半には其處此處で改善の曙光が見へ出した。獨逸製の安物輸入品は益々減少し歐洲に於ける木綿織物等の値段は上騰を初めた。小間物は年度中概して満足な利益を與へた。輸入業者にとつてしかく重大な要素である土人の購買力は勿論減退してゐたが、今迄の所心配された程には表面顯著とならなかつた。農場工場の好況は輸入品の販賣高にその影響を反射せずにはおかなかつた。それに又高價のストックは最早除外例に屬せんとし、耳目を聳動する様な清算も今日では期待されない様であるし、二三年に對しては希望の光が漲つてゐる。歐洲の貿易業者は本國の困憊に拘らず、戦争以來失つた當領の市場を大部分回復するに成功した。米國は鐵鋼品を除けては事實市場から驅逐され

日本の輸入は陶器と反物を除けば著しく減退し、濠洲も牛酪麥粉の如き若干の商品に餘喘を保ち得たに過ぎぬ。

二〇年及二一年の輸入が需要以上だつた事は不景氣と關連して二二年の輸入を減少せしめた、即ち二二年の爪哇及マヅラ輸入は前年度の百五十萬噸餘に對して百二十萬噸餘である。二二年の輸入貿易界は多數の破算に依つて大損失を蒙つた。破算數は二一年よりも遙かに多かつた。スマラン及スラバヤの裁判所が宣告した破算丈けでも二一年の一三六に對して二六九に上つてゐる。

商標登録に關する現行法令が模倣や偽造の場合に於て正當な有權者に與ふる保護が不充分だと云ふのは永年輸入業者間の苦情であつたが、スラバヤ商業會議所は率先して法的保護擴大の運動を起すに至つた。同様に一般的な租稅政策に對する、就中戰時利得稅に對する反對も、輸出業者との協力に依り、各商業會議所の組織的な運動となつて表れた。運動に最初の刺戟を與へたのはバダンの商業會議所である。苦情の要旨

は既に損失として雲散霧消した帳簿利益に對して戰時利得税の支拂が要求さるゝ點にある。

二二年は農場工業に取つて比較的順調だつたと云はねばならぬ。年初年末の農産物價格を比較すると多くの場合景氣の大改善を來してゐる事を發見する。例へばローカルな爪哇市場の相場を見てもブローケン、オレンヂ、ペコ茶は半斤當り約四十仙の昂騰を示し、ロブスタ珈琲はビクル當り十一盾、護謨は半斤當り十三仙、白糖はビクル當り一盾廿五仙カボックはビクル當り廿五盾の昂騰を示してゐる。

病蟲害は他年と大差が無い。唯珈琲ベツセン、ブブクは外領に於ても亦蔓延を續け未だに徹底的な驅除法が見出されない爲めに、甚だしい憂慮を與へてゐる。

物産市場の低値は栽培業をして極力生産費引下に努めしむるに至つた。そして其効果は見る可きものが多い。五割又はそれ以上の引下は別に珍らしい事でない。勿論此の異常な引下は屢々手入、施肥等を犠牲にして到達された場合が多く、何時迄も押し

通せば遂に生産額に崇らすには置くまい。併し今となつては最早死物狂ひの節約は必要でない。苦心の結果齎らされた生産費の引下は將來外國生産者との競争を容易ならしむる意味に於て有利に影響するであらう。

護謨園茶園の中では年度中營業を短期なり長期なりに亘つて停止せねばならなかつたものも多く、全然閉鎖の止むなきに至つた園も若干ある。

農業銀行 *Cultuurinbank* は全體で四個の茶及護謨園に對して救濟の手を伸べた。土人農業も本年度は同様に好成績を挙げた。コブラの値段は年中略同一線上に在り生産者に取つては有利な方であつた。カボックの收穫は僅少だつたが、價格は恐ろしく高かつた。米及所謂二番作物の收穫は豊富で、値段も良好であり、憂慮する程の病蟲害も發生しなかつた。林産物の値段も亦大體に於て二一年よりも遙かに良好であつた。外領の土人護謨栽培は永い間荒廢に歸してゐたが、最近數箇月の高値で好影響を受け、輸出も大した數字に達した。土人茶又はカムボン茶も高値を生じ、産額は品質

の向下に頓着なく出来るだけ増大された。

工業は、農場工業を暫らく論外とし、既に二一年に於ても成績不良であつた。二二年の成績に至つては前年度よりも一層悪く、利潤の大を誇り得るものは殆んど皆無である。それでも若干の工場は終り數ヶ月に於て僅か乍ら市況の改善した事を報道し、景氣回復の希望を盛んにした。

本年度の思はしくない成績は、殆んど一つの例外も無く、不景氣と、そしてその結果政府を初めとして一般に斷行された經費節限とに歸する事が出来る。特に農場工業に直接間接に依屬する工業と、建築工業と關係あるそれとは、不景氣の壓迫を経験する事最も甚しかつた。従つて多くの機械工場や修繕工場は其事業を極度迄縮少するを餘儀なくされ、中には閉鎖されねばならぬものもあり、事業の合同は益々促進擴大されつゝある。

勞銀引下は大體に故障なく實行される事が出来た。甚しきは引下率二割五分に及ん

だのもある。同盟罷工やロック、アウトは本年度を通じて發生しなかつた。勞力は大體豊富で、時に依り地方的に缺乏を來した丈けである。原料仕入の困難は最早過去に屬した様である。

土人工業に眼を轉すれば先づ指を竹製及びバンダン帽子の輸出増大に屈せねばならぬ。土人は此等の帽子を有利な値段で賣捌いてゐる。爪哇に取つてしかく重大な更紗工業の擧げ得た成績は餘り思はしくなかつた。

國內運輸に於ける運賃の高い事に就ては他方面から盛んな苦情が出た。彼等はそれが爲めに事業の活動範圍が屢々甚しく限局され、外國の競争がかのづから高められる事に不平なのである。例へば人造染料の泗水吧城間の運賃は歐洲吧城間の運賃と殆んど同臺にあるのである。従つて運賃の引下は一般に工業を助くる爲めに必須な條件だと云はれてゐる。又地方的な販路がしかく限局されてゐる昨今、現存の料金規定に依る隣接諸國への輸出不可能は大いなる損害だと云ふ事が若干の工業に依つて痛感され

た。當領の買手が蘭領印度の製品に對して抱く食はず嫌ひの先入主に就ても又多くの苦情が湧いた。併し此の點は漸次改善しつゝある様である。

新工業として特記す可きは製紙工場で、本年度末に運轉を初めた。猶スラバヤ市は鹽素使用の河水殺菌消毒所を建設するに至つた。マンガライの國有鐵道工作場ではマルチン、シーメンズ式鋼鐵鑄造所がその運轉を開始した。

船會社は本年度の成績に就て満足す可き何物をも有たぬ。運賃は思はしくなく、積荷の提供は不充分であり、多數の汽船は繫留を餘儀なくされ、船腹空虚のまゝ航海せねばならぬ場合も屢々で、競争は彌が上にも激烈となる。此等の不運に對して光明點とも云ふ可きは主として燃料價格低落から來た營業費の減少であるが、それは鼎の輕重を左右するには餘りに力弱い要素であつた。外領からの直接荷積送は、増加する一方である。二二年に對する豫想を若干良化するものは年末近くの輸出入の増大である。鐵道及輕鐵の成績も二二年に比べては餘程悪く、不景氣の影響は此等の事業に甚だ

しい痛手を與へた。就中建築材料の輸送は激減し、一方に於て商界の荷動きの不活潑急速に擡頭しつゝある荷物自動車及び客用自動車の競争農園に於ける苦力數の減少等は貨物のみならず乗客の輸送をも著しく減退せしめたのである。

船會社及び倉庫會社に取つても二二年は更に不況で、競争は甚だ激烈だつた。沿岸貿易も同じく香しくない成績であつた。銀行界は年度を通じて信用貸與收縮の政策を續行し、以て力強く健康な状態への復舊に貢献した。古いストックの賣捌が進行し二一年の成績が發表されるにつれて、商事會社の多數が如何に甚だしくその資本と積立金を損失したかが明瞭となつた。これは又銀行に取つて清算を強要するに至らなまでも——清算が強要された場合も若干はある——兎も角信用上の便宜をより一層著實な範圍にまで引き緊める新らしい誘因であつた。輸入業者が二〇年に高値で締結した契約品の取引が終了してゐた爲めに、その關係から來るストックは最早増加する心配も無く、信用の減縮も二一年に對比すればより一層順調に捗り得た。其上銀行が

與へた壓迫に依つて信用貸與は二二年末に於て全般に著しく縮少されてゐた。其間に在つても自己の資力と信用的援助との健全な關係に基づく新らしい依頼は決して拒絶されなかつた。

砂糖業は二〇年のブーム以來の強固な財政状態に依つて銀行の援助を殆んど必要としなかつた。

信用援助の上り多く必要だつたのは高地栽培業である。多數の栽培會社、特に茶園と護謨園とで、その餘りに小さい株券資本を大額の社債に依つて補つてゐたものは、利子の支拂も元金の償却も出來ず、社債権者側で強制競賣の手段に出でたのも屢々であつた。その爲めにエステードが恐ろしい低値で取引され株主は資本を失ひ、時として社債権者も又充分回収し得なかつたこと勿論である。然し其の生存能力を證示した諸園は、運轉資本の供給が潤澤に許されたとは云へないけれども、兎に用援助が拒絶される様な事はなかつた。年度後半に初まつた、特に護謨價及び茶價の昂騰此方將來

に對する見込は餘程有望となつた。

和蘭銀行も蘭領印度に活動してゐる外國銀行も其數に於ては何等の變化も見せなかつた。二二年は銀行業者に取て前年度よりも良好であつた。保險會社は幾多の困難に遭遇した。然し二三年に對する見込は非常に良好だと云へる。二二年は株式賣買に取つて甚だ困難な年であつた。公衆は二〇年及び二一年に蒙つた損失に懲りて冷淡に構へてゐた。取引も従つて僅少だつた。倫敦で發行されるエコノミストの物價指數は二一年十二月に對して四三五七及び二二年十二月に對して四二六四の數字を掲げて居る、即ち九三點の低落である。

本年度の最高點は七月末の四三九六、最低は八月末の四一八九であり、従つて最大差は二〇七點であつた。過去三ヶ年に比べると大變な相違である。二一年は最高數字が一月の五六一七で最低が十二月の四三五七、最大差が一二六〇點、二〇年は最高が三月の八三五二(開關以來の最高數字である)で最低が十二月の五九二四、最大差が二

四二八點、一九九年は最高が十二月の七三六四で最低が三月の五七〇八最大差が一六五六點であつた。だから二二一年に至つて比較的安定な期間が出現したと云へる譯である。既に一年以前に於て戦前のそれと大懸隔のあつた贅澤品と織物価格は更に各七〇點及び七八點二分の一を昂騰し他方に於て食料品は六〇點二分の一、織物は五七點、雜は一二四點を低落してゐる。雜の低落は年度を通じて可成り均分されてゐた。尤も石油、インヂゴ、及び曹達の三品は九月に暴落して此グループの總低落の大半を齎來した。油類菜種類及びタルクは結局に於て殆んど變化が無い。然し材木は同じく低い。織物では鉛と錫が結局の所若干高く、其反對に銅は若干低い。石炭は年度前半に著しく低落した。二二年の後半に甚しかつた鐵と鋼の低落は二二年に至つて餘程緩慢となつた。織物では二二年の異常な暴落後の羊毛の値段上騰や、其他亞麻價の低落、ジュートの騰貴等が最も注意を引く、米棉は結局に於て甚だ高く、年初以來絶へず騰貴した。

物價指數表

基礎(一九二〇—二五年平均)	一九二〇年					一九二一年					一九二二年				
	一月一日	三月末	十二月末	一月	十二月	一月	三月末	十二月末	一月	十二月	一月	三月末	十二月末	一月	十二月
穀物及肉類	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	
其他の食糧及び贅澤品	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
織物	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	
礦物	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	
雜(油、木材、鹽、糖等)	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	
合計	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	

十二月末	八六四	七〇三	一、一〇〇	七〇四	八二一	四、二八三
十二月	八六一	七〇三	一、一〇〇	七〇五	八七五	四、二八四

北米合衆國の物價と爲替の高い多數の歐洲及海外諸國のそれとは年度を通じて著しい相違を見せた。米國の卸賣値段は殆ど繼續的に、そして又蕪り難い程度に騰貴したのであつた。

騰貴の原因は雜多ある。主なるものとしては金の流入、移民、制限から來る勞力缺乏に關連した勞銀の上騰、數多商品のストック減少、各種産業の復活、復活の齎した需要の増大、各種商品價格相互關係の常態への還元傾向、最後に保護政策の影響、就中フオードネイ關稅率の實施等である。亞米利加に於ける物價騰貴は二二年前半にはまだ比較的緩慢な歩調を示してゐたので、その特に擴大急騰したのは年末三ヶ月間のことである。一月乃至八月の八ヶ月間の米國卸賣物價指數は“Bradstreet's Journal”に據れば約五パーセント七の騰貴を示すが年末三ヶ月間の騰貴は約一二パーセント五を示

し年初からの騰貴を總計すれば約一八パーセントとなる。尤も米國卸賣値段の騰貴は既に二一年六月に初つたので二二年後半にも繼續したのであるが英、蘭、瑞、諾及丁抹並びに加奈陀では二一年の後半には猶多少著しい物價の低落を見たので、瑞西でも一時的な騰貴の後矢張り若干後退した事を忘れてはならぬ。

蘭印に於ける生活程度は年内更に低下した。然しその低下は大したものではなく、歐人に取つてよりも寧ろ土人に取つて有意義なものであつた。

食糧品の廉價は、それも主として國內で生産されるものに就てであるが、歐人階級に取つては税金の昂騰に依つてその有難さの大部分を相殺されて了つた。家計上重大な項目である屋賃も低落の兆候が見へ初めたのは漸く年末近くなつてからであつた。

第二章 對外通商關係

第一節 蘭印の貿易關係

本大観締切迄には一九二二年度の必要な資料はまだ入手出来なかつた、従つて以下に掲ぐる蘭領印度の貿易關係の統計は一九二一年迄の資料のみである。そして又此等の資料は特別に斷つて無い限り私人に依る輸出入關係のものばかりである。だから政府勘定の輸出入は含まれてゐない。後者で重要なものは第三章及第四章の當該條項に掲げておいた。又金銀貨及金銀塊の輸出入も特記してない限り全て除外してある。一九一七年乃至一九二一年の蘭領印度貿易の消長は以下の表に明かである。一九二〇年迄のバランスは良好であつた。然し二一年に至つて輸入の價格は輸出のそれを超越し、約四千九百萬盾多かつた。此れは一八八三年以來未だ見なかつた所である。

一九一七年乃至一九二一年の五箇年に於ける輸出入表

輸 入	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
	千盾	千盾	千盾	千盾	千盾
私人勘定					
a、爪哇及マゾラ商品	三二、七五五	三六四、六七二	四三、六七七	八二九、八五三	八〇三、六六六
正 貨	六、八〇七	四、六七四	四〇、二四九	六四、三五五	三、七八

輸 出	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
	千盾	千盾	千盾	千盾	千盾
私人勘定					
a、爪哇及マゾラ商品	四六、六八五	五六七、八〇四	七九三、二三三	一、三〇、八五五	一、二四四、四〇九
正 貨	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
b、外 領 商 品	一、四三五	一、〇一〇	三、九〇四	七、七八八	一五、九九五
正 貨	—	—	—	—	—
政府勘定					
a、爪哇及マゾラ商品	一八、九二六	二七、三六〇	九七、七八八	一〇一、九七五	九九、二四
正 貨	一、六〇〇	三、〇五〇	一、七〇八	二、〇五〇	二、八七三
b、外 領 商 品	—	—	—	—	—
正 貨	—	—	—	—	—
總 計	三三、九六一	三二、四一〇	一一三、四〇一	二九、七六五	二六、九八一
政府勘定	四九六、六八五	五六七、八〇四	七九三、二三三	一、三〇、八五五	一、二四四、四〇九
私人勘定	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
a、爪哇及マゾラ商品	四六、六八五	五六七、八〇四	七九三、二三三	一、三〇、八五五	一、二四四、四〇九
正 貨	六、一七四	六	九八	四、四三三	七五
b、外 領 商 品	三八、七四	三三、四三一	七四八、八二〇	七五、七〇四	五三一、六五〇
正 貨	一三六	一五	三	三	三
政府勘定	七九一、四一〇	六七六、一三三	二、二六三、二四六	二、一六四、七三三	一、二九三、七〇九

蘭領東印度貿易大観

二四

一六、落花生、剝皮
一七、酒 糖
二〇、規 那 皮

〇、五一
〇、四五(立トル)
二、〇七

〇、三〇
〇、二五
一、五〇

爪哇に於ける主要物産で二〇一—二一年に其輸出金額の減少したのは次の如くである

(單位百萬盾)

砂 糖	六三四、九	茶	一五、一
護 謨	三九、六	砂糖殘滓(穀密)	七、八
煙 草	三四、八	皮 革	六、五
椰 子	三三、一	酒 類	五、八
錫 油	一八、七	落 花 生	四、〇
珈 琲	一八、四	タビオカ及サゴ製品	三、八

即ち總差八億四千三百二十萬盾の中八億二千二百五十萬盾に上つてゐる。爪哇及マヅラと外領とが私人勘定の全輸出入に於て如何なる百分率を示すかは次表に明かである。單位は百萬盾である。

輸 入

年 度	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
爪哇及マヅラ	三一、八	三六四、七	四二三、七	八一九、九	八〇三、七
百 分 率	六六、八	六八、八	六六、三	七二、八	七三、五
外 領	一五五、三	一六五、七	二一五、四	三〇六、一	二八九、一
百 分 率	三三、二	三一、二	三三、七	二七、二	二六、五
蘭印總計	四六七、一	五三〇、四	六三九、一	一一二六、〇	一、〇九二、八

輸 出

年 度	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
爪哇及マヅラ	四五七、五	三五三、五	一、四一三、三	一、五〇一、八	六六一、三
百 分 率	五八、二	五二、三	六五、四	六六、六	五五、四
外 領	三二八、六	三二二、四	七四八、八	七五二、二	五三一、七
百 分 率	四一、八	四七、七	三四、六	三三、四	四四、六
蘭印總計	七八六、一	六七五、九	二、一六二、一	二、二五四、〇	一、一九三、〇

上記の數字に見へる通り輸出入に對する爪哇及マヅラの分前は、一七年の輸入と一八及二一年の輸出を除けば全て増騰しつゝある。外領の各州が蘭領印度の對外貿易關係に於て如何なる分前を持つてゐるかを知らる爲めにその金額と百分率を掲ぐれば次の

通りである。(單位千盾)

州名	一九一九		一九二〇		一九二一	
	金額	%	金額	%	金額	%
アツチエ	九、二八六	一・五	二、七三七	〇・五	一〇、五八四	〇・九
スマトラ東海岸	七、二八	二・九	一、九〇、四三五	八・八	二五、九三四	二・三
スマトラ西海岸	一、六四八	〇・三	五、六七四	〇・三	三、四三七	〇・三
スマトラ東海岸	一、五七二	二・四	二、八八	一・〇	三、三〇二	二・八
スマトラ西海岸	一、二二	〇・二	三、四七	一・二	二、六八〇	一・〇
ランボン諸郡	二七五	—	九七七	—	二八八	—
パレムバン	一、六六九	二・六	五、九五八	二・五	二〇、五三三	一・八
シヤム	二、九八一	〇・五	一、五、五六五	〇・七	三、五八七	〇・三
インドラギリ	二、六〇八	〇・四	七、三〇二	〇・三	三、一八六	〇・三
リヨ	一、六〇五	二・五	九〇、八五五	四・二	一四、〇二五	一・二
パシ	五、六七三	〇・九	三、七〇	〇・二	六、〇七五	〇・五
ピリト	四、七五五	〇・八	二、三七九	一・〇	四、九四五	〇・四
ホルネオ西部	二、七二八	一・八	一九、九〇	〇・九	二、八〇八	一・〇
ホルネオ南東部	二四、〇〇三	三・九	二二、一一一	九・八	二九、五〇	二・六
バリ及ロンボク	一、四二一	〇・二	三、三五〇	〇・二	二、三九六	〇・二

セレバス知事州	一八、九七一	三・〇	七〇、二八八	三・三	三、六七五	三・〇	六二、四三二	二・七	三〇、六七四	二・八	三三、五八九	二・七
メナド	四、五九六	〇・七	一一、〇六五	〇・六	九、一八九	〇・八	一三、二八七	〇・六	九、九七六	〇・九	一四、六八〇	一・二
タルナテ	四、五	—	五六四	—	六三〇	〇・一	一、七九	〇・一	八〇三	〇・一	一、三五五	〇・一
アムボイナ	八四〇	〇・一	一、二五四	〇・一	一、二九四	〇・一	一、六五三	〇・一	二、二六四	〇・二	一、四〇〇	〇・一
チモール	二二五	—	一〇六	—	一八	—	九四	—	一八三	—	四六	—
ニユウギニア	一七九	—	三	—	二七	—	四六	—	七一	—	八五	—
計	二四、九六〇	三・六	七四三、四二八	三・四	四、四、六三三	二七・一	七五三、四二一	三三・三	二八八、五九四	二・六	四、四、五三〇	二七・四

更に世界各國の對蘭領印度貿易關係を示せば左表の通りである。

仕出地	一九一九		一九二〇		一九二一	
	金額	%	金額	%	金額	%
和蘭	八三、三五九	—	二六三、〇四九	—	二六九、七四二	—
英國	九〇、八六〇	—	二〇六、〇七〇	—	一四四、三五三	—
獨逸	九五七	—	三六、七四八	—	五六、八五一	—
佛蘭	四、八三〇	—	五、三三一	—	八、八〇一	—
白耳義	—	—	六、三〇二	—	六、六一六	—
伊太利	一、〇三六	—	八、三一九	—	一〇、〇〇九	—
澳、匈、及チエツクスロバキア	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

蘭領東印度貿易大額

瑞	西	四、二二四	四、〇九三
瑞	班	一一四	二七〇
葡	牙	一一三	一六
葡	牙	五三	四七九
丁	抹	四三二	二五二
諾	威	五四一	四、三六四
瑞	典	二、一八一	二六
シ	アラ	二二	四、一〇〇
シ	アラ	二二	一〇八、八一〇
其	他の	—	一、四八六
其	他の	—	三八、七六三
加	奈	四五六	一、四〇七
加	奈	—	一七、九九九
北	米	一三〇、四八七	一三四、四一七
北	米	—	一一、〇〇四
埃	及	一、四〇七	一一、〇〇四
英	領	一六、二〇五	五七、七七四
英	領	—	三六、五七二
海	峽	三九九	—
海	峽	—	—
卑	南	一四、四六八	—
卑	南	—	—
新	嘉	一三二、一九一	—
新	嘉	—	—
暹	羅	九、六〇七	—
暹	羅	—	—
佛	領	二、九五六	—
佛	領	—	—
香	港	二〇、三五五	—
香	港	—	—

支	那	五、〇五三	一一、四四九	一〇、七九一
大	連	八一五	三、六五五	一〇、八八四
日	本	七七、〇七五	一三四、一三七	八六、〇九五
比	律	一、三五九	一、〇三一	七八五
比	律	—	—	—
英	領	一、一五六	九、七九〇	六、一三二
英	領	—	—	—
葡	萄	六〇二	一、六八二	一、四二二
葡	萄	—	—	—
濠	洲	三一、七四五	三五、九六九	三八、一五〇
英	領	一一三	三五九	一四
英	領	—	—	—
其	他	五、五三二	三、二六六	五、一二八
其	他	—	—	—
計		六三八、〇五六	一、一一六、二一三	一、〇七七、八五四
計		—	—	—
ベ	ン	—	—	一、〇一九
ベ	ン	—	—	—
一	〇	—	—	一、〇七八、八七三

(一) サラワク及英領北ホルネオを含む、(二) タスマニア、ニウジラランド及南洋に於ける濠洲領の諸島を含む、但しニュウギニア、其附屬諸島並びにココス及タリスマス群島を除く。

輸出

仕	向	地	一九一九	一九二〇	一九二一
和	蘭	千盾	三五一、〇三七	三五四、四七四	二一四、一六九
英	國	千盾	二三五、八〇九	一四三、五六三	五一、八一三

第二章 對外通商關係

蘭領東印度貿易大額

獨逸	一〇、一四七	八、二一九	一四、一六九
佛蘭西	六三、四五二	二〇、七九四	一七、〇五一
白耳義	二〇、三五〇	一六、三八四	七九七
伊太利	一一、二八八	二七、八六一	一七、八五六
埃匈及チエツクスロバキア			三一〇
瑞西	三、〇八〇	一	八二
四班牙	六、五九三	三、〇七八	一、二四一
葡牙	一八、六五七	七一二	二六六
丁茶	五四、五五二	七、四四二	九、二九〇
諾威	二〇、〇八四	二九、二五二	八四七
瑞典	一一、三三四	二〇、九五八	三五八
シアラタル及マルタ	一三、七四二	三六、九四五	四五、〇七〇
其他の歐洲諸國	六、八四〇	一一、七四七	八、二三五
加陀	一九〇、九二六	三、六三一	一、三二九
北米合衆國	一〇九、九四七	二九七、六七五	七〇、四〇九
埃及(スエズfor order及ポートサイドfor orderを含む)	一九〇、一六五	二七二、四三八	三七、七七四
英領印度(ボンダイチエリを含む)	一〇、七七一	二一六、七二七	一八四、五一〇
海峽植民地(卑南及新嘉坡を除く)	二三、五一五	一九、二七三	六、九四六
卑南			一三、九二三

新嘉坡	三二一、四六〇	三〇二、一五二	一〇八、四四六
暹羅	六、四九三	五、六〇三	四、五〇八
佛領印度支那	三、九二〇	五、七四四	三、五〇二
香港	一二五、六二五	一三五、八七〇	一一一、四三二
支那	三〇、六三六	三一、五三六	二六、九六七
大連、朝鮮及浦鹽新徳	四、一四八	一四八	二、〇八四
日本(臺灣を含む)	一八〇、八七五	一四〇、〇一四	一〇九、〇八八
比律賓	一〇、九二四	五、六〇八	四、一六二
英領ホルネオ(一)	四二八	五七五	六七〇
葡萄牙領チモール	三〇八	四七四	三七四
英領南亞弗利加	八二、三七九	一〇一、五八八	二九、七一六
其他の諸國	五、八八七	五、四八三	五、三一〇
計	一四、九四一	一七、二六六	一三、九九六
ベンカリス自由港の輸出	二、二四一、三三三	二、二五三、九九二	一、二八八、七〇〇
			一二九
			一、二八八、八二九

(一) サラワク及英領北ホルネオを含む、(二) タスマニヤ、ニュージラランド及び南洋に於ける濠洲領諸島を含む、但しニウギニア、其附屬諸島並にココス及クリスマス群島を除く。

上記の數字に明かな如く和蘭はなほ常に蘭領印度の貿易に於て尤も主要な仕向地也

るのみならず又最も主要な仕出地としての位置を占めてゐる。二一年に於て一億盾以上の輸入があつたのは和蘭、英國、新嘉坡、及北米からで、一億以上の輸出を見たのは和蘭、英領印度、新嘉坡、香港及日本に對してである。新嘉坡の蘭領印度に對する重要さは上記の數字に於て尤も明瞭に表れる。近年新嘉坡經由の貿易を爪哇諸港經由又は其他の蘭印諸港經由のそれに依つて取つて代らしめんとした全ての計畫は何等の成功をも收め得なかつた。以上の資料を更に百分率に直して見れば次の如くである。参考の爲め戦争前最後の年である一九一三年の數字をも附け加へる。

仕出地		輸入	
和蘭	一九一三 三三、二%	一九一九 一三、一%	一九二〇 二三、四%
英國	一七、五	一四、二	一八、三
新嘉坡	一五、五	二〇、七	一、二一
北米	二、一	二〇、四	一四、五
日本	一、六	一、一	一、九
和蘭	一九一三 一九、三%	一九二〇 一九、二%	一九二一 一九、二%
英國	一七、五	一八、三	一三、二
新嘉坡	一五、五	二〇、七	一、二一
北米	二、一	二〇、四	一四、五
日本	一、六	一、一	一、九

仕向地		輸出	
支那及香港	三、八	四、〇	三、五
英領印度	五、二	二、五	一、六
歐洲	二、四	五、〇	三、二
瑞典及諸國	〇、八	〇、四	〇、八
佛蘭西	〇、四	〇、八	〇、五
白耳義	一、〇	〇、六	〇、六
伊太利	一、〇	〇、二	〇、七
比律賓	〇、六	〇、二	〇、一
暹羅及印度支那	〇、六	二、〇	一、八
獨逸	六、六	〇、二	三、三
和蘭	一九一三 二七、八%	一九一九 一六、二%	一九二〇 一五、七%
新嘉坡	一七、七	一四、九	一三、四
英國	三、九	一〇、九	六、三
北米	二、一	八、八	一三、二
英領印度	一四、三	八、八	九、六
日本	五、八	八、四	六、二
支那及香港	一九一三 三、八%	一九一九 四、〇%	一九二〇 三、五%
英領印度	五、二	二、五	一、六
歐洲	二、四	五、〇	三、二
瑞典及諸國	〇、八	〇、四	〇、八
佛蘭西	〇、四	〇、八	〇、五
白耳義	一、〇	〇、六	〇、六
伊太利	一、〇	〇、二	〇、七
比律賓	〇、六	〇、二	〇、一
暹羅及印度支那	〇、六	二、〇	一、八
獨逸	六、六	〇、二	三、三
和蘭	一九一三 一九、三%	一九一九 一九、二%	一九二〇 一九、二%
英國	一七、五	一八、三	一三、二
新嘉坡	一五、五	二〇、七	一、二一
北米	二、一	二〇、四	一四、五
英領印度	一四、三	八、八	九、六
日本	五、八	八、四	六、二

蘭領東印度貿易大觀

品名	一九一三	一九一九	一九二〇	一九二一
支那及香港	八、四	七、二	七、四	一、一、六
濠洲	二、一	三、八	四、五	二、五
瑞典及諾威	—	三、五	二、二	一、一
佛蘭西	四、三	二、九	〇、九	一、四
白耳義	〇、五	〇、九	〇、七	〇、一
丁抹	〇、一	〇、九	〇、三	〇、八
伊太利	〇、四	〇、六	一、二	一、五
比律賓	〇、一	〇、五	〇、二	〇、四
暹羅及印度支那	〇、五	〇、五	〇、五	〇、七
獨逸	二、三	〇、五	〇、四	一、二

更に輸出入品の内容に立ち入つて、一九一二年間に於ける主要商品の輸出入價格を掲ぐれば左記の通りである。比較の爲め一九一三年をも併記する。

品名	一九一三	一九一九	一九二〇	一九二一
陶器	五、九七七、〇〇〇	四、九七五、〇〇〇	八、六九七、〇〇〇	九、八〇八、〇〇〇
ビスケット	二、五〇一、〇〇〇	二、五二一、〇〇〇	五、四四五、〇〇〇	二、九三三、〇〇〇
パタ	二、九八二、〇〇〇	四、七七三、〇〇〇	八、七四四、〇〇〇	七、八八七、〇〇〇

品名	一九一三	一九一九	一九二〇	一九二一
セメント	三、九一五、〇〇〇	四、一〇七、〇〇〇	一七、一六二、〇〇〇	一〇、五六五、〇〇〇
化學藥品	五、三八四、〇〇〇	六、四四五、〇〇〇	九、二四九、〇〇〇	五、二〇八、〇〇〇
糸類	八、三八一、〇〇〇	五、三七四、〇〇〇	一一、二六九、〇〇〇	一四、三八三、〇〇〇
織物	一〇〇、五三七、〇〇〇	一三〇、一三三、〇〇〇	三〇八、五六八、〇〇〇	一三三、四五三、〇〇〇
小麦	五、八五七、〇〇〇	九、二〇五、〇〇〇	一〇、〇三六、〇〇〇	一五、九九九、〇〇〇
小麦間	六、一一五、〇〇〇	五、七六〇、〇〇〇	一〇、七五三、〇〇〇	一〇、一九九、〇〇〇
牛乳	二、四三三、〇〇〇	六、六三九、〇〇〇	五、五二六、〇〇〇	七、八九〇、〇〇〇
肥料	一一、八七一、〇〇〇	一六、九三四、〇〇〇	四八、三四三、〇〇〇	二二、三三七、〇〇〇
紙	五、〇七五、〇〇〇	一〇、三四〇、〇〇〇	一八、九六六、〇〇〇	一三、七三〇、〇〇〇
米	五五、七〇三、〇〇〇	二九、三七九、〇〇〇	八八、八八〇、〇〇〇	一一四、一六五、〇〇〇
葉卷及紙卷煙草	三、三三〇、〇〇一	四九、二三〇、〇〇〇	三三、二七九、〇〇〇	二八、七九三、〇〇〇
塗料	三、九七五、〇〇〇	四、九六五、〇〇〇	一一、〇〇四、〇〇〇	九、七九二、〇〇〇
鐵製品及鋼製品	四〇、七七七、〇〇一	一〇九、六五〇、〇〇〇	一一四、〇一〇、〇〇〇	一一三、八八〇、〇〇一
機械	—	—	—	—
砂糖及糖密	一九一三	一九一九	一九二〇	一九二一
煙草	一五、六〇〇、〇〇〇	七五九、〇〇〇、〇〇〇	一、〇六〇、七三三、〇〇〇	四一五、八九七、〇〇〇
草	九二、一三五、〇〇〇	一三三、〇四〇、〇〇〇	一七〇、三三三、〇〇〇	九一、七七七、〇〇〇

第二章 對外通商關係

關領東印度貿易大觀

コ	五五、〇一六、〇〇〇	二四、五九〇、〇〇〇	九二、八四七、〇〇〇	一七、三三三、〇〇〇
護謨及グタペルチヤ	二六、一三八、〇〇〇	二六、〇三七、〇〇〇	一九九、八〇八、〇〇〇	六九、二七一、〇〇〇
錫	六、〇〇〇、〇〇〇	六七、四七五、〇〇〇	六四、七四一、〇〇〇	三九、二二三、〇〇〇
油(精油及脂油)	一、三三三、〇〇〇	七七、二四六、〇〇〇	七三、五四五、〇〇〇	二六、五四三、〇〇〇
珈琲	二〇、三三七、〇〇〇	一九、七九九、〇〇〇	五〇、九八〇、〇〇〇	二六、七五四、〇〇〇
茶	二、五四三、〇〇〇	四八、七七七、〇〇〇	三九、五三六、〇〇〇	三、〇一六、〇〇〇
織維(各種)	三三、〇三三、〇〇〇	二四、七九六、〇〇〇	二六、二三五、〇〇〇	一七、五二〇、〇〇〇
規尼濕	一、四三三、〇〇〇	三二、九〇〇、〇〇〇	一八、三三九、〇〇〇	一五、七六六、〇〇〇
タヒオカ及サゴ	九、九三三、〇〇〇	三二、〇〇五、〇〇〇	一六、一三三、〇〇〇	一一、五〇〇、〇〇〇
胡椒	一〇、三三五、〇〇〇	三三、六一二、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇	一五、三〇〇、〇〇〇
皮那	九、三二八、〇〇〇	一七、一〇三、〇〇〇	一三、三八二、〇〇〇	五、三九八、〇〇〇
規那	四、三六九、〇〇〇	五、五三〇、〇〇〇	九、五九四、〇〇〇	八、六八四、〇〇〇
ダマ	二、七九五、〇〇〇	一〇、三三五、〇〇〇	六、八四二、〇〇〇	二、二一六、〇〇〇
含油種子	一、五四一、〇〇〇	三、五五八、〇〇〇	三、四三二、〇〇〇	一、六九三、〇〇〇
チロク材	二、二四八、〇〇〇	三九八、〇〇〇	一、七五、〇〇〇	一四三、〇〇〇

一九二一年に於ける爪哇及マヅラの主要商品二十種の輸出數量を擧ぐれば、

一、砂 糖 一、六七七、一七 七四・四九 二、砂糖殘滓(糖密) 一一九、五五 五・三〇
 百萬噸全體に對す 又は立る百分率
 百萬噸全體に對す 又は立る百分率

上記の中二〇年に比較して減少したのは左記の通りである。

三、コ	九四、〇七	四、一七	三、錫	一三、五五
四、タヒオカ及サゴ製品	八一、一〇	三、六〇	高、サイザル麻	一一、五〇
五、煙草	三一、四〇	一、三九	油	一一、六〇
六、茶	三一、三〇	一、三九	共、落花生	一一、四〇
七、珈琲	三〇、八〇	一、三七	七、酒	八、〇〇
八、椰子	三〇、三三	一、三五	大、檳榔子	六、八〇
九、護謨	二九、三三	一、三〇	共、液體燃料(石油)	六、五五
十、カボツク	一七、六〇	—	計	—
十一、胡椒及キユウベツア	一七、二〇	—	規那、規尼濕及キノイリン	六、〇〇
十二、含油種子	一五、六〇	—	計	—

減少額(單位千噸)

減少額(單位千噸)

- 一、煙草 七一、八
- 二、砂糖殘滓(糖密) 五七、〇
- 三、油 四七、六
- 四、椰子 三三、六(立噸)
- 五、液體燃料(石油) 二四、一(同)
- 六、珈琲 一三、〇
- 七、茶 七、
- 八、酒 八、
- 九、落花生 九、
- 十、サイザル麻 三、六
- 十一、護謨 二、〇

又量に於て二〇年と比較し増加したるものは左記の通りである。

- 一、砂 増加額(單位千噸) 一六三、三
- 二、コ 増加額(單位千噸) 四四、五
- 三、胡椒及キユウベツア 増加額(單位千噸) 七、九
- 四、タビオカ及サゴ製品 増加額(單位千噸) 五、四

即ち砂糖は一九二一年に於て二〇年と比較し、六億三千四百九十萬盾少い輸出價格であつたがその數量に於ては前年度よりも十六萬三千三百噸多く輸出されたのである。左記は蘭領印度の主要諸外國に對する輸出入の明細である。

和蘭よりの輸入

品目	單位	一九一九		一九二〇		一九二一	
		數量	價格千盾	數量	價格千盾	數量	價格千盾
陶器	千立	一、四四四	八二	一、〇六一	一、八三七	—	二、三三三
麥	千立	—	—	五、三三三	四、八五二	—	四、〇〇九
セメント	千立	—	—	—	—	—	—
印刷物	千噸	〇、四四三	五	三	二二	六九	九九五
食料品	千噸	—	—	—	—	—	—
同 天然バター	千立	二、三三	一四六	三、五三	五七	—	—
同 天然バター	千立	—	—	—	—	—	—
銅葉及板	千立	一、三九九	二、五六八	一、二八二	三、二五二	一、〇三九	一、八六二
銅業及板	千立	九	一九	二五四	五八二	二〇九	三〇九

品目	單位	一九一九		一九二〇		一九二一	
		數量	價格千盾	數量	價格千盾	數量	價格千盾
銅線	同	—	—	—	—	—	—
小間物	同	—	—	—	—	—	—
機械及器具	同	—	—	—	—	—	—
電氣機械	同	—	—	—	—	—	—
砂糖工場用機械器具	同	—	—	—	—	—	—
織物	同	—	—	—	—	—	—
同 木綿、未漂白粗布	千疋	八七六	一、九五	二、〇六二	七、四〇四	一、三五八	三、九五八
同 漂白	同	二、六八一	九、一四三	六、八三三	四一、五一	八、〇〇一	三六、五七
同 染料又は捺染物、サロン、カイン、スレンダン、頭布	同	五〇二	二、七六八	一、一五三	九、〇八七	一、二二〇	八、二七三
同 其他の染料又は捺染物	同	七六五	三、三六六	三、四八六	二四、四八三	三、三三九	一六、二九
同 羊毛及半羊毛	同	—	—	—	—	—	—
同 衣服各種	同	—	—	—	—	—	—
牛乳、煉乳	同	—	—	—	—	—	—
同 消毒	同	—	—	—	—	—	—
同 肥料、硫安	千立	四三六	二、五三	六三六	四二〇	七〇四	四、六五
亞麻仁油	千立	六六〇	二、四六	一、四一六	四、四一〇	四、四一〇	一、三六七
紙及紙製品	千立	五七六	五、六四	三、〇三三	四、四七	四、四一〇	一、三六七
自轉車、普通	千立	—	—	—	—	—	—

蘭領東印度貿易大觀

業卷煙草	千疋	一六二	二、七五三	一八九	三、二〇八	一五六	二、六四五
紙卷煙草	同	六	二、四	七	二、三六	三五	一九一
鐵道材料	同	一、四〇九	二、四〇九	二、九〇三	六、二四一	一	七、八二六
塗及鋼料	同	二、二四五	二、二四五	六、二四一	六、二四一	一	四、九六四
鐵業及板	千疋	九四六	三八八	二、〇三二	九、四二九	三四、七八七	九、〇四五
亞鉛引屈根鐵及溝鐵	同	一、三五	八二	一、二六五	七〇一	一、五二〇	六〇一
鐵管、筒	同	二	二二	二、四三三	七、三四七	二五、九〇六	九、〇六七
鐵線及鋼線	同	五	一	一、二〇	五四八	六〇七	二七九
硫酸、粗及精製	同	一九二	一九二	一、一〇六	一、一〇六	二、二六九	四七八
石鹼	同	七五六	九三七	一、五九四	九七六	六七七	三九三

和蘭への輸出

品目	單位	數量	一九一九 價格千盾	數量	一九二〇 價格千盾	數量	一九二一 價格千盾
落花生	千疋	一九八三	一、二二〇	九六七	七九三	一、三三一	八六五
カカオ	同	一、〇八三	一、三五四	六四〇	八六四	六〇七	四三七
護謨	同	六、七九五	一六、七三三	五、三三三	三、六六二	一〇、四七四	九、七四〇
コバ	同	一、二二九	二、三六	一、五五〇	五八九	六八九	一六五
コブ	同	一、四九、二六三	五、七二七	八、二〇八	四、九八六	一、三二、五〇一	三、一〇〇
ダマ	同	一、二六三	一、二四九	一、一八八	八四四	一、〇五七	四二二
肉荳蔻皮	同	一七	二〇	二三八	二五七	一七七	二〇〇
アラブ酒	千立	六四	四九一	一、六四八	九八九	一、一八三	六六三
酒	同	六〇六	一九	四、六九九	二、二五	二、〇四四	五二一
グタベルチヤ	千疋	三三	六	二二	四二	一	一
帽子、竹製	千個	一〇	三	三四	一四	一	一
同其他土人製	同	九八九	三六	四二六	二八	七	二
皮	千疋	七二	二〇	二七	二四	一	一
肉桂	同	五、七〇八	五、八七一	二、五八九	三、九八七	一、五八八	一、一五九
カシヤベ	同	三三	八	六	二	八	二
規那皮	同	一、〇三三	八八	一、四八二	七八六	一八一	七六
規那皮	同	六九六	七〇	三、四九九	七、一六一	四、二四	六、一七一
珈琲剝皮	同	二〇三	一〇、二二三	二〇	一、一九二	一四八	八、七四七
肉荳蔻	同	四三、三六	四、一三六	二八、六七六	二、二五七	一八、〇二八	一〇、六一五
丁香	同	五四	三〇	七二	六〇八	七五	六〇五
精油、シトロネラ	同	一三五	二三八	三	五五	八	一三
精油、シトロネラ	同	二二	六五	二四	六三	三	二六

第二章 對外通商關係

蘭領東印度貿易大觀

織物	木綿、未漂白粗布	千疋	一、五六九	三、七八〇	三、六六七	一四、四四八	一、三二七	四、二九八
同	同 漂白	同	四、二六一	一五、二六八	六、八〇三	三九、四九二	五、〇〇二	二、五〇一
同	同 染物又は捺染物	同	三、五六〇	二四、八七六	七、一〇六	六〇、〇三八	五、九七二	四三、一六八
羊毛及半羊毛	羊毛及半羊毛	同	三二	四四一	一三四	一、四二七	五八	六〇五
衣服	肥料、硫酸	同	八八	九一四	三五九	三、八六四	一一七	一、〇三六
裝飾品	裝飾品	同	一四、二七三	四、七七七	三〇、三四八	一〇、〇一五	二六、三〇四	八、一五四
裁縫機械	裁縫機械	千臺	三〇	一、三六三	三〇	一、三六〇	—	一、一六四
紙及紙製品	紙及紙製品	千噸	七	三五四	—	九五八	三	一、四〇四
葉卷及紙卷煙草	葉卷及紙卷煙草	千噸	—	一、五三二	—	一、三五六	—	七三二
石炭及コークス	石炭及コークス	千噸	二四	九四〇	二二〇	二九〇	七〇	二、六三三

四四

英國への輸出

塗料	鐵及鋼	鐵棒、葉及板	鐵管、筒	亞鉛引屋根鐵及溝鐵	石鹼	落花生	護謨野生又はエフテート産	コブラ	ダマラ	ガムピル	規那皮	規那皮	珈琲剝皮	脂肪性油、椰子油	胡椒、白
單位	千疋	同	同	同	同	千疋	同	同	同	同	同	同	同	千立	千疋
數量	三、〇一七	一、八四三	二	二	六、四四二	一九〇七	二二、二四五	九、四四二	九、九二	一、〇〇五	二、三三三	二、三三三	四、一三〇	一、〇四八	一、二〇七
價格千盾	一、二三七	一、三三五	一三	二、〇七四	二、四四八	七四八	二九、二四四	二、四四八	九〇三	五〇三	二、三五九	八、二四二	三、九六一	九一七	一、五三五
數量	八、四〇五	三、一六六	一四、二八六	—	七、四三六	一、五七二	一三、〇〇三	九〇〇	九、五五	六四三	一〇二	二、八〇八	一九、六七八	三四九	—
價格千盾	三、三六二	一、八六八	七、八六九	三、六〇〇	三、七八八	七三二	二七、八二七	六三九	五三九	一、三三一	六、〇四六	二、二五八	一五、一五二	三六六	—
數量	二、七三二	一、五九七	三、九四九	—	四、一〇五	一、二六二	二二、二六二	四、六九	二、四三四	五三〇	一三	七八	一五、四五二	九四	—
價格千盾	七二〇	五五九	一、五八一	三、五五三	一、一四九	三七六	一一、四〇四	一八八	一、三三九	七九五	七四五	四二	八、一九〇	八〇	—

第二章 對外通商關係

四五

蘭領東印度貿易大觀

胡椒、黑
胡 糖
藤 糖
砂 糖
同 粉
同 片
同 粒
茶
錫

獨逸よりの輸入

品目
自動車
自動車タイヤ
麥酒
セメント樽詰
藥品
銅線
小間物

品目	單位	數量	價格千盾	數量	價格千盾	數量	價格千盾
胡椒、黑	千疋	四、九八六	三、五四〇	四〇八	二二六	九三	三九
胡 糖	同	九五三	一五七	一、七八九	三四〇	一、二六	二四
藤 糖	同	三三、六三四	八七、一七六	五、二一〇	五、三四七	一〇、二八九	二、五七二
砂 糖	同	一六、一四六	三、四七一	一八、八三四	三、三八八	一七、〇六四	二、〇四八
同 粉	同	五、六七九	一、四七六	二、四四六	五八七	四、〇九三	七三七
同 片	同	三、四四九	一、一〇四	二、七〇三	七〇三	四、四七八	八〇六
同 粒	同	一四、一六三	三、七〇六	一五、四三二	三、二四八	九、五六八	六、一九七
茶	同	二、五七〇	七、〇六八	四、二〇五	二、五五一	六、三七八	二、七三五
錫	同						
自動車	千臺						
自動車タイヤ	千個	〇、〇六五	二	〇、一三三	七四八	〇、二四一	一、六八〇
麥酒	千立			六	三六五	二	四六九
セメント樽詰	千樽			一、八七八	一、六七三	三、〇一九	二、六三五
藥品	千疋			四	七二	六〇	八七四
銅線	千疋				二六六		二九五
小間物	千疋			四	一一	二六九	四七六

欄械及器具
發動機
其他の電氣機械
電氣器具
砂糖工場用
欄械用器具
農業用器具
手工用器具
織物、衣服
及物類
肥料、磷酸及過磷酸
同 硫酸安
紙及紙製品
香水及化粧品
自轉車、普通及自動
鐵道材料
時計
塗染料、アリザリン
同 アニリン

品目	單位	數量	價格千盾	數量	價格千盾	數量	價格千盾
欄械及器具	千疋						
發動機	千臺						
其他の電氣機械	千個						
電氣器具	千疋						
砂糖工場用	千疋						
欄械用器具	千疋						
農業用器具	千疋						
手工用器具	千疋						
織物、衣服	千疋						
及物類	千疋						
肥料、磷酸及過磷酸	千疋						
同 硫酸安	千疋						
紙及紙製品	千疋						
香水及化粧品	千疋						
自轉車、普通及自動	千臺						
鐵道材料	千臺						
時計	千疋						
塗染料、アリザリン	千疋						
同 アニリン	千疋						

第二章 對外通商關係

蘭領東印貿易大觀

五二

品名	單位	數量	一九一九年價格千盾	一九二〇年數量	一九二〇年價格千盾	一九二一年數量	一九二一年價格千盾
樹脂	千疋	二,三六五	一,三〇五	五,七六三	二,六五一	四,一九八	一,五九五
機械及器具	同	—	七七七	—	六二二	—	六六六
發動機	千疋	—	—	—	—	—	—
機械用器具	同	—	三,四三九	—	—	—	—
手工用器具	同	—	四,一八五	—	—	—	—
布(模造革)	同	—	二,一四七	—	—	—	—
鐵及鋼	同	一七三	二,一四七	—	—	—	—
棒、葉、板	同	—	—	—	—	—	—
鐵管、筒	同	—	—	—	—	—	—
レール及鐵道關接部	同	—	—	—	—	—	—
鐵製品、釘及線釘	同	—	—	—	—	—	—
其他の鐵及鋼、鐵及鋼製品	同	—	—	—	—	—	—
石油、液體燃料	千立	四,三三〇	三六八	五,六三三	五六二	一三,一八一	八三三
石油產物、パラフィン	千疋	二,五二八	一,五五五	一,八八六	一,五四六	四,七三二	三,一〇二

北米合衆國への輸出

品名	單位	數量	一九一九年價格千盾	一九二〇年數量	一九二〇年價格千盾	一九二一年數量	一九二一年價格千盾
コブラ	同	三三,五五六	七九,八二六	二二,二四三	四七,六〇一	一六,四七六	二四,六二七
珈琲、剝皮	同	七,八四一	二,九八〇	五,七九四	二,九五五	七,八四八	二,一九八
油、椰子油	同	四,八二四	六,八九六	二,九八七	五,〇三九	一,七二九	二,三〇二
胡椒、白及黒	千立	二九,六三三	二九,二二三	九,三八二	八,六二九	五,九〇九	四,七四五
タバコ	千疋	七,三七七	五,六六六	二,〇四三	一,三八〇	一〇,二八一	四,四〇一
茶	同	四四,〇三〇	九,四六四	三〇,五五三	五,四六四	一八,〇三七	二,一六三
纖維、カボツク	同	二,六六二	二,二八七	三,四七一	二,八七七	三,一〇五	一,七八五
サイザル麻	同	九,〇三九	七,三三〇	五,五四一	六,二六六	一〇,〇七八	八,七六八
其他	同	—	—	—	—	—	—

香港よりの輸入

品名	單位	數量	一九一九年價格千盾	一九二〇年數量	一九二〇年價格千盾	一九二一年數量	一九二一年價格千盾
セメント、樽詰	千樽	四八	四九九	二〇九	三,七六八	七〇	一,〇一四
食料品、大豆	千疋	八八〇	八八	四,五九九	九三	八,〇三二	一,五二〇
同、細粉	同	二〇	二五	二,三〇三	四八四	六,四二八	二,二一七
藥品	同	—	—	—	—	—	—

第二章 對外通商關係

五三

蘭領東印度貿易大觀

五四

品目	單位	一九一九		一九二〇		一九二一	
		數量	價格千盾	數量	價格千盾	數量	價格千盾
樹脂	千庇	三、二六九	一、八六九	二、〇六六	九六〇	一、八三一	六六六
衣服	同	—	—	—	六二〇	—	七〇九
小間物	同	—	—	—	七七一	—	六二〇
織物	同	—	—	—	—	—	—
木綿、漂白	千庇	三三〇	九三八	五〇五	二、四二七	三二二	一、〇五〇
絹及半絹	同	五	九八九	七	一、六五	一九六	三、五三三
木綿、染物又は捺染物	同	一五九	五二六	七〇二	三、二五八	七五六	二、四二八
裝飾品	同	—	—	—	—	—	—
紙及紙製品	同	—	—	—	—	—	—
米、穀	千庇	—	—	—	—	—	—
紙卷煙草	同	四〇八	八、一五九	四三三	一、七六	八、九〇三	一、三三三
刻煙草	同	二六四	四四	二六	五五五	—	—
花粗製	同	—	—	—	—	—	—
絹、粗製	千庇	二〇	三三八	二五	三六一	三	一、四一五
石油、液體燃料	千立	七五、九四	六、七九五	六七、七五七	六、七六六	一〇三、六〇一	七、一八二

香港への輸出

品目	單位	一九一九		一九二〇		一九二一	
		數量	價格千盾	數量	價格千盾	數量	價格千盾
石油產物	千立	七五、七七	一四、一五五	五二、三八三	八、七五	四三、六五五	六、五四八
燈火用石油	同	三八三	一〇三	一、二四三	三二一	二、四六二	五六六
パラフィン	千庇	一、七五	九六九	一、三二二	一、〇七六	三、二八二	二、一三四
蠟燭	同	二四四	二二二	二六三	三四〇	五四九	四三九
籐	同	五、六六	九三〇	七、四二四	一、四二	四、三三〇	八二二
酒	千立	五、〇九	一、一七二	三、五九二	一、六一六	一、六一二	四〇五
砂糖	千庇	三三、七九	九〇、三二二	一六七、六四八	一〇九、九五八	三七一、三七九	九〇、三五五
糖蜜	同	三二、三九九	二、〇五九	二五、六〇二	一、五三六	二七、七五九	五八四
煙草、葉、テリヤク煙草	同	四八	七四	四一	二四四	八八	五〇〇
タバコ粉	同	一、六〇二	三四五	二、四一九	四三三	二、三七九	二八五

英領印度よりの輸入

品目	單位	一九一九		一九二〇		一九二一	
		數量	價格千盾	數量	價格千盾	數量	價格千盾
石油、原油	千立	—	—	—	—	—	—
絲類、織物用	千庇	五二	七四	八五	一六三	一八七	六九四
同シロト(ガンニ)	同	三三二	一四〇	二八一	一五	五二七	三二二
肥料、硫安	同	一、〇三	八〇五	三、七八五	一、二四九	一、〇三三	三三〇

第二章 對外通商關係

五五

蘭領東印度貿易大觀

米、脱穀
袋、アギル以外

同 同
八六六 一五五
| 二、二五

同 同
| 三
| 一三、一〇一

同 同
| 九三、三八
| 一八、八五五

五六

英領印度への輸出

品目
石油、液體燃料
同ベンゼン
規那皮
規涅皮
酒
砂糖

品目	單位	一九一九 數量 價格千盾	一九二〇 數量 價格千盾	一九二一 數量 價格千盾
石油、液體燃料	千立	一三三、五七七	一六九、二〇二	七〇、二七四
同ベンゼン	同	一〇、七七七	二、八九六	四、九二二
規那皮	千疋	二二	三、四五五	六、二二八
規涅皮	同	七四	元	一、五三〇
酒	千立	一、七二〇	三、九一〇	三、五
砂糖	千疋	三、四二八	一、七六〇	二、〇四九
		一、八八〇、〇八	一、八三、九二八	二、八〇三
		二、六四、六六二	一、八三、九二八	一、六八、〇六一

日本よりの輸入

品目
陶器、皿
同、コップ及小皿
自動車タイヤ

品目	單位	一九一九 數量 價格千盾	一九二〇 數量 價格千盾	一九二一 數量 價格千盾
陶器、皿	千打	四三	六三六	八〇七
同、コップ及小皿	同	一七	四〇四	七七
自動車タイヤ	千個	一〇〇	八六	八五

麥酒、瓶詰
セメント、樽詰
絲類、木綿
同其他
硝子製品、ラムプホヤ
同硝子瓶
其他の硝子製品
木材及木材製品
大豆
衣服
小問物
織物、木綿
未漂白粗布
漂白
染料又は捺染物
肥料、磷酸及過磷酸

品目	單位	一九一九 數量 價格千盾	一九二〇 數量 價格千盾	一九二一 數量 價格千盾
麥酒、瓶詰	千立	三、五三二	二、四九二	一、五三二
セメント、樽詰	千樽	二三四	二、四三三	二、八〇
絲類、木綿			三三三	一、一五四
同其他			二六	二八
硝子製品、ラムプホヤ	千打	五五一	五八八	四二二
同硝子瓶	同	二二	八二	三二二
其他の硝子製品			九三	九九
木材及木材製品			二、二五	九九三
大豆	千疋	九六六	九七	二、六六二
衣服			二、七三六	三、四
小問物			二、一三	三、四四
織物、木綿	チケロス箱	三、二六一	三、八〇〇	五、〇三三
未漂白粗布	千疋	四、三〇三	九、四七三	二、一八〇
漂白	同	一、七三三	四、〇六九	二、四、〇三九
染料又は捺染物	同	二、九八四	一〇、六四一	一〇、九七七
肥料、磷酸及過磷酸	同	一、七三三	七三三	三、一〇五〇

同 硫酸安母尼亞
同 其他
裝飾品
紙及紙製品
自轉車タイヤ
紙卷煙草
石炭及コークス
茶
鐵及鋼鐵及鋼製品各種

日本への輸出

品目	單位	數量	一九一九 價格千盾	數量	一九二〇 價格千盾	數量	一九二一 價格千盾
石油、液體燃料	千立	一九、二三四	四、七二一	二四、四七六	四、三三一	三三、五三四	五、三三九
石油產物	同	四、七八三	一、二九一	二〇、二六四	五、〇六六	一五、三三〇	三、五三〇
燈火用石油	同	四、八〇〇	二、九七一	七、三八八	六、〇九八	七、二一〇	四、六二八
ベレンヂン	同	三、七四八	一、四三四	二三四	一一四	二、七三四	七、五二
パラフィン	同	—	—	—	—	—	—
コブラ	同	—	—	—	—	—	—
石油產物	千立	二〇七、二八二	九、一一〇	八、一〇〇	八、一〇〇	三三、七七七	二、一九六一
燈火用石油	同	—	—	—	—	—	—

錫砂 規那度
同 同

新嘉坡よりの輸入

品目	單位	數量	一九一九 價格千盾	數量	一九二〇 價格千盾	數量	一九二一 價格千盾
錫砂	同	三六七、五二六	一五〇、三八一	一五四、九四五	一〇八、二四五	二八八、九三三	六六、五五〇
規那度	同	八八〇	二、四三二	六九五	二、二三七	一、二七八	二、一六七
石油產物	同	四〇九	四七	四七二	九七九	七二四	一、〇七一
燈火用石油	千立	八、二〇八	一、三七八	七六六	三三〇	二、三四五	六五七
ベレンヂン	同	四、八九九	一、二〇五	二三三	九九	五、九二四	一、四七八
殘滓	同	二九	三	七六六	二四	五、二一七	七二六
機械油	千疋	八八七	三三〇	八五一	四七七	四、一四四	二、三三一
鐵力及鐵力製品	同	—	—	—	—	—	—
煉乳	千疋	一、三三六	四、六三三	—	二、七四三	—	三、〇三二
食料品、ビスケット	同	三七三	四八〇	四九二	八三三	二三三	四六五
天然及人造バター	同	四〇	八〇	五四	一五二	一六六	四〇二
大豆	同	一、七三八	一七三	三、五〇四	七〇一	三、九六二	七五三
細粉	同	三、五八一	九三三	五、六六七	一、二〇七	二、二八八	七二一

安息香	千疋	一、七四四	八八	一、〇三三	六六四	一、三三七	八〇四
護謨	同	三四、五二〇	八、一五八	四三、三六四	九〇、六五九	二、六一九	二〇、一〇六
コアラ	同	五〇、七九六	一九、三〇三	三二、八四七	一六、七五二	六二、六八三	一七、五五一
ダマ	同	四、三三四	三、九四四	二、六〇八	一、八五一	一、六二六	六四七
食料品、魚類	同	三、八四二	九四六	四、五一四	八五八	二、九〇五	五二八
同 燕巢	同	七〇	九一九	一一〇	一、二七二	一五一	一、〇三〇
同 果實	同	四、八八六	五四五	二、五九九	三四九	四、四四七	四〇九
同 燕	同	四、九五〇	二、四七五	三、五〇三	一、九七九	一、九七三	一、〇八五
ガム、ビール	同	一、一六三	二、〇〇六	五〇七	九一八	四二〇	七二七
グダヘルチャ、野生	同	—	七五二	—	八六三	—	六九〇
材木	同	—	—	—	—	—	—
皮	同	七一九	六五六	五三五	九八四	二四八	三三二
規尼	同	五	二三五	二	一五六	六	三五八
クリツト、バカウ及テンガル	同	四、〇五一	八一	五〇二	二五	三〇五	二二
織物	同	—	—	—	—	—	—
木綿染物又は捺染物	同	—	二、〇七	三七五	二、二一〇	三〇五	一、七四一
同 其他	同	—	一五七	—	三九	—	三三二
胡椒、白	同	四、二六一	五、四五四	四、一七二	四、三八〇	五、七六四	四、八九九
同 黒	同	九、六一九	六、八二九	七、三八六	四、二八四	一、八四六	七三八

濠洲及新西蘭よりの輸入

檳榔子	同	一四、二四	二、二七	一一、一七三	一、二一七	二二、三九四	一、八五九
藤	同	二三、九四四	三、九五一	二九、九二四	五、六八六	二二、七二三	四、二六
サゴ及サゴ澱粉	千疋	二四、八四九	二、〇五八	一四、三八二	一、六九七	九、一六九	八九九
砂糖	同	九〇、八六七	三七、二四	三九、〇三三	二六、八二八	七八、〇五四	一九、四八三
タピオカ粉	同	六、七六六	一、四四五	四、八三七	八六九	六、六八三	八〇二
錫	同	六、七六六	一、四三七	九、三八〇	二〇、八三	一一、九二一	一四、二九三
織維、綿、粗製	同	二、五八〇	八六	一、四六六	四六九	二、八九九	五八〇
鐵及鋼、鐵及鋼製品	同	—	二四四	—	五二〇	—	一、二四五
品目	單位	數量	一九一九 價格千盾	數量	一九二〇 價格千盾	數量	一九二一 價格千盾
食料品、ビスケット	千疋	八五五	一、一〇三	一、三三一	二、一七〇	四四九	八九八
同 天然バター	同	二、二八一	四、一六七	二、三三二	六、六〇八	二、二七七	五、七七七
同 麥粉	同	三三、一〇五	七、三七二	二四、六〇〇	五、一六六	二八、四六八	九、三九五
同 ハム	同	二五二	四二五	三三〇	五三八	三三一	五二四
同 其他の肉類	同	一一〇	一九四	二四四	四一五	三三九	四八二
牛乳	同	—	一、九七	—	九二	—	二、二五六

品名	單位	一九一九年 數量	一九一九年 價格千盾	一九二〇年 數量	一九二〇年 價格千盾	一九二一年 數量	一九二一年 價格千盾
肥料、硫酸	千疋	四、八九二	二、三五三	四、五八一	一、五二二	二、九二〇	九〇五
石炭	千噸	五六	三、六二六	一〇四	六、九九九	二九一	一〇、八四六
家畜、牛	千頭	〇、七五二	六〇	五	六三三	五	八九〇

濠洲及新西蘭への輸出

品名	單位	一九一九年 數量	一九一九年 價格千盾	一九二〇年 數量	一九二〇年 價格千盾	一九二一年 數量	一九二一年 價格千盾
石油、液體燃料	千立	四九、三三三	四、一八六	七〇、九〇六	七、〇九一	二二、三五五	一、六三五
燈火用石油	同	一八、九四六	四、六四二	一一、九四二	二、〇二〇	一三、一三九	一、九七一
ベンゼン	同	五〇、二一九	一三、五三三	五四、二九四	一三、五七四	三九、二八六	九、〇三六
ターピエン	同	六九一	二四五	二、二七〇	八二七	一、三〇三	七八二
護糖	千疋	四二九	一、〇二〇	二五七	五五〇	三六九	三四三
砂糖	同	一一四、三九三	四六、八九九	八七、三〇五	六一、〇九八	二二、二八四	五、三三二
タバコカ、粒及片	同	一、四八九	四七五	一、四九〇	三八七	二、一五三	三八八
茶	同	七、二九一	六、三三五	八、七五七	七、五三〇	九、七八六	六、三六一
纖維、カボック	同	一、七四九	一、四二七	三、四二六	三、八六〇	一、九六六	一、七二一

第二節 通商條約

戦後の通商政策は殆んど全世界を通じて著しい保護政策の色彩を濃厚とし、一九二二年に於てその傾向は尙一層強まつた。

昨年保護貿易政策が贏ち得た最大の勝利は疑もなく米國に於けるフォードネー、マツク、キアンバー税率の實施であつた。一年以上も調査協議及反對論の數を重ねた後新米國關稅率は議會の兩院に依つて、採用され、昨年九月廿一日に法律となつた。當初のフォードネー税率法案に比すれば著しい變改が齎されたにも拘らず、新税率は猶著しく保護政策的な性質を有つてゐる。最も甚だしい變改は關稅の賦課さるゝ基礎に就いて行はれたのであつた。

西班牙は一九二一年に於て、同國關稅率の變改計畫關連して、和蘭及植民地に對する現存の通商關係規定を廢棄する旨通知した。新通商條約の締結を見る迄の過渡手段として協定された假規定は同國輸入稅率の確定と共に一九二二年一月十九日限り廢棄されたが、一方に於て新條約は未だ成立しないのであつた。従つて同日以來和蘭及植

民地對西班牙間には何等の公法的商業規定が存在しなかつた譯で、此状態は年度を通じて持續した。新西蘭でも亦新税率が實施さるゝに至り、英領印度に於ても同じく税率變改が行はれて、砂糖及アラツクの輸入税は著しく増騰された。濠洲では甘蔗糖の輸入税が引上らるゝに至つた。伊太利では珈琲の輸入税が修正され、瑞典ではその輸入税變改の準備に關連して、珈琲の輸入は一時禁止された程であつた。然し五月に至つて税率引上の確定と共に輸入禁止は解除された。獨逸では煙草の輸入を一時禁止した。チエツクスロバキアでは保護税率が確定されたが、食料品とそれから又一般に原料品は輸入税免除の恩典に浴し續けた。佛蘭西はサゴ、マニョク粉及タヒオカの輸入税を引上げ、アルゼリヤは香料の輸入税を引上げた。英國では裝飾用鳥類及び羽毛の輸入禁止が實施された反對に茶、カカオ、珈琲に對する税率は若干の引下げを見た。支那關税率の五ヶ年目毎の修正は一九二二年に於ても亦行はれた。蘭印に取つて最も重要ある砂糖の輸入税は變改を見なかつた。海峡植民地に於ける酒類の輸入税は著し

く増騰された。之れは英領印度に於ても同様であり、ペンゴールでは其上猶土産と舶來酒類との混合が禁止された。和蘭では葉卷煙草に對する輸入税の變改が通商政策上の最も重大なる事件であつた。丁抹は一九二二年に於て關税率の修正に懸命したが、各利害關係團體間に意見の一致を見る迄には甚だ多くの困難が發生した。

第三節 輸出入禁止

三月廿五日の總督府令に依つて石炭の一時的輸出禁止は撤廢され、五月十日の總督府令は米の一時的輸出禁止を撤廢した。

第四節 税率變改

本年度に行はれた關稅及消費稅の變改は下の如くである。

一、五月一日以降土產酒類消費稅はヘクト立當り強度五〇パーセントに付一五〇盾より三〇〇盾へ引上げられた。(一九二二年法令第二三二號參照)、此の結果として同日以後酒類に對する輸入税も亦同様の引上を見た。(一九二一年法令第二一〇號參照)

上記の引上に關連して下記の物品に對する輸入税も亦一九二二年法令第二三三號に依つて増騰され、五月一日以後は一疋當り下記の税率である。

水化クロラル	七・〇〇	盾	コロアユカム	一〇・五〇	盾
藥劑用エーテル	一一・八五	盾	スピリトス、ニトリドウルシス	八・二五	盾
クロロフォルム	八・二五	盾	其他總てアルコール含有製品	八・二五	盾
醋エーテル	六・六〇	盾			

二、五月一日以降燐寸消費税五割の一時的引上(一九二二年法令第二三一號參照)

第五節 關稅、郵便電信、鐵道及軌道收入高

關稅收入は爪哇及マヅラに於て下記に達した。

項 目	一九二一	一九二二	項 目	一九二一	一九二二
輸入税	四八、九八四、三三・七一	四二、一九五、四八三・九四	酒類消費税	一、三七八、八九七・九三	一、一八三、六八〇・五八
御用品輸入税	一、〇五〇、四二八・三三	六七九、三六・五	煙草	三、三七〇・八〇	一、一〇三、〇〇〇
輸出税	一、四七、八三三・五六	二、一七一、九〇五・六八	石油	一〇、七七三、〇一五・七七	一、五九九、三七三・七二
御用品輸出税	—	一二、七三六・四九	燐寸	四、〇一七、七六二・二二	七、七八〇、一一一・一七

項 目	一九二一	一九二二
消費税合計	一六、一七二、〇三三・三	二〇、五〇三、二六八・五二
其他雜收入	二二、九六一・四〇	一三六、六五五・五
總計	六七、七四四、四五八・九三	六九、七九二、四六六・四二

從つて一九二二年は二一年よりも二、九四五、二一二盾五一仙の減收である。一九二〇年の收入五九、三五九、三五三盾四七仙と比すれば二二年は五、四三九、八九二盾九五仙の増收を示し、一九一九年の三五、七七三、四六八盾〇五仙と比較すれば二九、〇二五、七七八盾三七仙の増收を示す。外領の收入は下記に上つた。

項 目	一九二一	一九二二	項 目	一九二一	一九二二
輸入税	一八、八六六、〇七九・四八	二五、五三三、五〇一・七七	煙草消費税	八二、七六〇・八四	八七、六〇〇・五〇
御用品輸入税	三五、五三二・五	一、八三七、三四四・〇四	石油	一、二九四、九三三・七七	三、五九〇、三九〇・二二
輸出税	六、五九五、三三三・三九	九、五三三、九八〇・五三	燐寸	一、二九四、九三三・七七	二、三三三、五三三・五三
御用品輸出税	—	二九、三七七・〇八	其他雜收入	六二、四六〇・七二	五八、五四一・〇四
			消費税總計	三〇、四七六、七五三・六八	三三、一五六、〇九七・九九

從つて二一年と比較すれば二、六七九、三七二盾四一仙の増收である。主要諸港の二

一年及二二二年に於ける關稅收入を擧ぐれば下の如くである。

一九二一年

税關名	輸入税	輸出税	酒類消費税	石油消費税	構寸消費税	雜	合計
パタビヤ	一六、九二九、〇〇一・九二	七五、四五五・三元	二五九、二九九、三四二、九四二、二〇・八九	七〇〇、一四八・三四	六七、九七五・四九	二、六八一、〇〇一・三八	
スラバヤ	一九、二七四、一六六・〇四	二三五、八六五・三七	三五九、五七一・三三	二、六九三、四三六・五三	一九五、四〇六・七六	一八二、七八二・二	二、四、六九九、八七三・二四
スマラン	二〇、九二二、七〇二・四五	一〇五、一四二・九九	一三、三〇六・三四	六、九九一・二四	一、二〇〇、九九九・六五	四二、八七〇・九九	二、二〇二、〇三三・六六
マカッサ	二、三六一、三九四・二八	四六五、八三三・九七	—	三三九、七六五・二〇	一五五、〇五九・一四	二六、三六七・五八	三、三四八、四一〇・二七
メナド	七八〇、二七五・三六	六、九〇七・八六	—	一〇一、一四九・四三	四四、三三三・三三	四、五五〇・六五	九九二、二二五・六二
パンヂヤル	三八三、九六六・五八	一四五、八一七・七七	—	一三九、八八三・〇三	四一、二〇〇・四一	三〇、三四三・二〇	七四一、二〇〇・九八
バダシ	一、八四八、六九一・三三	六九、三三四・五七	—	二九八、六〇一・一五	一七三、五七〇・四一	一七、七六八・七九	二、五〇七、九三三・四五
パレムバン	一、五四八、二六六・一九	一、二三、五四三・八一	—	五九八、〇一七・九二	一五三、二六九・七一	八、三〇六・九一	三、四一九、三九九・五四
ヂヤムビイ	一四一、三九七・五六	五、七八九・三四	—	二〇〇・九三	八、五八三・三七	三、〇〇四	二〇六、九八四・二四
ペラワン	四、八九六、八二八・八五	一、二七、〇〇八・八七	—	六三三、六五五・六六	三四〇、五九九・一五	二六、〇四二・八八	五、九九四、一三五・四一

一九二二年

パタビヤ	一三、一九七、二〇九・六四	一、六六、五〇九・七七	二二九、八五二・六八	二、八九一、一四八・九五	一、五八五、一四五・七八	四八、四二四・五八	一九、五八八、二九一・四〇
スラバヤ	一六、〇二八、九八三・九一	二二二、四三二・七〇	三〇三、六四三・七三	三、八二二、三七七・七〇	三、二五七、八七八・七一	二〇一、六七七・七〇	二、三、七三五、八二〇・九
スマラン	九、六四〇、三四六・一七	八三、一五三・九五	二七、一七五・六四	九、六三六・九五	二、二七、八六二・七	二二、二七三・八〇	一一、九〇〇、六九二・七八
マカッサ	一、八六六、九六一・六九	六五〇、三六二・五〇	—	三二九、八七〇・〇三	二七五、〇八一・七一	一四、五九六・一八	三、二六、八七二・一一
メナド	四、九五〇・七三	一九三、九六一・六〇	—	一一二、九九〇・三三	九〇、三八九・五〇	三、四七〇・五四	八五三、七六二・七〇
パンヂヤル	三九四、五二一・五一	二〇六、三二二・八三	—	一五七、四八五・四六	一一九、六三二・六九	三〇、六九九・六一	九八、六五一・一〇
バダシ	一、六〇五、〇三〇・四三	二四、六〇〇・四一	—	三三三、四二五・三九	三八九、〇四六・七八	八、二三四・八七	二、五九六、二八七・八八
パレムバン	一、三六六、四六六・六五	一、六四七、〇九二・四六	—	五三三、五八六・二	一七三、五三三・八〇	四、三三〇・八一	三、七七、〇〇九・九三
ヂヤムビイ	二〇五、八六七・〇七	一五、九七五・三三	—	六、八四七・一七	一六、九二〇・八一	九四九・三一	二四六、五四九・六九
ペラワン	三、九七七、七六一・九八	三、七九四・六九	—	五四、一〇六・六六	四四六、九三二・六八	二二、九三四・六三	四、五四七、五三九・八三

郵便電信 本年鑑出版の際には郵便電信に關する完全な資料は未だ入手出来なかつた。併し乍ら蘭領東印度に於ける九個の最重要な一等郵便局に關する主要な數字は下表に掲ぐる通りである。

郵便切手類の販賣高は殆んど例外なく増騰した。尤も著しい印紙税の増加は二一年に發布されたのであるが、同年に於ては僅少の期間に亘つて實施されたのみであることを忘れてはならぬ。印紙類の販賣に就いても同じことが云へる。爪哇の三大商業都市に於ける販賣高の著しい増加は注目に價す。其中最も増加したのはスラバヤであ

るが、此れは特に同地に於ける砂糖の取引に歸せねばならぬ。外國爲替の仕送數及金高も亦甚だ増大した。反對に外國爲替支拂數及び金額は二一年に於けるが如く多大ではなかつた。

局名	切手販賣高		印紙販賣高		外國爲替仕送高*		
	數	金額	數	金額	數	金額	
バンドン	一九二一	四六〇、六五三、六九	一九二一	三七八、六八八、四〇	一九二一	七、九四八、三四三、五七一、九三三、九、二八六	
マカツサ	一九二一	五五三、二〇七、七四	一九二一	二八三、三〇八、七一	一九二一	二、六〇八、二〇三、二六、五一	
メダン	一九二一	二八三、一七一、二九	一九二一	三〇三、八二八、七八	一九二一	三、五八四、一七七、五七七、二八	
パレンバン	一九二一	七九、二三八、四五	一九二一	一〇八、六八七、一九	一九二一	二、五八五、一五、〇八九、七六	
スマラン	一九二一	五二〇、七五二、五五	一九二一	四九九、一五九、四五、三三三、五七、九六	一九二一	六、三二二、九五、八八、三三、七、一九九	
ウエルテフ	一九二一	八三、五〇、三三	一九二一	二、九一九、〇二八、三三	一九二一	二、四四三、七二、四九三、五七	
レンドン	一九二一	七〇、三三、二九	一九二一	四九七、二八九、三〇	一九二一	一、六四六、五一、八九〇、八八	
局名	外國爲替支拂高△	數	金額	外國爲替仕送高*	數	金額	
バンドン	一九二一	一九二一	三三、八八、一八	一九二一	三、九五三、六八六、六三	一九二一	八六、六四二
マカツサ	一九二一	一九二一	八、三五五、〇四	一九二一	三、二九七、八〇九、五〇	一九二一	三、五四八、一七八、二四
メダン	一九二一	一九二一	一七、四八七、五八	一九二一	二、一八三、五三三、四六	一九二一	四七、五三三
パレンバン	一九二一	一九二一	四、六六〇、〇六	一九二一	二、一八五、一三三、六九	一九二一	三、八〇二、〇二八
スマラン	一九二一	一九二一	一九、九二七、七六	一九二一	三、三三三、三九〇、三九	一九二一	一、九〇一、〇二八
ウエルテフ	一九二一	一九二一	五七、三二六、九六	一九二一	六、九〇六、六九、六〇	一九二一	二、五、六三三
レンドン	一九二一	一九二一	七〇、三三、二八	一九二一	四、二五、五一、四四	一九二一	六、〇二六、四七九、四九

局名	外國小包仕送數		外國小包仕受取數	
	數	金額	數	金額
バンドン	一九二一	四八、〇〇〇	一九二一	一〇、三三四
マカツサ	一九二一	四三、六二二	一九二一	一五、〇一〇
メダン	一九二一	一一、三八八	一九二一	三、二五二
パレンバン	一九二一	一五、三三〇	一九二一	一一、四一〇
スマラン	一九二一	三三、五七六	一九二一	三、六九四
ウエルテフ	一九二一	三、五七六	一九二一	三、一八五△
レンドン	一九二一	四八、〇〇〇	一九二一	一、八八四△
局名 <td>外國小包仕送數</td> <td>金額</td> <td>外國小包仕受取數</td> <td>金額</td>	外國小包仕送數	金額	外國小包仕受取數	金額
バンドン	一九二一	四八、〇〇〇	一九二一	一〇、三三四
マカツサ	一九二一	四三、六二二	一九二一	一五、〇一〇
メダン	一九二一	一一、三八八	一九二一	三、二五二
パレンバン	一九二一	一五、三三〇	一九二一	一一、四一〇
スマラン	一九二一	三三、五七六	一九二一	三、六九四
ウエルテフ	一九二一	三、五七六	一九二一	三、一八五△
レンドン	一九二一	四八、〇〇〇	一九二一	一、八八四△

第二章 對外通商關係

※—代金引替及び取立集金の轉送分を含む。

△—假數字。

内國郵便爲替の金額は一般に減退したが、其數には殆んど變化なく、若干増加した所さへある。郵便小包の仕送り及び受取數は二一年と比較すれば著しい低下を見せてゐる。外國行小包數はバンドン、パタビヤ等では増加を示してゐる。外國小包の受取數は全線に亘つて減少を見せた。主要地に於ける二一年及二二年の電信局収入は下記に達した。

プリオグ(パタビヤ)ウエルテ フレードン	一九二一 三、四四九、〇〇〇盾	一九二二 二、八七〇、〇〇〇盾	メ ダ ン	一九二一 四七〇、〇〇〇盾	一九二二 三六一、〇〇〇盾
スマラン	一、〇五七、〇〇〇	八六一、〇〇〇	パ レ ム バ ン	一、一五〇、〇〇〇	一〇七、〇〇〇
ス ラ バ ヤ	二、九六〇、〇〇〇	二、二七六、〇〇〇	マ カ ツ サ	三六一、〇〇〇	三八、〇〇〇
バ ダ ン	二一〇、〇〇〇	一七三、〇〇〇			

即ち収入の減退は一般的であつた。

鐵道及軌道 二一年及び二二年に於ける鐵道及軌道の總收入高は下の如くである。

國有鐵道	一九二一 七、八四四、四九八盾	一九二二 六五、三三二、四六一盾	東爪哇軌道會社	一九二一 一、五八八、八三一盾	一九二二 一、五五六、五六六盾
N、I、S	二、四〇七、八三二	一八、六〇〇、〇〇〇	ケ テ イ リ	同	九四八、四〇〇
ア リ ー 鐵 道 會 社	九、五三二、八七六	七、〇〇七、〇〇二	パ ス ル ア ン	同	三六二、四六九
セ ラ ユ ー ダ ル 軌 道 會 社	一、三五三、三〇〇	一、二六七、三〇〇	關 印	同	一、二五三、一五〇
マ ヅ ラ	同	一、九五一、三〇〇	ス マ ラ ン ー チ エ リ ホ ン	同	七、三八八、七〇〇
ア ロ ホ リ ン ダ	同	五三九、一一〇	ス マ ラ ン ー ヨ ア ナ	同	五、三六〇、一〇〇
マ ラ ン	同	一、〇五四、四〇三	計	二五、七三三、六〇五	二〇、七二一、〇〇八
モ ヂ ヨ ケ ル ト	同	四五二、一八四			

數字に見へる通り収入は全線に亘つて二一年よりも低い。全體に於て二一年よりも一四、五四四、五九七盾の減收である。

第三章 金融及株式市場

第一節 金融

資金は一九二二年を通じて潤澤であつた。此の潤澤さは栽培業者特に砂糖園が猶相

當な額の資金を—其中若干は未拂の税金に對する積立金である—抱へてゐる結果であり一部分は信用貸與を收縮せんとする諸銀行努力の賜物であつた。歐米では利息の著しい引下が見へ蘭領印度でも亦資金は過剰だつたに拘らず、當領に於ける實際の商取引に對する利率は既述の如く、諸銀行がその貸出を縮少せんとした爲めに何等の變更をも見なかつた。新らしい擔保附貸出に對する利息は年約七パーセントに上つた。私人銀行の預金利率は何等の變改を見ず、紙幣發行銀行の利息表も大體不變であつた。即ち後者のそれは

爲替手形割引	三%二分の一	米及砂糖擔保貸出	四%
約束手形割引	五%二分の一	輸出品	同
競賣引受手形割引	二%二分の一	株式(和蘭國債證券、同社債券及抵當證書)	四月一日迄三%二分の一、其後五%
輸入品擔保貸出	六%	其他の株式	同
		蘭印公債	同(四月一日以後) 五%

資金の潤澤は政府をして今迄よりも廉價に借金せしめ得るに至らしめた。二一年間及二二年初めに於て四パーセント又はそれ以上の支拂を要した國庫證券は、二二年

末に至つて約三パーセント十分の四で容易に募集さるゝことが出來た。政府の新公債は二二年中蘭領印度では發行されなかつた。年度中亞米利加で募集された總額一億弗の二二年公債に對する利率は年六〇パーセントであつた。蘭印の諸市債は二二年に於て前年度よりも良好な歡迎を受けた。二一年には和蘭丈けでしかも七パーセント二分の一以下では成功しなかつたものが、本年度に至つて諸大市の雜多な市債は、和蘭、印度の兩方面に於て六パーセントで募債された。

第二節 爪哇銀行

爪哇銀行の兌換券流通高は二二年に於て更に減少した。最高は一月七日の二八四、九七三、五七五盾で、最低は四月七日の二六一、三九五、八一〇盾であつた。其後流通高は若干増大したが十二月三十一日現在高は四月七日のそれと大差の無い二六一、八四二、六二五盾に低減した。二一年及二〇年の最高數字は各々三七〇、九六三、六一五盾及三七六、九三三、〇三〇盾であつた。上記の數字に明な如く流通高の減少は二二年に

も持續した。尤も輸入品及び輸物産價格の低落が激甚だつた前年度に比較すればその程度はかなり弱いものであつた。減少は商取引の不活潑以外に大部分は諸銀行の信用貸與收縮に歸せねばならぬ。下記は各月第一土曜に於ける流通高である。

一月七日	二八四、九七三、五七五盾	七月一日	二六五、〇四八、九三〇盾
二月四日	二七二、六五一、六六〇同	八月五日	二六八、五〇六、四五〇同
三月四日	二六八、三六〇、六七〇同	九月二日	二六六、六三四、一六五同
四月一日	二六一、三九五、八一〇同	十月七日	二六九、四五四、一七〇同
五月六日	二六七、五二三、六三五同	十一月四日	二六四、九六四、〇四〇同
六月三日	二六六、八三八、九五九同	十二月二日	二六三、七二七、七三五同

當座勘定残高は一月七日が一一四、三六二、六九四盾三九仙、十二月卅日が一〇一、九四八、九八七盾五二仙で、年度中の最高は十二月二日の一四〇、八八二、三三一盾四七仙、最低は三月四日の六五、〇五九、〇二七盾九八仙であつた。戦争開始當時齎らされた法定金銀準備高四〇パーセントから二〇パーセントへの變更は、其後準備高の半額が蘭領印度に現在する蘭印本位貨幣でなければならぬと云ふ義務の免除と共にその

効力を持續した。然し此の準備金は常に四〇パーセントの上にあつた。金銀残高は下の如き數字を示した。

一月七日	九七、七五九、九一四・七六	盾 仙	七月一日	一二八、七三九、〇九五・一七	盾 仙
二月四日	一〇二、四一四、四二七・六二		八月五日	一二八、一六〇、三一八・九五	
三月四日	一一三、二四七、三九九・三八		九月二日	一二九、三一〇、一五六・三八	
四月一日	一二三、五七八、〇四三・五〇		十月七日	一三〇、四〇三、五八二・八〇	
五月六日	一一七、七八五、四二六・〇一		十一月四日	一三四、六三四、三四五・二一	
六月三日	一一三、二九六、一〇七・七〇		十二月二日	一二八、八八三、一九六・一八	

即ち金銀残高の最低は一月七日の九七、七五九、九一四盾七六仙、最高十一月四日の一三四、六三四、三四五盾二一仙だつた譯である。

現在の二盾半、一盾及半盾の現金切手發行高は一月七日の五一、八五四、五〇五盾から十二月三十日の四三、〇〇二、九五九盾五〇仙に減じ、最高は一月十四日の五二、一七六、四四二盾、最低は七月一日の四二、五七五、二二四盾であつた。此の減少は殆んど全く半盾券の撤廢に決議せられた事情の結果であつて、撤廢は四月以來行はれ一月

七日の流通高八、四三二、〇〇六盾五〇仙は十二月三十日に至つて僅か五六七、〇五七盾に減少したのである。一九二三年五月一日に至れば五〇仙券は法貨としての効力を喪失する。従つて五〇仙券を論外に置けば現金切手流通高の變動は甚だ僅少となる。即ち一月七日に於ける二盾半及一盾券の流通高は四三、四二二、四九八盾五〇仙で十二月三十日のそれは四二、四二五、九〇二盾五〇仙であつた。此等の額が他紙幣の減少に拘らずかなり不變だつたのは二盾半及一盾券が公衆に依つて強く需要されてゐることを證明する。五〇仙券はその小形な爲めと紙質の粗悪な爲めに忽ち醜汚となつて實際の使用に適しなかつたのであるが、その撤廢は大小の銀貨が國庫や爪哇銀行のみならず私人諸銀行にも豊富だつた爲めに何等の困難をも醸さなかつた。爪哇銀行の銀貨所持高は二二年に於ても更に増大し一月七日の二九、五二九、一一三盾から十二月三十日の五六、一〇七、一〇一盾に上騰した。此中には一月の五八一、〇〇〇盾から十二月の七八二、〇〇〇盾に増大した補助貨も含まれてゐる。此の増加は一部分價格の低落と

商取引の閑散から來る貨幣需要の減少に歸せねばならぬが、一方に於ては又二二年に於て再び大量の銀貨が直接の必要なきにも拘らず和蘭から移入されたるに基づいてゐる。即ち移入高は、

一	盾	二、二〇〇、〇〇〇盾	五	仙	一、六一〇、〇〇〇盾
半	盾	八、〇〇〇、〇〇〇同	半	仙	二、〇〇〇同
二	五	仙	計		一一、九一二、〇〇〇同

二盾半の銀貨は移入されなかつた。一盾及半盾の銀貨は純分の低い(〇、七二〇)新貨であつた。此等は相當な額迄諸國庫に依つて流通界に持出された。純分の雜多な貨幣の流通は多くの困難を生じ、又新貨が舊貨よりも大規模に偽造されはしないかと云ふ恐れが各方面から聞かれた。之れに關連して、そして又純分の低い貨幣を流通せしむる必要が銀價の低落と諸貨幣の豊富に依つて消滅した爲めに、流通高を増大せしめない事が望ましいのみならず、反對に既に流通してゐる銀貨を回集す可き事が論せられた。爪哇銀行は他の諸銀行と同じく上記の意見に立つて、新貨幣を流通界に持出す

事を手控へた。和蘭に於ける純分の低い對蘭印新貨の鑄造は不敢取全然中止されて仕舞つた。爪哇銀行の金ストックは一月七日一四七、四八四、三二〇盾だつたのが十二月末には一五二、五〇一、九〇八盾に上騰した。後者の中五七、〇八七、四一〇盾は和蘭金貨である。既述の蘭印銀貨所持高を除けば爪哇銀行の銀ストックは殆んど云ふに足らない。同行の外國爲替所持高は一三、五六五、三九二盾九三仙(二月十一日現在)及三三、三五一、〇二二盾六六仙(九月十六日現在)の間を往來した。爪哇銀行の新特許法は國民參議會が採用した形に於て何等の變改をも見ず和蘭政府に依つて認可され二二年四月一日から實施された。

第三節 爲替市場

爲替市場に就ては後段にも述べるが、年初の對和蘭相場は九八 $\frac{1}{4}$ であつた。併し此の相場は全然名目的で實際の市場では著しく低い相場で取引された。五月に至つて公定相場は略々市場相場に近寄つた。そして六月初めには九六 $\frac{3}{4}$ 迄低落した。其後輸出

の活況は長い間隔を置いて八月に於ける九八 $\frac{1}{4}$ 迄の昂騰を見せたが其後は再び低落氣味で十月には九七となつた。年末は再び改善を示し十二月卅日の九八を以て終つた。

爪哇銀行は年度を通じて其公定電信賣爲替相場を九九 $\frac{1}{4}$ として、最初は此相場でかなり規則的に賣拂つてゐたが後では殆んど全く諸銀行の相場に従ふに至つた。對英の電信賣爲替相場は一月初め一一・六二 $\frac{1}{2}$ だつたが四月には一一・九二 $\frac{1}{2}$ に上つた。此昂騰の後も相場は再び低落し九月には一一・六三 $\frac{3}{4}$ に達した。十二月は大昂騰を見せ同月末は一一・九〇の相場を出した。アムステルダムに於ける對倫敦相場は一一・二九から一一・七八の間を上下した。對米爲替相場は絶間なく低落した。一月五日二七九だつた相場は多少の動搖はあつたが漸次十二月末の二五七 $\frac{1}{2}$ 迄後退した。

上記以外の對歐洲爲替相場はやはり多大の變動を續けた。佛蘭西及白耳義の法は其價值に於て低落を續けた。然し其の最も著大なものは馬克の低落で、和蘭では二二年末一〇〇マークに付き約〇、〇三仙と云ふ相場であつた。その價值を殆んど喪失した

マークや、戦初以來未曾有の低點に達した。佛白のフランクを除けば、大體に於て歐洲の諸相場並びに又亞米利加弗の相場も多大な程度に平價に近づかんとし、吾々が近年に見なかつた程、より以上の安定に近づかんとする傾向を見せた。此れは甚だ有望ではあるが、併し貿易界が必要とする此の爲替相場の安定が完全に到達される日は未だ遠く遠い様に思はれる。歐洲では尙政治問題が餘りに注意を吸収しつゝある爲めに爲替方面の改善に先行せねばならぬ經濟回復に特に努力することは今の所出來難い状態にある。蘭領印度の外國爲替取引高は貿易の不活潑に關連して再び減退した。

第四節 株式市場

二二年は株式の取引に取つて甚だ困難な年だつた。二〇年及二一年に受けた大損失は公衆をして株式を壓惡せしむるに至つた。其上又歐洲では政治問題が紛糾して改善の希望を減殺した爲めに株式取引所に於ける取引高はおのづから減退せざるを得なかつた。

更に雜多な會社や商館の没落は屢々市況を腐らせ、爲めに諸株券に對する一般的に不信用は益々其度を強めてより以上の相場低落を齎來した。従つて相場の變動は本年度も亦著しいものがあつた。

二二年に於ける金融界は株券の新發行を吸收するには適してゐなかつた。従つて又株式の發行高は僅か八、七二六、〇〇〇盾の名目金額に止まり、其中株券は五、二五〇、〇〇〇盾であつた。二一年に於ける名目發行高は一七二、三八八、〇〇〇盾に上つてゐた。本年度の發行株式を擧ぐれば、

會社名	總額	種類	發行價格	會社名	總額	種類	發行價格
蘭印軌道會社	一、三四一、〇〇〇盾	株券	一〇〇%	バンドン電氣會社	二六〇、〇〇〇盾	株券	一〇〇%
東爪哇軌道會社	二四五、〇〇〇	同	一〇〇%	同	上	同	六九%
一般蘭印電氣會社	一、五〇〇、〇〇〇	同	一五%	アリー鐵道會社	五、〇〇〇、〇〇〇	同	一〇〇%
自動車輸入會社	一〇〇、〇〇〇	社債	一〇〇%	泗水ハンデル	一三〇、〇〇〇	株券	一〇〇%
七%累積先取券				スアラツド			

最後にパタピヤで取引される株式若干の二一年及二二年末に於ける相場並びに二二年に於ける最高最低相場表を擧ぐれば下の如くである。栽培會社株券の相場は含まれ

てゐない。此等は二一年末には事實上豫測不可能だつたのである。

會社名	二一年末相場	二二年最低相場	二二年最高相場	二二年末相場
アムステルダム銀行	一五〇	一一八	一七〇	一二四
爪哇銀行	三四二	三三七	四一九	三三八
コロニア銀行	一一三	一一一	一三八	一三八
和蘭商業會社證券	一三七	一一七	一四六	一三八
蘭印エスコムト會社	一二二	七二	一二六	九六
蘭印商業銀行	九一	八〇	一一一	一〇六
ユニイ銀行	七〇	二二	七二	三八
アムステルダム商事會社	三二七	三二四	三九八	三九八
インターナショナル	一五〇	一四〇	一七〇	一六七
メインツ會社	五〇	一六	五五	二七
爪哇支那日本線	一〇八	六二	一一二	八〇
K. P. M	九九	七一	一〇〇	九九
スヘープアールトユニイ	一一〇	八一	一一五	一〇〇
ロツテルダムロイド	一五〇	一一〇	一四五	一二八
アリイ鐵道會社	一五八	一三六	一六二	一四〇
蘭印鐵道會社	一六五	一三七	一七五	一五四

スマラン、チエリホン軌道會社	一五〇	一二五	一五二	三七
スマラン、ヨアナ軌道會社	一二五	一一二	一三〇	?
蘭印軌道會社	二〇〇	一一四	一八〇	一一四
パタビヤ船會社	一〇五	一〇〇	一二五	九五
爪哇倉庫會社	一〇五	七五	一一五	八八
一般蘭印電氣會社	一三〇	一一三	一三八	一二六
バンドン規尼涅工場、普通	三五〇	一二五	四六二	一七五
エイヘンフルプ	八〇	三〇	八〇	四〇
蘭印瓦斯會社	一四五	一四五	一六二	一五八
バンドン電氣會社	一二五	一〇〇	一二〇	一二〇
ホテルデスイ	三五五	一八五	二三〇	一六五
リンデテベスストクピス	八五	六五	八五	七二
ソロ電氣會社	一二七	一一五	一三五	一三五
レヂヤンレボン	五〇	五三	一六二	一〇四
シマウ	三三三	二七五	四〇〇	三五九
タラカン	一八五	一五二	一九〇	一一七

第四章 輸出入貿易

第一節 物産貿易

一、カカオ

二〇年乃至二二年の世界カカオ産額は下記に上る。但し二二年は豫想數字である。

	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二三
ゴールドコースト	二二六、五九七	一三三、九〇九	一五四、〇〇〇	
アラジ	三、四六四	四、二八〇	五、〇〇〇	
サントウメ	二二、四七一	二八、二七六	一五、〇〇〇	
エクアドル	四三、八〇七	三九、三五八	四〇、〇〇〇	
トリニダッド	二八、四四八	三三、八四三	二、〇〇〇	
ヴェネツウエラ	二〇、〇〇〇	三三、〇〇〇	二四、〇〇〇	
計	一〇九、〇〇〇	一六二、〇〇〇	一六三、〇〇〇	
北米	一四三、七六六	二四、四一六	一四九、〇〇〇	
佛蘭西	四、二八八	四、二八八	三三、二二五	
及ハイチ	二五、四〇九	二九、五七四	三三、〇〇〇	
ラゴス	一七、四二九	一八、四七三	三、〇〇〇	
グレナダ	四、一五二	四、四七一	四、〇〇〇	
スリナム	一、七八〇	一、六三六	一、八〇〇	
錫倫	二、八六五	三、一七〇	二、〇〇〇	
爪哇	九九五	一、〇五八	一、五〇〇	
計	三四八、四二七	三五九、九四八	三七〇、三〇〇	
和蘭	二五、三五五	二八、七五五	三六、〇〇〇	
獨逸	四五、〇九八	一〇二、九〇〇	八〇、〇〇〇	
英國	五、四八三	四七、一六四	五〇、〇〇〇	

右の生産に對して主要諸國に於ける消費高は下記に上つてゐる。但し二二年の數字は同じく豫想で單位は噸である。

蘭領印度に於ける栽培面積は大した變化なく爪哇總收穫高も殆んど變らないのは輸出數字の變動が僅少なに見ても明瞭である。米國に對する直接輸出は規則的に増大し、和蘭への輸出も再び増進し來つた。輸出數量の約三分の一は小規模な土人農園から生産されたものである。爪哇及マヅラの二二年輸出は二〇年の九九四噸、二一年の一、〇五六噸に對して一、〇九一噸に上つた。其中和蘭への輸出は七五一噸で、米國へのそれは二一四噸である。英國へは年度中輸出皆無であつた。外領からの輸出は相變らず僅少で、主として新嘉坡に向けられた。

爪哇カカオ市場の景況を述べれば下の如くである。スラバヤのカカオ市場は年度中殆んど論ずるに足らなかつた。大體に劣等品に對しては興味缺乏し、上等品は引緊つてゐた。

スマランは今の所カカオに取つては最大の市場である。前收穫は豫想以上だつたが

後收穫は甚だ不成績であつた。市場は一般に活氣を缺いてゐた。年は六二盾のオツプ
 アーで取引無しに初まり、一月末になつてアリアンゲル一等品は五八盾で賣買された
 其後沈静な期間が續き、一等品は約五四盾の名目價格を見せ、混物は五〇盾迄なら買
 手を見出し得た。下半期に這入つて輸出商のストックが無くなつた爲めに價格は上騰
 した。九月に至つては六二盾二分の一迄の指値があつたが持主は七〇盾を持して下ら
 なかつた。爲めに其後は取引不可能となつた。年末のエステート産カカオの提供は七
 〇盾で取引は無かつた。

パタビヤ市場の價格はスマランに於けると同様の變動を示してゐる。アムステルダ
 ムの市場では爪哇カカオは年度を通じて引緊り上等品は約八〇仙の相場だつた。

二等品種は七〇乃至七五仙の價格を擧げ、唯中等品は時として需要過少だつた。

二、護謨及グタヘルチャ

護 謨

世界の護謨産額は下記に上る。但し二二年數字は豫想である。(單位噸)

	一九二二	一九二三	增加
馬來半島	一八九,000	二四八,000	五九,000
錫 倫	四〇,000	四七,000	七,000
蘭領印度	七九,000	一〇四,000	二五,000
英領印度	五,000	五,五〇〇	五〇〇
計	三九,000	四六,〇〇〇	九,〇〇〇
佛領印度支那	三,〇〇〇	四,〇〇〇	一,〇〇〇
サラワック	一,五〇〇	二,〇〇〇	五〇〇
ホルネオ	三,〇〇〇	三,〇〇〇	—
アラジル	一八,〇〇〇	三三,〇〇〇	一五,〇〇〇

即ち上記の數字に依れば二二年の世界産額は二二年よりも九一、二〇〇噸多かつた
 譯である。

主要諸國に於ける消費輸入は下記に上つてゐる。(二二年は豫想、單位噸)

	一九二〇	一九二二	一九二一	一九二二	一九二〇	一九二二	一九二一
北 米	二四八,七九一	一七九,六四七	二七五,〇〇〇	加 奈 陀	一,一七〇,〇〇〇	八,二五九,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇
英 國	五六,九七三	四三,二一六	一一,〇〇〇	日 本	五,五〇〇	三三,一六四	一三,〇〇〇
佛 蘭 西	一六,六〇六	一四,七〇一	二八,〇〇〇	其 他	一五,一〇〇	八,〇三二	一三,〇〇〇
獨 逸	一三,五〇〇	三三,四一八	四〇,〇〇〇	計	三,七四,〇六九	三〇,一三,六六	三,七五,〇〇〇
伊 太 利	六,三〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇				

世界産額の増大に拘らず吾人の手許に在る資料は二二年末に於けるファストハンドのストックが二一年末よりも高くなかつた事を示してゐる。

二三年の産額豫想は四〇萬噸で、此數字は護謨生産制限の結果として英領諸植民地及び蘭領印度に於ける英人農園の産數を六〇パーセントとしての計算である。爪哇及マヅラ護謨輸出は過去三ヶ年に於て下記に上つた。

仕向地	數量(單位千疋)	仕向地	數量(單位千疋)
和蘭及和蘭 for order	五,〇四四	北米	一三,〇六五
英國	八,八〇三	新嘉坡	四,四三二
獨逸	一,四六六	日本	一,九四四
佛蘭西	五三	日	一,九四四
白耳義	一六二	其	二五三
伊太利	三三	計	三,二九〇
		他	二九,二七九
			三三,五五九

價格低落の結果として二一年の輸出は若干の減少を示したが本年度の輸出は再び増大した。併し價格の改善は餘りに遅く初まつた爲め輸出數字には大した影響を及ぼし

得なかつた。北米への直接積送は爪哇からも亦デリーからも著しく増大し同國は爪哇及デリー輸出の六〇パーセント強を仕入れた。對和蘭輸出は二一年輸出の五五パーセント強迄減退し英國への輸出も著しく小額となつた。對獨輸出は激増し又佛蘭西へは昨年と反對に直接積送が行はれた。スマトラ東海岸の輸出は左記の如くである(單位噸)

仕向地	一九二〇	一九二二	仕向地	一九二〇	一九二二
和蘭	三,七三六	四,三七四	北米	九,七九	一三,七五九
英國	四,二〇一	四,八八五	卑南	一,三三八	六七七
獨逸	七四	一四七	新嘉坡	一三,二三四	一〇,七三八
佛蘭西	—	二五	濠洲	五	一五三
白耳義	一〇八	一四二	不明	九〇	五
伊太利	—	—	計	三,五四七	三四,八九四

和蘭への輸出は減退し、對英輸出も亦同じく減少した。二一年に始めて行はれた生液の輸出は二二年に至つて甚だ増大したが二三年に於てはより大量の船積が行はれることと信ずる。

爪哇の輸出は尙微々たるもので二二年に於て約六、〇〇〇立に上り、英國に船積さ

れたが、スマトラ東海岸の輸出は私人資料に依れば二一年の五二噸に對して九八四噸に上つてゐる。主要な仕向地は米國であつた。

爪哇の護謨市場 標準品即時渡の相場は一月初め半斤ノミナル六〇仙に上つた。消費國からの注文杜絶は同月の價格をして漸次崩落せしめ、従つて一月末の標準品に對しては半斤四三仙の指値があるに過ぎなかつた。併し賣手は此の値段では手放さず半斤五〇仙を稱へたので取引は殆んど全く下等品に限られた。二月上旬には即時渡約四四仙及び先物四七仙の取引があり標準スモークドシートの先物はそれ以上一仙乃至二仙の高臺にあつた。

主要護謨園の一月産額數字が倫敦に知れ渡ると共に、その數字が十二月のそれよりも高かつた爲めに、倫敦市場は相場の低落を來し、亞米利加も亦左程の買付をしなかつたので、パタビヤの價格も後退して、三月初めの標準品相場は半斤四〇仙乃至四一仙に下落したのであつた。

護謨栽培者協會參加諸國の大部分は任意的生産制限を本年度上半期にも續行することに賛成であつたが、該手段繼續に必要な絶對多數は遂に獲得されず、生産制限の顯著な効果は主要産地に於ける其強制實施に依つてのみ到達され得るとの意見が益々一般に勢力を得た。爲めに馬來聯邦州及錫倫の政府は年度初めに再び委員をバイテンゾルグに派遣して其計畫に對する蘭印政府の同意を得んと努めた。後者は再び護謨栽培業の主要な利害關係者に回狀を發したが若干の例外を除き彼等の大半は既に二一年に發表した。蘭領印度に對する強制々限は不必要だとの意見を固持して譲らなかつた。

三月に於ける標準品の需要は間歇的に過ぎず、取引は主として雜種と下等品に限られ、後二者の價格は標準品に對する半斤約四〇仙の相場に比較すれば満足に價する程度のものであつた。三月末倫敦で發表された主要農園の二月産額數字は一月のそれよりも低かつたが二一年二月の産額よりも尙一三パーセント高く、六六、七〇〇噸に増大した。倫敦ストックと共に市場に悪影響を及ぼした。四月上半に至つて初めて亞米

利加の買注文が受け取られたので市況は著しく良好化し、其影響は又價格にも表はれて、四月中旬には標準品半疋四二仙乃至四四仙に昂騰した。併しそれもつかの間で亞米利加の注文が充足され、其後の注文が續來しない爲めに價格は再び下落した。此れには又海峽植民地の上四ヶ月に於ける船積が二一年同期の五三、〇一六噸に對して七二、六九九噸の大額を示した事と、強制的制限の實施如何が尙未定だつた事情も與つてゐる。護謨株主協會も五月五日の倫敦集會で生産制限の法律的規定に賛意を表しはしたが政府筋からは當時何等の聲明をも漏れ聞えなかつたのである。

蘭領印度政府は此の問題に關して其立場を何ほ公式に發表せず又海牙の蘭印護謨栽培業國際協會が電報及び文書を以て殖民大臣並びに總督に宛てた、護謨業に關して取らるゝことある可き根本的手段に就て諮詢を請ふと云ふ陳情書に對しては未だ何等の回答もなかつた。

此の不安定に依つて値段は五月中も低落氣味にあり月末には半疋三七仙二分の一に

達した。五月末に發表された、和蘭政府が倫敦に委員を送つて英國植民省及び護謨栽培協會幹部との協議に参加す可しとの報道は是以上の價格低落を防止した。

六月中ば頃には若干數量の標準クレープに對しては半疋三八仙乃至三九仙の値段が獲得され得た。

六月廿七日海牙で開催された國際護謨栽培協會の集會に於て出席者が四分の三の大多數を以て政府干涉の思想に賛同したと云ふ報道は價格の激騰を來し標準品半疋四五仙に上つた。六月末には又バタバヤなる蘭印護謨生産者組合が其會員間に行つた一般投票で之も亦約四分の三の多數が法律的生産制限に賛同したと云ふ結果が分明した。

此の問題に關して前記組合の幹部が總督に宛てた文書は政府に依つて取らる可き手段が歐人護謨栽培業のみならず、同様の程度に於て又土人のそれをも拘束せねばならぬ事を強調し、愈々生産制限の場合には同組合と協議を重ね可き事を要請した。

東亞細亞に於ける三大主要護謨中心地からの輸出は二二年上半期に於て七月に分明

した資料に依れば二一年上半期の一二四、四三六噸に對して一五二、〇〇〇噸強に上り約二分の三は米國に向けられた。輸出増大に壓迫されて七月の市況は同じく弱氣でバタビヤの取引は大部分オッフ品種と下等品に限られた。標準品の相場は同月半阨四〇仙から三九仙に後退した。

和蘭及び蘭領印度政府が生産制限の提案に對する其の意見を尙未だ發表せず又英國側からも何等の情報傳はらなかつた爲めに軟弱な市況は八月にも持續した。尤も同月上半には時折亞米利加勘定の買注文が市場に見えたがその指値は低かつたのみならず一方に於て將來に關する不安と、二月中旬の六七、二八八噸に對して八月中旬七一、七六〇噸にも上つた倫敦ストックの増大等に影響され多數の持主は賣急ぎそれが又循環的に亞米利加をして猶一層値段を壓迫せしめたので、八月中旬バタビヤ相場は半阨三六仙乃至三六仙二分の一を稱ふるに過ぎなかつた。

八月末に至つて植民大臣は遂に海牙の國際護謨栽培業者組合に對し、蘭印總督と意

見交換の結果蘭領印度の立場より見れば生産制限に關して法律的手段を取るには現在の所充分の理由がないと云ふ聲明を與へた。尤も大臣は其後の提案も考慮するとは云つたが一般の印象は兎も角政府は決して此の問題に關して干涉政策を採らないだろうと云ふに傾いてゐた。値段が既に暴落を染めてゐた際とて既に多數の人々が豫期した上記政府側の聲明は市況をそれ以上悪化することは出来なかつた。

此の政府の決議は若しその發表數日前に紐育の一般護謨會社が多數の護謨生産者と契約を結び二三箇年の收穫全部又はその一部を標準物に對してはその平均倫敦市價で英封度當り最低八片最高四分の一、雜種類に對しては標準品價格が八片又はそれ以下の場合英封度當り二分の一片少なく支拂ふと云ふ條件で、先物買をやらなかつたならば、其の及ぼした影響はより甚大なものだつたかも知れぬ。此の値段が八片又は一六片以上になれば四分の三片又は一片を雜種類に對し標準品價格から引去られることになつて居り買手は護謨の種類を限定する權利を有つと同時に少くとも六ヶ月以前にそ

の種類に關する決議を通知するの義務を有し、猶又指定した種類が高く付けば高い丈の費用は買手に於て負擔し、若し安く付けばその差の半分は買手他の半分は賣手の利得となる條件であつた。

此等の甚だ大數量に關する諸契約は其一部分既に二二年十月一日を以て開始され、一般に非常な注意を惹いた。特に又其後間もなく引渡護謨の一部が生液の形に於て船積を希望されたことが注目を感いた。生液はまだ少許の限られた數量ではあつたが既に若干期間に亘つてデリーから亞米利加へ輸出されてゐたのである。

九月初めに至つて殆んど全ての市場で雜種類と下等品の需要が増大して價格の上騰にも拘らず特に亞米利加筋の買手多かつた一方に、標準品に對して最初殆んど何等の興味も無く、其相場も九月中旬に至つて漸く上騰し初めたのは注目に價する現象であつた。九月中頃には下等品は殆んど賣盡され買手は標準品に集るより仕方が無かつた。此の價格の昂騰は倫敦市場に初まり、同地では亞米利加側の需要が多かつたのみならず、市場回復に慥てて空賣買のカバーを初める持主も少くなかつた。其結果相場は九月中旬標準品即時渡半疋三八仙に上騰した。バタビヤでも亦九月中旬頃初めて二三年渡護謨に對する需要が半疋四〇仙程度で起り、數日後には半疋四一仙二分の一のオツプアーを見た。此最後の値段で多大の標準物は二三年一月乃至十二月渡で賣拂はれた。

上記即時渡相場の低落が數日續いた後ち價格は再び昂騰し、その主動力は又もや主として倫敦から發し、同地では護謨栽培協會がスチブソン委員會と協力して生産制限問題を再燃せしめ蘭領印度に於ける英人護謨園が、馬來聯邦州及錫倫で法律的制限が實施さるゝ場合、如何なる程度迄任意制限を行ふ意嚮あるやを調査した。十月初め標準品相場は即時渡半疋四二仙に上騰し需要も良好だつた。同時に爪哇では英國勘定の生液買注文が九月以來初めて受取られた。十月十二日に至り蘭印護謨栽培業利害關係者は突然馬來聯邦州及錫倫に對してスチブソン委員會の計畫に従ひ強制々限が二二

年十一月一日を以て實施され、普通生産高の六割を越える全ての輸出護謨に對しては累進的輸出税が賦課される旨の報道に接した。バタビヤ市場に於ける其影響は直ちに現はれ、十月十二日午後には標準品十月十二月渡半疋五三仙の取引行はれ又一月三月渡は五四仙で契約成立した。即ち同日午前中の指値よりも約六仙高であつた。翌日の價格は猶三仙高となり標準品二三年一月乃至十二月渡に對しては半疋五九仙での指値多く、數日後は六六仙の値段さへ獲得され得た。數日の反動の後値段は再び上記の高臺に上つたが、間も無く市況再び不安定となり、其後一日の中に半疋五仙にも上る變動を経て十月は下の如き強氣に終つた。

即 時 渡 半 疋
 一月―三月渡 同
 一月―十二月渡 同

六〇乃至六一仙
 六二同 六三仙
 六四同 六五仙

十一月の第一週市場は稍々沈靜で需要は主として十一月―十二月渡に集り、標準物半疋六二乃至六三仙の賣買を見たが、其後主要消費國の買注文續來に依り値段は十一

月―十二月渡六六仙一月―三月渡六七仙二分の一迄釣上られ、セコンドハンドでは其値段で大量の取引を見た。此等諸月間の護謨を手控へてゐた生産者連は大體により高い値段を稱へて動かなかつた。十一月中頃に至つてはセコンドハンドが賣盡し、買手は又外國相場の平價以上に出づるファーストハンドの云値を支拂ふに躊躇した爲め取引額は僅少となつた。十一月最終週に來た特に英國側からの莫大な買注文と、同時に受け取られた、英國が紐育でも買進んでゐると云ふ報道は、忽ちバタビヤの値段を上騰させ標準物に對しては下の値段で多大の取引が成立した。

十 二 月 渡 半 疋
 一月―十二月渡 同
 一月―十二月渡 同

七一仙
 七二仙及七三仙
 七四仙二分の一及七五仙

當時需要は既に二四年一月―六月渡及び一月―十二月渡に迄及んだが生産者側では誰も其程の先物を考慮するものは居なかつた。十二月初めバタビヤでは多數の買注文が現れて値段は即時渡半疋七四仙、一月―三月渡半疋七六仙迄上騰し、一月―十二月

渡に對しては半疋七九仙の指値多く、若干の取引は半疋八〇仙の値段で成立した。

十二月第二週の市況は新嘉坡及倫敦の低相場に呼應して弱氣となり、需要は殆んど全く十二月—一月物に限られ半疋七四仙が當時支拂はれた最高價であつた。

それ以後の引渡しに對する需要は十二月中頃に初めて起り、二月—六月渡半疋七四仙乃至七五仙六月—十二月渡半疋七六仙と云ふ指値で、即時渡に對しては半疋七二仙二分の一乃至七三仙の商談を見た。

先物の需要は十二月下半にも繼續した。價格は二三年七月—十二月渡に對して最高價として半疋七八仙の契約を見た後若干後退したが、月末には再び一月—六月渡半疋七六仙乃至七七仙、七月—十二月渡半疋七八仙臺迄回復した。即時渡に對する十二月末の相場は半疋七四仙乃至七四二分の一に上つた。バタビヤに於ける蘭印護謨貿易協會は二二年に於て一七、九三三噸に達する賣契約を登録した。

土人産護謨

土人産護謨は護謨輸出に於て益々重要な度を増して來るがそれは土人の小護謨園が豫測に依れば約五千萬本を算することを考ふれば驚くに足りない。かなり信憑するに足る豫測に依れば二二年の土人産護謨輸出は下記に上つてゐる。

リヨ及屬領	二、〇〇〇噸	バレムバン	八九四噸
ホルネオ南東部(パンチャルマシン)	七、〇〇〇同	ヂヤムビ	九、六七六同
ホルネオ西部、ボンチャナツク	一、六八七同	計	二三、一九三同
同	上	サンパス	一、九三六同

即ち約二萬三千噸で、二一年に於ける土人産護謨輸出の同様な豫測は六千噸である従つて本年度は一萬七千噸の増加を見た譯で、此に對するエステート産護謨輸出の増加總額は約一萬三千噸と見ねばならぬ。年末の三ヶ月に主として行はれた輸出の激増は生産増加のみならず舊ストックの搬出に基因してゐる。

土産品は其品質に於て劣等なことが多いが大概精製の爲め新嘉坡へ船積される。土産護謨の主要な地方市場の景況は下の如くであつた。

パンチヤルマシ 上半期の護謨價續落はピクル二〇盾に至つて其最低點に達した。此値段では生産不引合の爲め土人は採液を中止した。堆積したストックは價格改善と共に除々として賣拂はれたが、十月には突如として六〇盾の高臺に上りそれ以後昂騰を續けて十一月にはピクル七五盾の最高點に達した。此等の事情に依つて舊ストックは全然賣拂はれ主として新嘉坡向の輸出は激増を見た。

ボンチヤナツク 本州の護謨市場は隣接州と同様の景況を見た。年初の安値に依つて大量なストックの捌けかたは緩慢だつたが價格の昂騰と共に輸出は激増した。

バレムバン 止むを得ざる必要に出た安靜は小土人農園に好影響を齎らし又カンカアや其他の樹幹病の發生を減少せしめ、樹園の恐ろしい荒廢も別に大した困難をも生じなかつた。

バレムバン地方の土人農園は五百萬本を算し其中約六〇パーセントは生産中である
アムステルダム市場 年末三ヶ月間の價格改善の利益とそれに伴ふ大取引を除けば

アムステルダム市場に就て云ふ可きことは殆んどない。貿易は單に間歇的な活況を見せたに過ぎぬ。需要はかなり絶間なくあつたが供給は時たましか大きくなかつた。スモークドシートは殆んど常に缺乏し先物市場でも等閑され勝だつた。褐色クレープは何時も買欲多く其値段も標準物より僅かの開きを見せるに過なかつた。クレープとシートの値開は殆んど皆無であつた。値開の大きかつたのは栽培護謨とハードファンバラである。最初は約三片高だつたバラも遂に栽培護謨に對して約一片を讓るに至つた。二二年の輸入總額は五、二四八噸で其中二、二八八噸は十一回の定期競賣に持出され年末には全部賣切れとなつた。引渡高は合計七、七四〇噸に達し、従つて一月一日のストック三、七五一噸は十二月卅一日の一、二五八噸に減少した。即ち輸入が二一年と比較して甚だ僅少だつた事が分るが此れは倉庫費用の莫大なのに基因すると云はれてゐる。此費用は六月に至つて多少の減少を見たが未だ不充分であり、疑も無く二三年輸入に對する不良な要素を増大するであらう。此の莫大な費用の由々しい結

果は全ての包装を第一検査及び見本抜の爲め開くと云ふ規定が當該規則から除外されたことである。此の包装開きは然し倫敦ではやはり行はれて居り、事實必要であつて先物市場の引渡しには欲く可らざる制度なのである。見本の採取と供給に就ては若干の規定が新設されたが、それが屢々履行されず、又は不完全に行はれる爲め少なからず困難を醸したことは遺憾だと云はれてゐる。

グタベルチャ

年度中の政府農園チペテイルの産額は二一年の三、四六六噸に對して四、〇四五噸のグタ葉に上つた。二二年に製造されたグタベルチャ數量は二一年の七九、二八九斤に對して一〇〇、一五八斤である。年度中の賣却高は一〇六、八一九斤で中三一噸はアムステルダム七六噸は新嘉坡で賣拂はれた。二一年の賣却高は二六、六三五斤であつた。二二年の價格は五盾及六盾の間にあつた。グタベルチャの價格引下は護謨價の昂騰と伴つて二二年の販路に著しい好影響を與へた。

グタ葉

アツチエ及屬領の南海岸諸港から輸出されたグタ葉は約一六噸に上り二一年と同量である。

三、野生護謨及グタ種

グタゼルトウング

ボルネオ南東部 輸出は前年度と比較すると價格の昂騰に關連して著しく増大した即ち二〇七噸に對して七五九噸である。本年度の價格はビクル六盾乃至一三盾の間を往來した。

ボルネオ西部 本州の輸出も二一年の五三噸から一〇六噸に増加した。平均價格はビクル九盾であつた。

新嘉坡市場 年はボンチャナツク物ビクル九弗、バンヂヤルマシン物一四弗、バレムバン物一六弗の相場で明けた。護謨價の續落は同じくヂェルトウング價格の低落を

招致し、ボンチャナツク物は六弗、バンヂャルマシン物は七弗二分の一迄下落した。然し其後はヂェルトウングも景氣回復し、年末は一月の相場に復歸した。

グタハンカン

ボルネオ南東部 本品は主として亞米利加に輸出された。其取引高と價格とは前年度と大差がない。二一年の輸出は七三七噸で、二二年のそれは個人資料に依れば殆んど同額の七五八噸である。最高價格は二月のビクル五三盾で、其後市場は崩壊して六月に至り三五盾の最低點に達した。其後は漸次改善を見せ年末三ヶ月には激騰を來した。

ボルネオ西部 輸出は著しく増大し二一年の二二〇噸から三四九噸に上つた。仕向先は相變らず新嘉坡であつた。平均の取引價格はビクル三〇盾である。新嘉坡市場の相場はグタハンカンのボンチャナツク物が二三弗乃至三〇弗バンヂャルマシン物が三〇弗乃至四二弗であつた。

グタメラ及グタス

ボルネオ西部 兩者の二二年輸出合計は三二噸である。然し此中グタススの數量は殆んど云ふに足りない。グタススに對しては興味薄く價格も一〇盾乃至二〇盾の間を上下した。グタメラに對しては絶えず良好な値段が支拂はれ、一等品最高價はビクル五〇〇盾にも上つた。然し年末はビクル二〇〇盾の相場に終つた。

四、藥 種

コ カ

爪哇及マヅラの輸出は二一年の一、一三七噸から一、二八四噸に増大した。主要仕向地は又もや和蘭と日本であつた。獨逸及び西班牙への直接輸出は頗る貧弱な程度に止つた。外領からの輸出は杜絶へてゐる。

栽培は本年度に於て若干擴大されたが、コカイン取引に關する國際的な規定が絶へず嚴重になり、其結果販路は縮少されるから、又もや數年前に於けるが如く生産過剰

の危険がある。

戦前にはコカイン製造家連は結束して居り、それが爲めに製品の市價も維持出来たのであるが、現在では自由競争が行はれる爲めに價格の激落を來してゐる。

反對に歐洲に於けるコカ葉在荷は僅少で其持主は協議の末市價を確定した。爲めに原料品たるコカ葉の價格は昂騰した。然し確定價は當初餘り高かつた爲め秘露は粗製アルカロイドを歐洲市場に持ち出し初め爪哇葉の持主は其價格を引下げざるを得なかつた。それでも現在の値段は兎も角栽培家に取つては猶頗る有利である。

爪哇市場 年度初めの取引は甚だ僅少でアルカロイド保證無しのビクル三二盾を唱へ、市場は現物に對しては低落氣味にあつた。然し收穫契約に對しては一月―六月渡ビクル三五盾の値が支拂はれた。

二月になると和蘭の高値が傳はつて來た。爲めに持主は先持態度に出て、提供は杜絶へた。其後自由市場では大した取引は行はれなかつた。

規 那 皮

爪哇の輸出は二〇年の四、五二六噸、二一年の五、六一八噸に對して六、六一七噸に上つた。最大の買手は相變らず和蘭で五、〇〇八噸を引取つた。對日本輸出は二一年の七一四噸に對して七四九噸である。英領印度は六一三噸を買取り、英國は二四五噸を買取つた。政府側の輸出は二一年が七一八噸で本年度が七九七噸である。

スマトラ西海岸(バダン)からの輸出は一〇九噸に上り、其中一〇三噸は和蘭に向つた。二〇年及び二一年の輸出は各々一〇九噸及び一七二噸である。

アムステルダム市場 一月、二月、三月、五月及び六月にアムステルダムで行はれた藥劑規那皮の競賣に於ける一單位當りリミットは三〇仙で、七月、八月、九月、十月及び十二月に於けるそれは二三仙であつた。

工場規那皮は競賣には上らず、所謂規那契約の規定に従ひ規那事務所に依つて割當てられる。該契約の變改規定に従へば規尼涅製造家は生産者から一ヶ年、最少限度硫

酸規尼涅三〇〇、〇〇〇噸に上る、製造家が賣つた規尼涅數量と等量の規那皮を引取らねばならぬ。二二年に於ける引取高の正確な數字は不明であるが、下半期に於ける規尼涅需要漸騰の結果、其數量は前記最小限度よりも若干多い事と思はれる。

此數量の中バンドン規尼涅工場に對する引渡割當額は合計八四、三〇〇噸硫酸規尼涅に相當する規那皮である。其他の割當はアムステルダムで行はれる。下記は一單位當り平均價の概観である。

一九二二年 一月一日の計算	一五・八二 ^仙	一九二二年 七月一日の計算	一五・二三 ^仙
同 二月一日同	一三・五三	同 八月一日同	一四・二三
同 三月一日同	一二・三二	同 九月一日同	一三・八九
同 四月一日同	一二・七八	同 十月一日同	一三・六二
同 五月一日同	一五・二五	同 十一月一日同	一三・五九
同 六月一日同	一五・三九	同 十二月一日同	一三・二九

製造家連が引取つた數量の假清算一單位當り標準價格は二二年を通じて變化無く六仙百分の三であつた。

アムステルダムの貯藏高は

一九二二年 一月一日
同 十一月一日

五二、二二六包規那皮
五一、一七〇同

に上つたが、其後の數字は不明である。

製造家連が引取つた規那皮の數量は契約參加諸農園の普通産額以下だつた爲めに、後者に對してはアムステルダムに於ける割當並びにバンドン規尼涅工場に對する割當に必要な以上のストックは農園に貯藏することが許された。

諸農園の二二年十一月末の規那皮現在高合計は約二、四〇〇噸に上つた。

猶英國の生産者連は二、五〇〇パウ強の規那園を所有してゐるが彼等も同じく生産者組合を作つて居り、其規那皮産額は全部倫敦の一規尼涅製造家に供給してゐる。此の契約は一九二七年迄繼續する。

非參加農園で其規那皮産額が今の處徴々たるものがあるが將來は甚だ多大となる可きものに少なからぬ日本の資本が投下されてゐる。

製造家連が戦時中未曾有に釣上げた硫酸規尼涅の値段は最早小賣には高過ぎ、漸落歩調にはあるが、規則的な消費を持続するには未だ餘りに高い。若し低落が急來せねば生産過剰の恐れがあり栽培家はその悪影響に悩むであらう。

所謂 Orindum 工場を爪哇に設立して、自ら競争者として市場に活動し、依つて以て市價の高低により以上の發言力を獲得せんとする生産者側の計畫は二一年に於て協力不充分の爲め實行の運びに至らなかつた。斯の如き企てが何れ程成功の機會を有したか否かはしばらく別とし免も角その眞剣な態度は製造家連を動かしたと見へ、後者は二一年末に協議を開いて一九二四—二八年に對する第三回の五ヶ年契約を締結せんとし、少なからず栽培者連に讓歩して、成立の曉は第二回契約の一九二二—二三年度に對しても其効力を溯及すると迄聲明した。上記の契約は本年度初めに至つて愈々成立した。

五 樹 脂

安息香護膜

スマトラ西海岸の取引は本年度に於て著しく昨年度の激減から回復した。其輸出は六二噸に上り、主として和蘭と佛蘭西へ向つた。年初の價格はビクル當りノミナル六〇盾で、上半期には殆んど變化なく、下半期に至つて良好となり、續騰して遂に年末の九〇盾迄昂騰した。

新嘉坡市場の値段はバダン品第一番物で五八弗乃至六五弗の間を往來した。

バレムバン物も頗る活潑な市況を見せ、特に上九ヶ月に於て良好であつた。本州の輸出は前年度の一、四七七噸に對して約二、四四五噸に達した。バレムバン上等純粹物の値段は年度中三五盾から五〇盾に上り再び三五盾に下つた。シボルガ物とバレムバン物との混合された所謂一等品は初め九〇盾を擧げたが年末には下落して約八〇盾となつた。

新嘉坡でのバレムバン普通品は二五弗乃至二七弗で取引された。

アツチエ及び屬領の輸出は二一年の六五噸に對して約四四噸であり價格は二一年のビクル四〇盾に對して約三〇盾であつた。

ペラワンからは約四噸の船積を見たが、おそらくタバヌリから來たものであらう。

コ バ ル

爪哇及マヅラのコバル輸出は最早何等の意義を有たなくなつた。

マカツサ 年初は特に獨逸側の白色軟質 Blocky 物に對する良好な需要で沈靜に初まり、英米及び日本も亦買手として現れた。

其他の種類に對する需要は限られて居り、四月にはロバコバルの取引が若干あり、五月にも續いたが、軟白品の相場は間もなく著しく良化して需要も激増した。

六月には全ての種類に對して需要多く、値段も相當であつたが、七月にはロバの高値を除けば軟質物は若干後退した。

八月及九月の市場はロバに對しても亦軟質物に對しても手堅く、硬質物は沈靜であ

つた。下記は一月、五月、九月、及十二月の相場である。(單位ビクル當り盾)

種 類	一 月	五 月	九 月	十二 月
ルウペンノカ Real hard	二四一三〇	二四一二八	二三一二五	二三一二五
ロズ Half hard unass	一五一一三	一五一一三	一五一一五	一五一一三
ロズ Chiefly bold	二七七一三	二七一二九	二九一三一	三〇一三四
ダスト Blocked or not	六	九一一一	一〇一七一	九一七一〇
ソフト Blocky unass	二一一一七	二一一一七	一四一一八	一一一一七
スマ ラ タ	二〇一一三	二〇一一三	二〇一一三	二〇一一三
チアムクー Hard mixed w. halfh	一八一三三	一八一三三	一八一三三	一八一三三
パプア Soft unass	九一一五	一一一七	一一一七	一一一五
コタプナ Unass	一四一一〇	一四一一三	一五	一五

二二年の輸出は約一〇五、六二六ビクルに上つた。二一年の輸出は四五、七〇八ビクルで本年度の半分にも上らなかつた。

ゴロンタロ 軟質白色物は上半期に於て和蘭への捌け方順調であつたが、年末には本品に對する市價も後退して輸出は澁滞した。硬質物に對しては年度を通じて殆んど

需要が無かつた。唯時々新嘉坡向の小取引を見た丈けである。輸出は各種を併せて四一〇〇ピクルに達した。

タルナテ 外國(英、蘭、新嘉坡)への輸出は二一年の一、四〇四噸に對して一、〇九四噸であつた。移出は四〇〇噸から僅か五〇噸に激減した。

資金缺乏の爲め諸租借地は充分の開発を見ず支那商人等は其のストックを歐人商館へ譲り渡すの必要に迫られ、現在では輸出は殆んど全く後者の手中にある。然し歐人商館の財政状態もかなり貧弱であるから諸租借地の實際的な大開發は望まれ得ない。

アンチヨル物の価格は低値で續き、一〇乃至一一盾の支拂を見たが戦前よりも猶低値である。バンガル物は年末に至つて一三盾乃至一四盾となつた。米國は普通り最大數量を買取つた。和蘭への輸出は減退しつつある。

タ マ ル

爪哇及マヅラからは二〇年の一、七七二噸、二一年の一、一三八噸に對して一、九

五四噸の輸出を見た。

バタビヤ 市況は年度を通じて良好だつた。前年度は六〇盾乃至六二盾に終つたが本年度に至つては価格は續騰し七月の九四盾臺に達した後ち再び下落し初めた。然しその下落も當初は激甚でなく約九〇盾以下には達せなかつた。

市場は十月以後に至つて弱氣を續け値段は年來の八一盾二分の一乃至八三盾迄漸落した。注文は主として亞米利加側から來た。

前年商業會議所が任命した委員會は七月中にダマルの標準見本を撰定した此等はスマトラ及ボンチャナダマルに大別され更に使用された篩の大きさに依り一號から五號迄の五種類に小分されてゐる。

パンチャルマシン 二二年の供給は値段の續騰に依つて激増した。輸出は主として新嘉坡へ向つたが、優良品たるダマルマタクチンは主として爪哇に仕送られた。ダマル各種の相場は下の如きものであつた。

ダマル、ラサツク ビクル一二盾乃至一七盾
同 マダクチン 同 二三盾同 四一盾

ダマル、ピラウ ビクル二二盾乃至三二盾
同 パトウ 同 二五同同 三三同

輸出合計は二一年の二六二噸に對して約七五五噸である。

ホンチャナツク 輸出は二一年の四七五噸に對して八二〇噸に上り、新嘉坡に向つた。ダマルダギンの需要は年度を通じて良好であつた。ダマルクチン上等品の相場は年初二六盾で其後は二二盾乃至二五盾の間を動搖した。然し十二月に至つて価格は激騰し三四盾の相場に終つた。

スマトラ東海岸 輸出は約六一噸である。

アツチエ 主要な輸出はシンケルのそれで一二〇噸に上り、其他タバトアンは五〇噸強、ロッセウマウエ及ラングサは一〇噸であつた。価格は品質に従ひビクル一八盾乃至四〇盾に上つた。

六 木 材

チ ー ク

造船業其他に於ける目下の不景氣の直接な結果として外國の需要僅少だつた爲め、チークの輸出は二一年よりも多大ではあつたが尙甚だ貧弱である。原料 Onboard チーク輸出は三、一六七立方メートル突で、輸出の異常に僅少だつた二〇年と比較しても猶二五パーセントにしか當らない。主要仕向先は和蘭であつた。

精製チーク及鐵道枕木の輸出も亦甚だ微々たるものであつた。枕木の輸出は六二立方メートル突で其中四一立方メートル突は和蘭に船積され、精製チークのそれは八二立方メートル突、其中六〇立方メートル突は和蘭に向つた。

爪哇の市場 既に二一年の下半年に於て木材界に影響を及ぼした不景氣は二二年に至つて益々其度を強めた。一方に於ける徹底的な經費節減と事業縮少、又地方に於ける政府並びに私人側からの木材の大額な提供は價格の激落を招來する外なく、月々の政府木材競賣に於ける限界價格引下はその先驅を成した。然し如何なる價格の引下も

刺激を與へず、取引閑散は持續した。

チーク薪材も亦木材のみならず石炭價格の低落に影響された。長期間の雨季は上半期の需要を若干増大せしめたが其後に再び閑散となつた。薪材の供給は林務局の生産減少聲明に拘らず來年度に對してさへも各方面共頗る順調である。

黒 檀

黒檀の輸出も亦不景氣の影響に悩むである。和蘭は二〇年に大數量を引取つたが、其後は買手としての地位を著しく下落し、之れに代つて日本は最大の買手となつた。メナドの輸出は一九噸、マカッサのそれは四四・八七〇ピクルに上つた。

トミニー灣からは灰赤色の縞黒檀が輸出される。佛蘭西は本年度に至つて再び若干の數量を買付け支那及び日本への輸出も少なくないが、縞黒檀の市況は猶弱氣を續け特に和蘭では賣込甚だ困難である。二二年のゴロンタロ船積高は約二四、〇〇〇ピクルである。

タルナテ 僅か六〇三噸にしか上らなかつた前年度の輸出は二二年に至つて二三八噸に激増した。此中外國行は二〇七噸で全部日本に向ひ、船積は殆んど全くカイルバ（ハルマヘイラ北部）から行はれた。内地への船積は全然マカッサ行であつた。

ガアルウ材

此の貴重な木材の輸出は尙甚だ僅少で一年約一〇噸に達するに過ぎぬ。唯一の仕向地は新嘉坡である。同地の市場は一等品ピクル一、〇〇〇弗に明けたが漸落して十二月の八八〇弗に終つた。

染料 木

本品の輸出は爪哇からも外領からも行はれるが最大の買手は葡領チモールである。近年に於ける輸出は一年二〇〇乃至二五〇噸を出でない。

白 檀

爪哇の輸出は主として新嘉坡に向ひ一ヶ年一五噸乃至二五噸である。

マカツサの相場は一月の六〇盾乃至六二盾から九月の四〇盾乃至四一盾迄後退した四月迄の需要は良好だったが五月及六月中の市場は閑静で七月には提供のみで買手無き状態であつた。八月に至つて若干の取引が成立したが、其後市場は閑散を極めた。然し船積は支那及日本に對して規則的に行はれ、獨逸も一度少量を買付けた。マカツサの輸出は一、八八九ビクルである。

松材 Deal

最近數年間稍々重要となりつゝあつた濠洲への輸出は本年度に至つて激減した。濠洲政府の木蠹蟲ある木材に對して採る諸手段は疑も無く松材の取引を猶一層縮少せしむるであらう。

爪哇では野生木材が一時的な目的の爲めでなければ一常にチークの代用品として使用される所から、上記の悪要素は本島に於て最も強く其の影響を及ぼした。本年度の移入はそれ程多大ではなかつたが、數年前から持越の大ストックと需要の激減とは

甚だしく賣捌きを困難にした。チーク價格低落の爲め松材との値開きは殆んど消滅し後者を賣込には全く誓文拂的な値段でなければ不可能だつた。

パンチャルマシン ボルネオ松材の取引は激減した。大多數の商人は甚だしい損失を被つて買氣消滅の有様である。私人資料に依れば輸出は約二四、〇〇〇立方米突に上り殆んど全部爪哇に向つた。

アツチエ及屬領 私人資料に依るシンケン、シナバン及びタミアンの船積高は合計一五、〇〇〇立方米突である。アツチエの市價は立方米突約五〇盾に上つた。パレムバンの輸出は二〇年に於て甚だ多額に上つたが本年度は殆んど云ふに足らない數量である。

七皮 革

水牛皮及牛皮

爪哇及マツラの水牛皮輸出は二〇年の三、八二六噸二一年の二、〇〇九噸に對して

二、一一九噸である。本品の主要仕向地は米國と和蘭各々七一七噸及び七七三噸の船積を見た。米國への輸出は減退傾向にある。

爪哇及マヅラの牛皮輸出は二一年の一、二九九噸に對して二、二一七噸に上り、激増を示してゐる。主要な仕向地は和蘭(九六〇噸)、米國(五九五噸)、及び佛蘭西(四〇二噸)である。西班牙への輸出は甚だしく減退した。

外領の輸出は水牛皮が二一年の三三四噸に對して八一三噸、牛皮が一〇一噸に對して一七二噸に達した。

山 羊 皮

牝山羊及牡山羊皮の輸出は二〇年の四五二噸、二一年の四〇七噸に對して四七六噸に上り殆んど全部米國に向つた。

爪哇の皮革市場 市場回復す可しと云ふ輸出業者の期待は裏切られて、上三ヶ月の市況は主として外國消費地の弱氣に押されて不活潑であつた。唯牝山羊皮は一月上旬

に若干の取引を見せ品質に従ひ一盾乃至二盾四分の一に昂騰したが、二月に至つて再び半盾乃至二盾二〇仙に激落した。

四月乃至六月の市場も不活潑を續けた。普通ならば皮革市場の大事である爪哇正月向の屠殺に對する輸出業者の興味は甚だ貧弱であつた。

屠殺税の引上は更に又輸出向皮革市場を悪化した。税金を出来る丈け遁れる爲め大形の牛を共同で屠殺する土人が多く、その皮は頗る重厚で輸出には不向であつた。

其他の惡要素としては、背又は臀部に烙印する結果皮の貴重な部分が失はれると云ふ鞣皮業者の苦情がある。其結果獸醫局は爾今烙印を出来る丈け股の下部に行ふ可き旨を指令した。

市況弱氣は八月にも續き輸出業者はその値段を引下ぐるにさへ至つたが、同月下半には歐米からの突然な需要に依り明瞭に強氣となつた。然し又輸出業者側からの大需要は支那人及び土人仲介商人の言値引上となり、間も無く取引不可能となつた。

需要は牝山羊皮に對して特に強く値段も一盾三五仙から一盾九五仙に激騰した。九月末に至つて市況再び軟弱となつた。十月第二週は若干景氣改善したがそれも牝山羊皮に限られ、後者は二盾一〇仙に上騰した。此強氣は月末迄繼續し値段は二盾二五仙時に二盾三〇仙にも上つた。牛皮に對しても興味増大し十一月上旬には消費諸國からの大注文に依りビクル一三五盾に飛躍して最高記録を作つた。水牛皮は初め買手少なかつたが十一月の最終週に至つて興味増大を見せ五七盾五〇仙乃至六〇盾に上騰した。然し一般の景氣は其後間も無く反動を來たし十二月は弱氣で通し年末の價格は再び牛皮輕物一一〇盾、中物九五盾、重物六〇盾乃至六五盾、水牛皮は五七盾五〇仙及び五〇盾に低落した。下記は本年度の相場表である。

一九二二年中爪哇市場水牛及び牛皮牝山羊及び羊皮相場表

種 類	單位	上三ヶ月		四月—六月		七月—九月		下三ヶ月	
		最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
水牛、米乾燥	斤當り仙	七七一八	二六一七	二六一八	二五二七	一八一〇	二七一八	一八一三	一八一〇

種 類	單位	上三ヶ月		四月—六月		七月—九月		下三ヶ月	
		最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
同 第一號	ビクル當	五七	五五	五二—五五	五〇—五五	六〇	五五—六〇	六〇—六三	五五—六〇
同 第二號	同	四二	三五	三七—四〇	三五—四〇	四五	三五—四五	四一—四七	三五—四〇
同 屠 物	同	三〇	二〇	二〇—二五	二〇—二五	三〇	二五—三〇	三〇	二〇—三〇
牛、未乾燥	斤當り仙	三—三六	二—三七	三—三〇	二—三〇	二—三〇	二—三〇	二—三〇	二—三〇
同 第一號	ビクル當	九五—一〇五	七五—九三	八五—一〇〇	七五—八五	二〇	九〇—一〇〇	二〇—二〇	七〇—二〇
同 第二號	同	六五—七〇	六〇—七五	六五—七〇	五〇—七五	七〇	五五—七〇	七〇—一〇〇	五〇—八〇
同 屠 物	同	三五—三五	三〇—三〇	二五—三〇	二五—三〇	四〇—四〇	二五—四〇	四〇—八〇	三〇—四〇
牝山羊第一號	一枚當り盾	二—二	一—二	一—二	一—二	二—二	一—二	二—二	一—二
同 第二號	同	—	—	一—二	一—二	二—二	一—二	二—二	一—二
羊皮 第一號	同	—	—	一—二	一—二	二—二	一—二	二—二	一—二
同 第二號	同	—	—	一—二	一—二	二—二	一—二	二—二	一—二

鹿 皮

マカツサの輸出は二一年の九八三ビクルに對して一、〇〇三ビクルに上つた。其大部分即ち八九〇ビクルは亞米利加に向ひ、殘部は日本及支那に向つた。鹿皮の市況は一般に弱氣で需要僅少又は皆無を啣ち取引の成立數も甚だ僅少であつた。年はビクル

二二盾乃至二七盾五〇仙に明け其後續落して八月、九月及び十月中一七盾乃至二〇盾で固定した。十一月は市場益々閑散となり一五盾乃至一六盾の最低價を見せた。十二月の市場は稍々活潑化し需要も良好で値段は一八盾乃至二一盾迄回復した。

鳥皮

マカツサの移入高は一、二三六、七六〇盾に上つた。此移入の大半は八月乃至十二月に行はれた。輸出は私人資料に依れば合計七三、六〇九枚で其中和蘭へは四〇、九六五枚、佛蘭西へ一七、四四九枚、獨逸へ三、三〇九枚の船積を見た。

年は軟弱な市況と需要僅少に明け、若干の種類は移入高微々としてストックは賣盡されてゐた。一月の市況は下の如くであつた。

ミックスド、バプア 三〇一—三六〇盾 アルー第一號 一、二〇〇—一、三〇〇盾
メラウケ 七八〇—八一五盾 アンスリス 六二五盾

取引は小額なものが若干あり、上記の相場は七月末迄續いたが、其後各種の最高最低相場が餘りに高いことが明かになつた。唯バプア鳥皮のみは三月に於て稍々強氣を

示し興味も増大したので四月及び五月に於ては三六〇盾乃至四〇〇盾の値が支拂はれた。然し需要の良好と輸入高の僅少に拘らず六月に至つて相場は三四〇盾乃至四〇〇盾迄後退した。

メラウケ物とアルー物は八月に至つて買氣進み輸入量は容易に吸収された。十月の市況は頗る弱く價格は各種に亘つて低落した。此市況は頗る多大の移入と同時に起つたのであつた。十一月に至つて市況は更に一層惡化し一年中の最低相場を見せた即ち

ミックスド、バプア 三〇〇—三二〇盾 アール 一 七五〇盾
メラウケ 四〇〇—五〇〇同 アンスリス 五〇〇—五七五同

十二月になつて需要は未だ弱氣だつたが價格は著しく改善した。

タルナテ 二一年の輸出は未だ二八四コルセ(二十枚)臺にあつたが二二年のそれは僅か一二三コルセに激減した。輸入は二一年の九一コルセに對して三一八コルセである。

八、藍

此染料の爪哇輸出は益々その意義を失ひつゝある。生産費の嵩む反面に市價は低落するといふ事情の爲めに栽培面積は縮少される一方である。之れは少ない程度ではあるが土人産藍に對しても同じく云はれ得る。

爪哇のパチック工場に於ける天然藍は益々人造藍に依つて驅逐されつゝある。二二一年の爪哇及マヅラの輸出は乾燥藍一三噸で仕向地は和蘭、新嘉坡及び日本であつた。

土人産藍の輸出は四五噸に上り英領印度及び新嘉坡に船積された。二〇年及び二一年に於ける此等の數字は各々乾燥藍三一噸及び七〇噸、土人産藍一五七噸及び六噸であつた。

九、珈 琲

珈琲の明白な世界ストックは各十二月卅一日現在で左記に上つた。(單位千袋)

歐洲及航海中	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二〇	一九二一	一九二二
北米及同	二、五八八	二、三九九	二、八九九	リ	オ、在荷	五三二
	五、〇〇三	四、四四五	四、三三四	サント	ス同	三、一八〇
						七、〇七三
						二、二二二

パロア、在荷、

一三三

四六

三三

計

一一、三三六

一一、八〇三

一〇、八二九

歐羅巴及北米でファーストハンドの在荷から引渡された合計は下の如くである。

(單位千袋)

ブラジル珈琲	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二〇	一九二一	一九二二
其他	八、六三八	二、三六五	一一、〇〇〇	計	一四、三八〇	一八、〇五一
	五、七四二	六、六九六	六、七九二			一七、七九二

爪哇のロブスタ珈琲輸出は過去三ヶ年に於て左記に上つた。(單位噸)

仕向地	一九二〇	一九二一	一九二二	仕向地	一九二〇	一九二一	一九二二
和蘭	二〇、三六六	二一、七六七	七、一六三	丁抹	二九	三九〇	五五一
英國	二、四三三	六七	三五	北米	六、四九二	三、七〇六	二一、五九九
獨逸	三三	八三	—	加奈陀	一五	—	六
佛蘭西	二、四五四	五、七七八	七、六三二	南米	—	—	二七八
伊太利	八六一	八三	二九二	埃及	六五四	一〇五	二四四
西班牙	—	三三二	一、八〇三	英領南亞	—	五七	三三
瑞典	五二	三七	一一〇	英領印度	八六八	五	四三四
諸威	四三九	二三	三	新嘉坡	三、一九五	三、三九五	六、四四四

間も無く又軟弱となつた。

三月下半の市況は突然一變した。蓋し米國はブラジル政府がサントス珈琲の價格査定に關して採る可き手段を豫想して買注文を送り、和蘭からも少なからず買注文が受取られて、支那人の投機高も亦買煽つた一方に於て其次の週に至り益々大量の珈琲が輸出業者の手許に流れ込むに至つて、空契約の持主は慌ててカバーし始めたのである。其結果價格は上騰し、若干の輸出商が三月末に至つて賣手として出場したに拘らず、若干の動搖を除き高値は四月初め迄續いて、四月―五月渡に對しては、三九盾乃至四〇盾の値が支拂はれ、ロプスタ二二年收穫の八月―十月渡は三七盾で買手を見出した。四月初め數日に於て値段は下落したが其後の市場は五月初め迄續騰し、當時投機商は五月渡四二盾二分の一、二二年收穫八月―十月渡四〇盾の最高價を支拂つた。

消費諸國に於ける相場の等價と比較して餘りに高い此の爪哇相場は輸出業者をして少なからぬ數量、特に二二年收穫の再賣却を爲すに至らしめ、忽ち價格の暴落を惹起

した。ロプスタ五月渡は四〇盾二分の一、二二年收穫八月―十月渡は三七盾に後退した。輸出業者に依つて提供された數量が消化され盡すと共に、價格は一盾の上騰を見せ、此相場で五月中頃迄規則的な取引があつたが、其後供給増加の結果として市況は再び軟弱となり、六月第一週に於ては六月渡三七盾乃至三六盾二分の一、二二年收穫八月―十月渡三七盾四分の三の値段で満足せねばならなくなつた。

輸出業者の再現に依つて市場は活潑化し六月末には二二年收穫及び二二年收穫に對して三八盾四分の三乃至三九盾の値が支拂はれ、其後七月初めの小低落の後三九盾乃至三九盾四分の三の指値を見た。七月の相場は甚だしく動搖した。

新收穫の出荷が豫想以下だつたので相場は八月下半に至つて八月―十月渡四一盾四分の三其後の先物四一盾乃至四一盾二分の一に上騰し二三年一月―三月渡は四一盾で大額の取引を見た九月第一週が沈靜に過ぎた後價格は亞米利加側の新注文の結果として更に九月―十月渡四三盾四分の一乃至四四盾迄昂騰した。其後の先物は空賣が多か

つた爲め値段は左程上騰せず一月—三月渡に對しては最高價としてビクル約四二盾の指値を見たに過ぎなかつた。九月末になると買欲は既に減少し始め十月下半に至つては以前約定した十月渡の先物の決済に急がしく手持在荷が不充分だつた爲めに價格は消費國のオツプアーを遙に凌駕する程の高臺に上つた。此等の契約が時としては最高の取消價格として四七盾を見せて兎も角十一月初めに決済されて仕舞と市況は再び軟弱となつた。十一月中旬に於ける同月渡の相場は四二盾二分の一乃至四二盾八分の五其後の先物は四二盾二分の一に上り同月末は即時渡に對して四一盾四分の一乃至四一盾二分の一、一月—三月渡に對して四二盾四分の一の値が支拂はれた。

十二月上旬に至つて需要は再び増大し同月中旬の値段は十二月—一月渡四二盾四分の一乃至四二盾二分の一、二月—三月渡四二盾四分の三乃至四三盾に上騰した。

此高値は十二月下半にも繼續し十二月—一月渡の若干數量に對して四六盾四分の三の値さへ支拂はれた後ち年末は一月渡四四盾四分の一乃至四四盾二の一、二月—三月

渡四四盾二分の一乃至四四盾八分の五の需要に終つた。

二三年收穫の八月—十月渡には十二月下半に約四〇盾で取引があつた。

爪哇珈琲 爪哇に於ける爪哇珈琲の取引は微々たるものである。取引は二月中旬に至つて初めてビクル七四盾の値で成立し、其後價格は一盾二分の一乃至八二盾に上騰し、五月中旬には此値段で若干の賣買が出来た。閑散を續けた市場は七月上旬に至つて再び取引を見せ、供給僅少の結果八四盾、間も無く八六盾乃至八七盾の値が支拂はれ、同月末には最高價としてビクル八八盾の指値があつた。八月に至つて市況は軟弱となり同月末の價格は八三盾乃至八四盾迄後退し、其後九月には八五盾、同月末には八六盾の値が約定され得た。市況は其後閑弱となり十一月下半に至つて初めて若干の取引が八八盾で行はれ、同月末は八九盾の値が支拂はれた。十二月中旬には若干の數量が八五盾で市場から引取られた。

パレムバンロフスタ 年度は一月渡に對する需要二二盾四分の一、提供二二盾二分の

一で明け、二月―三月渡に對しては二一盾四分の三のオツプアーを見るに過ぎなかつた。思はしい取引のあつたのは同月中旬に至つてからで、即時渡は二二盾二分の一乃至二二盾四分の三で約定され、二月―三月渡に對しては二二盾二分の一の指値が出た。其後價格は即時渡二二盾四分の一乃至二二盾二分の一迄後退し此相場は二月末迄引續いた。若干の小動搖を除いて市價は其後漸騰し三月末には四月―五月渡二七盾四分の一乃至二七盾二分の一に上り、四月末には五月―六月渡三一盾四分の三乃至三二盾四分の三に達した。

五月の市場はビクル二九盾乃至三一盾二分の一の相場で弱氣だつたが六月初めの市況は再び強氣で同月末迄押通し、雜多な取引が二九盾乃至三二盾で成立した。其後六月末は七月渡三三盾四分の一乃至三三盾二分の一の値で約定され、其後の先物に對するオツプアーは二分の一盾乃至一盾の低値であつた。

七月初めの數日は反動を見せて一盾乃至一盾二分の一を後退したが、其後價格の昂騰は繼續し、同月下旬には即時渡三四盾四分の一乃至三四盾二分の一の値が支拂はれた。當時投機商は手持在荷を賣拂ふ時機到來せりと見て大數量を提供したが、充分の輸出注文が無かつた爲めに價格は三一盾四分の三乃至三二盾四分の一に後退し、此相場で八月中頃には若干の取引があつた。

八月下半に至つて市場は著しく強氣となり價格も即時渡三二盾八分の五乃至三三盾九月渡三二盾乃至三二盾二分の一迄回復し、其後續騰して九月末には十月渡三三盾乃至三三盾四分の一、十一月渡三二盾八分の五乃至三二盾四分の三で約定を見た。價格は更に十月―十一月渡三三盾四分の三、十一月―十二月渡三三盾二分の一迄昂騰したが、十月下半に至つてバレンバン及びパタビヤの若干支那商人が其賣約した珈琲を手持しない事が分つて、空契約のカバーの爲め需要激増し、價格は十月渡三七盾、十一月渡三五盾に上騰した。其後小反動を來して上記兩月物に對しては各々三五盾及び三四盾に後退したが即時渡に對しては三八盾二分の一、若干數量は四〇盾の高値でさへ

約定されることが出来た。其後同月末には三八盾乃至三八盾四分の一で取引成立し、此即時渡相場は十二月第一週に對しても繼續した。十二月中旬には即時渡に對してピクル三八盾四分の一乃至三八盾二分の一の値が支拂はれた。其後價格は下落して十二月末の相場は即時渡三五盾四分の三乃至三六盾、一月―三月渡三五盾乃至三五盾四分の一であつた。

ケルウ珈琲 相場は一月の七三盾乃至七四盾から七七盾迄漸騰したが同月末には七五盾に低落し、此値段で二月にも亦取引を見た。三月初めには再び七七盾の値が支拂はれ其後値段は八〇盾に上つたが取引は僅少だつた。供給缺乏の爲め全然閑散を極めた市場は、五月末に至つて始めて八三盾で若干の小取引を見せ、此相場は六月にもノミナルで繼續した。七月は特筆する程の取引も無く、八月に至つて八四盾で若干の賣買が成立し、需要は此値段で存続したが賣手は八五盾を唱へた。九月末及十月初めには最後の値段で若干の取引があり其後同月末には市場に流入した若干數量に對して八

六盾の値が約定され得た。

十一月及十二月の市場は閑散を極め取引皆無であつた。

ハリ―珈琲 年初二ヶ月半には何等の取引も無く三月中旬に至つて初めて再精選バリ―珈琲がスラバヤ即時渡七二盾の値段で若干數量の賣買を見た。六月中旬には六月―七月渡が八〇盾で取引され、興味は七月初め迄持續した。七月中旬にも少量の取引が七六盾二分の一で成立し、其後は數回七七盾で提供されたが買手は無かつた。十月初めには賣手倉庫渡七六盾で提供されたが之れも取引に至らなかつた。其後年末迄全然取引を見ずに年を送つた。

チモール珈琲 六月中旬に至つて初めて六月―七月渡が （註） 八四盾で取引された。七月初めには需要は八〇盾迄あつたが賣手は無く、七月中旬は需要八二盾提供八三盾、八月初めは提供 （註） 八二盾、十月初め需要八〇盾、提供八二盾であつた。十一月初め八〇盾の提供があつたが取引成立せず、其後も數回八〇盾及び八一盾の値で提供され

たが買手の興味は皆無であつた。

バタン珈琲、(マンダイリン、アンコラ、シボルガ、及バダンインテリオル)。高値の爲め年始めの市場は興味起らず、マンダイリンの小數量が一月―二月渡八二盾で取引され、バダンインテリオルは七二盾二分の一で探されたが提供は一盾高かつた。アンコラ及マンデリンに對しては一月末八二盾の指値があつたが賣手は八五盾を唱へて譲らなかつた。二月中價格は昂騰を續け、アンコラ及マンダイリンに對しては八三盾の需要と八六盾の提供ありバダンインテリオルは七六盾で取引を見た。三月中にはロプスタの後を追ふてバダン珈琲に對する興味が増大した。八六盾と云ふ云値さへ出たが新收穫手近かの爲めに輸出業者は先持態度に出でた。バダンインテリオルは八〇盾迄上騰し得た。然し在荷缺乏の爲め取引は無く唯シボルガが八五盾二分の一で賣買されただけである。月末に至り輸出業者はシボルガ、マンダイリン及アンコラに對して八六盾で指値したが賣手は無かつた。四月はマンダイリン及アンコラに對する需要強く價

格も續騰して遂に九二盾のオフアアを見たが品拂底の爲め取引は不可能だつた。小額のシボルガに對しては遂に九〇盾の値が支拂はれた。新收穫の荷動き間近の爲め五月には價格の變動を來して低値の供給が多であつた。マンデリン及アンコラは各々八七盾二分の一及八七盾の値で取引されバダンインテリオルは八三盾で提供されたが買手は無かつた。六月は全線に亘つて軟弱な市況を見せた。新收穫の流入が緩慢だつた爲め價格は七月中再び上騰した。アンコラは八九盾で取引され其他の種類は買手の指値と賣手の提供價とが餘りに隔つてゐた爲め取引皆無であつた。八月中も市場は振はず未精選珈琲に對する云値餘りに高い爲め精選者は輸出業者が支拂ひ得ない程の値段を要求した。同月末に至つて、アンコラ及マンダイリンは八五盾に指値されたが賣手は八七盾を唱へてゐた。九月には供給多大となり價格も初めは後退したが月末には回復した。セコンドハンドでは小數量のアンコラが八八盾で賣拂はれた。十月はバダンが未精選珈琲に對して餘りに高い値段を要求した爲め市場沈静となり、ファーストハ

ンドの取引は成立しなかつた。十一月中も亦精選者の云値高の爲め興味が薄く、小數量のアンコラとマンデリンがさへバダン八八盾で取引されたに過ぎなかつた。十二月の云値は八六盾に下り、此値段で若干の取引が成立した。

バダン市場

年初の土人産ロブスタ珈琲の相場は、ビクル約二二盾で漸騰を続け、五月には三〇盾となり、十月には三七盾の支拂を見、年末はビクル三八盾の相場に終つた。本年度中のロブスタ珈琲輸出は二五、〇〇〇ビクル強で其中約一四、〇〇〇ビクルは和蘭に船積され、残額は大部分佛蘭西に向つた。

マカツサ市場

マカツサで取引される主要な珈琲種類はチモール、ブンギー、トリアゲ、ボンタイン、及バリー珈琲である。此等各種の本年度に於ける對外輸出合計は同地商業會議所の資料に依れば三六、六一三ビクルである。二一年の輸出は二一九、四四六ビクルに上

つた。年初の在荷は買慾旺盛の爲め著しく減少し、市況も甚だ強氣であつた。二二年のチモール收穫は二〇、〇〇〇ビクルと見積られ、ブンギー珈琲の二二年産額は一五、〇〇〇ビクルと豫想された。此兩種に對する需要は甚だ強く、ストックの激減した事情と相俟つて、三月には先物に對して多大の需要があつた。又トリアゲ及ボンタイン珈琲に對しても買手が多かつたが供給は殆んど皆無であつた。然し五月以後供給量は著しく増大した。バリー珈琲には何等の取引も行はれなかつた。價格の漸騰傾向は五月中旬に至つて買手が若干の種類を除き全て買進まなかつたので下落を來し、其後の市場は不安な景況に過ぎたが、九月に至つて再び良好な需要が起つた。十月の市場は手堅く價格も昂騰を續けたが興味は漸次軟弱となつた。年は沈靜な市況と低値とに暮れた。下記は本年中に於ける主要な珈琲種類に對する相場である。

種類	一月	五月	九月	十二月
チモール、精選、二一年物	七二	七五	—	—
	ビクル當り相場盾			

チモール、精選、二二年物	一七九—八五—七二	七五—七六	七五—七二
アンギー、未精選約一〇%二二年物	七一	—	—
同、二二年物	八〇—八二	八二—八三	七九
同、再精選二二年物	—	九〇	九二—九一
トウリアゲ	三五—四〇	三七—四二	四〇—四四
パチヨ—ボンタイン未精選約一五%二二年物	—	—	六五—六六
同	—	七六—七三	—
同、精選	二二年物	—	—
パリー再精選	—	八三—八〇	七四—七五
同	—	—	七三—七二

フアンシー珈琲の模造 スマトラ西海岸では爪哇に移出したバダンのフアンシー珈琲が爪哇で劣等品と混合され、爲めに西海岸からの珈琲が常に有してゐた立派な聲價を甚だしく損傷すると云はれてゐる。外領のフアンシー珈琲では其他にもセレベスのブンタイ珈琲が同じく模造されてゐる。然し模造は仕出地それ自身で行はれる。最近セレベスではブンタイ珈琲が特別に此目的の爲めに輸入された殆んどブンタイと同一の外観を有つ南米の珈琲と混合されるが、此手段は世界市場に於けるフアンシー珈琲の聲價を恐ろしく傷つけるに違ひない。マカッサの珈琲輸出業者は此不正手段を撲滅

する爲め相互に南米珈琲の輸入をせない旨の契約を締結せんと努めた。

然し輸出業者の一人で同時に南米珈琲を輸入する一商館が反對した爲め契約は成立しなかつた。甚だ遺憾なことである。之に關連してマカッサ商業會議所は政府側から世界市場に於けるフアンシー珈琲の聲價を維持する爲適當の手段を探る様請願した。

一〇、單寧酸含有産物

ガムビル

爪哇及マヅラの二二年輸入は二一年の二、四二〇噸に對して二、二〇五噸に上つた。此數量は全然リヨガムビルであつて新嘉坡經由で輸入されたものである。爪哇からの二二年に於けるガムビル再輸出は全く云ふに足らない。外領からは二〇年の四、九三〇噸、二一年の五、九〇一噸に對して七、一四九噸の輸出を見た。主要仕向地は新嘉坡、英國及米國である。スマトラ東海岸—土人作物としてのガムビルは廢たれる一方である。二二年の輸出は六〇噸に過ぎぬ。大規模に栽培するのは主としてアサハンの

グスンメラユだけで同園は二一年の三千噸に對して五千噸を船積した。バダン―相場は年度を通じて手堅くビクル四〇盾乃至四五盾間を往來した。新嘉坡市場―爪哇キユウブ第一號品の相場はビクル一三弗から激騰して年末の二三弗に終つた。

クリツトバカウ及テンガル

此鞣用樹皮の外領からの輸出はかなり多く二一年の八、七九五噸に對し一二、六四四噸に上つた。メナドは年度中に五五噸を輸出した。アツチエ及屬領の輸出は甚だ多く二一年の一五、一五一噸に對して一一、三二九噸に上り価格はビクル約一盾四〇仙に達した。スマトラ東海岸では政府が海岸林の全滅を豫防する爲め採算を好まぬので本品の産額は微々たるものである。二一年に於て三〇〇噸に上つた輸出は二二年に至て九三噸に激減した。主要な仕向地は北米卑南及新嘉坡である。新嘉坡市場はクリツトバカウに對してビクル五〇弗で明け年度中續騰して十二月には八〇弗の相場を見せたクリツトテンガルは年初三ヶ月間新嘉坡では殆んど取引無く相場は年度を通じてビ

クル六〇弗臺にあつた。

檳榔子

本年度の爪哇輸出は著しく増加し二〇年の四、八四六噸二一年の六、八二三噸に對して七、五三九噸に上つた。前行年間に於けるが如く本年度も新嘉坡と卑南とが主要仕向地であつた。外領からは同じく主として新嘉坡と卑南に向け二〇年の二二、一九七噸二一年の二〇、三三五噸に對して二一、三七四噸の輸出を見た。パレムバン市場は護謨の高値に依つて檳榔樹園の持主等が普通其兼營する護謨園に注意を傾到した爲め檳榔子の産額は減退を餘儀なくされた。価格は五月に於てビクル七盾乃至八盾四分の三間を上下したが其後十一月の四盾二〇仙迄低落した年末の値段はビクル約七盾で充分採算し得る高値であつた。スマトラ東海岸州からは私人資料に依れば二、四四一噸の輸出があり沿岸の諸小港から大部分卑南及新嘉坡に船積された。アツチエの輸出は一五、〇〇〇噸で二一年の數量同じく主として北海岸の諸港から船積された。同州の値

段は手堅くビクル六盾から九盾に昂騰した。本品に對する土人の興味は益々増大し輸出も二五年には一〇、〇〇〇噸だつたのが漸次上記の如く一五、〇〇〇噸迄増大した。

タンニン (カツチ) 第五章參照

一一、玉蜀黍

輸出は數年來微々たるものだつたが本年度に至つて始めて多量に上つた。即ち爪哇及マヅラは、九、七六九噸を輸出し其中七、六八〇噸は和蘭及和蘭 For order に向ひ、一、三二三噸は獨逸へ殘部は佛蘭西及英國に向つた。セレベスの輸出は二一年の三一噸に對して四二五噸である。最も主要な仕向地は和蘭であつた。スラバヤ市場では初め新收穫二月―三月渡コーヤン一〇〇盾で提供されたが内地向の玉蜀黍に對しては間もなくより以上の高値がオツプアーされるに至つた。二月中旬に至つて輸出業者は市場に現れ輸取向乾燥物一〇〇盾で取引したのもあるが其後一二〇盾に激騰した。月末には黄色玉蜀黍最高白色二五パーセント、三〇ビクルのコーヤン當り即時渡で一三

〇盾の値さへ出た。三月は和蘭からの報道不良な爲め市場は弱く値段は下落した。四月初めの需要は一一五盾迄も低落したが、其ストックを手放さうとした若干の投機商を除けば誰も賣放さなかつた。四月中を通じて玉蜀黍の市場は内地からの供給が減少した事も手傳つて極めて沈靜であり、輸出業者も若干の黄色玉蜀黍を、一二二盾五〇仙で漸く買付け得るに過ぎず、其後は一一七盾五〇仙と云ふ相場で、混物玉蜀黍に對しては一一〇盾の値が支拂はれた。供給僅少の結果手持品に對する興味は増大し價格も従つて昂騰した。五月末に至つては劣等品さへも一四〇盾で提供されたが、實際取引された數量に對しては一三〇盾の値が最高であつた。

六月中には内地市場が輸出業者の指値以上の高値を唱へたので殆んど取引を見ず此状態は八月九月及十月を通じて變らなかつた。漸く十月中旬に至つて現物村落貨車渡の黄色玉蜀黍が一四〇盾で提供されたが、買手は無く一方新收穫十二月―二月渡の提供價は一四〇盾であつた。然し後者も何等の取引を見なかつた。十二月初めに至つて

若干の輸出向取引は黄色玉蜀黍二月渡一一七盾五〇仙で成立した。其後の市況は軟弱化した。十二月中旬に至つて需要の増大に依り又もや回復した。年は黄色玉蜀黍一二〇盾で買手を見たが賣手は一二二盾五〇仙乃至一二五盾を稱へて譲らなかつた。

一二、精 油

カナンガ油

一九二二年の産額は殆んど皆無であつた。それでも爪哇の蒸溜者や商人連が價格暴落に賣惜んだ二〇年乃至二一年の在荷が多だつた爲め輸出は可成りあつた。二二年末に至つて低値ではあつたが若干の需要が起つた。蒸溜方法が原始的なものと樽詰の包装が不清潔な爲めに、製品も時日の経過と共に品質が劣悪化する反面に於て、若干數量の下等品が二二年の市場に投げ出された爲め、市價は低落する一方であつた。

シトロネラ油

二二年には可成り買手の興味も強く取引量も多かつた。年はドラム附貯當り約三盾

の相場で開け、上半期は三盾―三盾二五仙の間を往來したが、下半期には漸騰を續け、十二月末には既四盾臺に達した。増大した需要は二三年初迄も繼續し、生産者に取つては有望な市況を呈してゐる。然し消費側の高値買が澁々行はれたのは否定出來ない。パタビヤでは外國の相場を續け、ローカルな市場も年末には投機的な性質を帯びて來た。それでも高値が續くには二つの原因がある。即ちセイロン産シトロネラの一時的品不足と、従つて起る石鹼製造家の優良爪哇品に對する需要増大に依り、人工油製造家側の興味減退は何等の影響をも與へなかつたのである。反面に於ては又セラニウム油やバルマロサ油の市價もセラニウム油生産者の努力が成功して著しく上騰した。

英領印度のバルマロサ油輸出數字から見ればセラニオルの製造家は原料の欠乏を恐れる必要がない。又シトロネラルに對しては充分の代用品があるから、無法な市價釣上は到底望めない。

二二年の輸出は二一年よりも著しく多大であつた。それは高値の刺戟で農園が産額を出来る丈け増加した爲めで、二一年からの手控へ在荷は僅少に過ぎなかつた。シトロネラ油の輸出は爪哇から丈け行はれる。二二年の輸出數量は二〇年の四三四噸二一年の二七三噸に對して四三五噸に上つた。英國への積出は著しく増大しつつあり、濠洲へのそれも又可成あつた。

カユブテ油

セラム島とブルウ島から出る本油の製造を容易にして収益を増す爲めに、政府の援助でカユブテ油蒸溜の新式工場が西セラムに設立されたが全然失敗に終つた。原因としては、工場を不適當な土地に置いた事、指導者と監督者の欠乏、葉の採集と輸送から起る勞力の問題等を挙げねばならぬ。本業には大規模な工場よりも運搬輕便な小蒸溜機械が適してゐる。

マカツサのカユブテ油輸出は二九噸で、アムボイナのそれは一六噸に上つた。二一

年の數字は各二七噸及び三三噸である。價格には目立つ程の動搖もなかつた。年初の相場は三五盾乃至三六盾、年末は三三盾乃至三五盾に達した。需要は年度を通じて良好であり、特に支那、日本及び米國側からのが多かつた。

パチユリ葉

私人資料に依ればアツチエの輸出は二一年の六一三噸に對して六五二噸に上つた。仕向地は卑南と新嘉坡である。後者からの再輸出は佛蘭西や紐育等に仕向られる。葉價は二一年の一六盾に對してビクル二二盾に上つた。

パチユリ油

歐人の監督下にアツチエの土人が採取したパチユリ油は、米、英、佛、蘭の諸國で賣捌かれた。歐洲の諸工場へ送られたパチユリ油の批評は相互に非常な懸隔がある。佛蘭西の工場が品質を賞美するに反し、獨逸の諸工場は一齊に不良だと云ふ。従つて販賣にも困難を生じて市價は低落し、利益は甚だしく期待を裏切つた。爲めに土人も

最初の意氣込みを失ひ、製油は二二年中頃に中止されて了つた。工場は十ヶ月間の運轉期間に約千疋の油を出し、中三分の一は工場渡疋當り平均二五盾餘で賣られ、兎も角僅かながら利益は擧げた。

パチユリ油は爪哇でも生産される。二二年産額は二一年の四七一疋に對して二七五疋であつた。品質は海峽植民地産よりも劣るとせられてゐる。爪哇パチユリ油の價格は疋三〇盾から二〇盾へ低落し、上等品の供給が豊富となるに連れて此種劣等品に對する興味は僅少となつた。

白 檀 油

此の油を産する白檀はチモール州に於ける主要財源の一つであつて蘭領印度から輸出される白檀は殆んど全て同州の産である。従つて白檀油の製造を國內で初めることも屢々計畫されて來た。然し専門家調査の結果チモールの白檀在荷が著しく減少しつゝあることが判明し、蒸溜工場の設立も不可能に近い、未伐採の在荷を保護するに就

ては諸種の手段が講せられてゐる。

一三、米

二二年には再び可成りの爪哇米輸出を見た。當初憂懼された如く、種苗の撰擇は輸出の出來なかつた數年間に怠慢され、品質は若干退歩した。だから歐洲の買手が輸出業者から莫大な損害賠償を要求したのも一再でない。佛蘭西の穀物が欠乏して、製麵麩用の麥粉に一割の米粉を混する事になつた爲め、同國の爪哇米需要は良好であつた。此れに關連して問題となつたのは米に對する新輸入税適用に當り、爪哇米が未精白米なるか又は精白米なるかの點である。蓋し前者の輸入税は百疋三法なるに反して後者のそれは二四法に上るのである。然し今迄の所では爪哇米は未精白品とされ最低税率の適用を受けてゐる。季節明けの輸出向クラワン米は二七ビクルのコーヤン當り三四〇盾乃至三五〇盾の相場で、インドラマユ米は毀れ五―六バーセントでコーヤン當り約三五〇盾乃至三六〇盾の相場であつた。其後の市價は低落を續け、インドラマ

ユ米は約三〇〇盾となり、周知の優等品 *スル* は四一〇盾乃至四五〇盾の相場を示した。

爪哇及マヅラの輸出は二一年の九一〇噸に對して一〇、七四九噸である。和蘭と佛蘭西は主な仕向地で各四、五九九噸及び三、二〇二噸を引取つた。其他では加奈陀へ七五〇噸、米國へ四八七噸、英國へ四一六噸の船積を見た。

一四、貝 殻

マカツサの貝殻市場は主として左記の種類を取引する。

- 一、眞珠貝
 - a. ビマ貝
 - b. セラム貝
 - c. アルウ貝
- 二、其他の貝殻
 - a. 高瀬貝及びロラ貝
 - b. グリーンズネイル貝
 - c. 黒蝶貝及びバンド貝

眞珠貝に對しては年度を通じて良好な需要があり、ストックは年末に至つて全部品切となつた。相場が月と共に改善したのは云ふ迄もない。他の貝殻では高瀬貝を除け

ば大した需要も無く買手の興味は動搖し勝ちだつた。其相場は四月と五月に僅かな値上りを見たのみで、其後は低値歩調で年を送つた。

眞珠貝

輸出は二一年の三、二五一ビクルに對して五、七九八ビクルに上つた。年初のビマ貝は低相場で買氣弱く二月に成立した小數の取引も五五―六五盾と云ふ値段で、三月のはビクル六〇―六五盾の間にあつた。然し其後は需要も規則的で取引も多く、値段は四、五月の六〇―六七盾から六五―七〇盾に進んだ。セラム貝の市況も同様な歩調を取り需要は可成り多かつた。アルウ貝に對する買氣も相當強く、一月の一五盾の相場は四月に一一二盾五〇仙―一二二盾五〇仙となり、七月には一二〇―一二五盾迄も進んだが、やがて八月の一五盾を経て九月の一五盾二分の一まで低落した。其後價格は再び好轉して一一五盾―一二〇盾の間を辿つた。アルウ貝の買手では米國が主位にあつた。

其他の貝殻

眞珠貝以外では高瀬貝が最も重要である。一月ノミナル二五―二七盾だった。相場は、日本側からの注文續來に依り二月には二七―三〇盾となつて多くの取引を見せ、四月には二八―三〇盾に上つた。其後の市場は二六―二八盾臺に逆轉し、八月には二四―二七盾となり、九月には需要薄で二二―二五盾に暴落した。十一月、十二月は二五―二八盾を稱へて市況は若干回復した。輸出は一九、三二五ビクルで其中日本と支那は一七、八〇三ビクルを引取つた。日本に行かなかつたものは殆んど皆佛蘭西へ船積され、極く僅少な數量が獨逸や新嘉坡に向つた。

二二年と二二年の輸出は下記に達する（單位ビクル）

眞珠貝	一九二二	一九二二
高瀬貝	五、二五一	五、七九八
夜光貝	三、八五四	四三八
	一、二四二	一九、三二五
		三、八二〇

私人資料に依ればタルナテの二二年輸出は眞珠母貝一、〇六一疋、夜光貝二、三八八疋、黒蝶貝四〇三疋、高瀬貝二四、四七八疋、計二八、三三〇疋に上つてゐる。二二年の輸出は一七、五〇一疋であつた。猶本年度はメナドから三三噸、アツチエから三八噸の輸出を見た。

一五、鼈 甲

年度を通じてマカッサの市場は閑靜であり、四月以後は規則的に小取引があつた。輸出は九七ビクルで、日本、新嘉坡及び歐洲が買手である。二二年の輸出四〇九ビクルに比較すれば本年の輸出は甚だ少ない。相場は品質に依りビクル一、〇〇〇―一、八〇〇盾の間を上下した。

一六、香料

白豆蔻 Cardamom

この香料は世界市場で若干の需要を有するが蘭領印度では中部爪哇を除けばベンク

一レン州のレヂャン、レボン區に栽培されるに過ぎぬ。バレムバン地方にもあるが、野生のものばかりである。土人は普通之れを畑に植へる。白豆蔻は利益の多い作物である。二二年の平均賣價は二〇年の一四五盾、二一年の一六〇盾に對してビクル八五盾であつた。收穫は二〇年の二六五ビクル、二一年の一九五ビクルに對して一三二ビクルである。白豆蔻は四種に撰擇され、バレムバンと新嘉坡に輸出される。

カシアフイスチユラ

輸出作物としての本品の價値は殆んど云ふに足らぬ。マカツサ商業會議所の資料に依れば同地は二一年の六四二ビクルに對して六、〇五二ビクルを輸出した。

カシアベラ

爪哇及マヅラの輸出は二一年の六五噸から二二年の一〇噸に増加した。輸出は事實上全て米國に行く。そしてタンヂョンプリオクが唯一の輸出港である。バダン市場では歐米買手の需要缺乏に依り二一年末の桂皮價は一等品ビクル一八盾の底値に暴落

してゐた。戦前の相場が二五―四〇盾だつたに比すれば雲泥の相違である。年初めのビクル一八盾―二〇盾と云ふ價格はそれでも猶漸落して一六盾となり、土人の生産は採算不引合で殆んど不可能となつた。この低値を利用して大量の買付をやり、値上りを待つた商館も少くない。然しフォート、ファンデル、カペレン土人は低値の影響で益々カシア園を珈琲園に變化しつゝある。この變化に依つて市場に出た桂皮は比較的多かつた。即ち二一年の五四一噸に對して二二年は一、六四四噸の輸出數字を見せてゐる。仕向地は主として米國と和蘭である。其他英獨、瑞典へも若干の船積があつた。

爪哇胡椒

輸出は本年度に至つて甚だ増大し、爪哇全體に栽培される本品の植付面積も又逐次擴大される模様である。二〇年一二五噸だつた輸出は二一年新嘉坡からの需要薄に依り僅か七五噸に激減したが二二年には一三四噸に進んで來た。最大の買手は新嘉坡で、同地からは更に支那と米國に再輸出がある。本年度は又蘭、英、日へも直接の船積

があつた。

外領も毎年約十噸を輸出する。仕向地は新嘉坡と卑南である。

肉荳蔻外皮

バンドダ其他の收穫が少なかつた爲め爪哇品に對する需要強く輸出は一九二〇年の五〇噸、二一年の二七噸に對して一〇三噸に増大した。二〇年と二一年には何等の輸出も無かつた濠洲は二二年に於て六四噸を引取り、和蘭や北米も前行二ヶ年以上の大數量を引取つた。本年度の外領輸出合計に就ては未だ的確な數字が無い。二〇年の輸出は五五七噸で主要仕向地は新嘉坡、和蘭及び北米、二一年は三七八噸の輸出で主として和蘭と新嘉坡が引取つた。バダンの輸出は増大した。價格は上半期のピクル五〇—六〇盾から六五盾に進み、十月—十二月には七五盾となつた。輸出數量は二〇年の五二噸、二一年の三五噸に對して五九噸である。主要仕向地は米國と和蘭であつた。バンドダ、シアウ及びバプア肉荳蔻外皮の取引されるマカツサ市場は期待の如く各地から

の收穫僅少の通知に年を明けた。反對に需要は年度を通じて甚だ良好だつた。従つて各種の市價が暴騰したのは驚くに足らない。バンドダ肉荳蔻外皮は七二盾五〇仙—七五盾に明け、八月九月の一〇〇盾—一二〇盾迄暴騰した。年末は一〇〇—一一〇盾の相場手で手堅かつた。シアウ及びバプア外皮の市況も同様だつた。シアウは六五—七〇盾に明けて八月の一〇〇—一一〇盾迄上騰し、九〇盾で年を送つた。バプアは四〇—四六盾に明けて八月九月に六〇—六五盾となり、年末は五五—六〇盾の相場を示した。マカツサの移入は二、〇二〇ピクルに達し、輸出は二、二三四ピクルに上り、主として新嘉坡に向つた。歐米に直送された數量も若干ある。メナドは四〇噸の肉荳蔻外皮を輸出した。

タルナテ 輸出は二一年の一八噸から一一噸に下つた。年は第一號品三〇—五〇盾に明けて上半期を經過し、下半期に至つて市況改善、年末は七〇—七五盾の相場に終つた。

アムステルダム市の市況は肉荳蔻の項を参照のこと。

肉 桂

爪哇及マヅラの肉桂輸出は二〇年の一四五噸、二一年の六九噸に對して八〇噸に上つた。本年度も新嘉坡と北米が最大の買手であつた。今迄新嘉坡經由で買つてゐた日本も本年度は直接に取引した。

丁 香

本年度の爪哇輸出は殆んど云ふに足りない。外領は二〇年の二五四噸、二一年の三六噸に對して五五噸を輸出した。仕向地は主として新嘉坡、卑南及米國である。マカッサ市場では年初め收穫極少の報道が傳はり、移入小數量は忽ちにして吸収されて了つた。特に爪哇からの需要多く、四月五月にはストック殆んど無かつたが需要は續き外國へは二月以後輸出皆無となつた。八月九月には在荷全く缺乏し、相場はノミナルに過ぎなかつた。従つて價格も暴騰し、一月の九〇―九七盾から三月の一〇五―一一

五盾、四月の一〇五―一一〇盾を経て五月には一〇〇―一一五盾となり、其後の數ヶ月は此値段で續き、市況は手堅かつた。然し年末には相場急退し、市況閑靜取引僅少で十月の一〇〇―一一〇盾、十一月の七五―八〇盾を経て十二月の六五―七〇盾まで暴落した。移入總計は二、一〇一ピクルで、輸出總計は前行年の二八六ピクルに對して四六一ピクルに達した。主要仕向地は米國である。メナドは半噸の丁香を輸出した。

肉 荳 蔻

爪哇及マヅラの輸出は著しく増加したがそれでも未だ二〇年の數字に達せない。未脱穀肉荳蔻の輸出は九三噸で、中三六噸は米國へ、二三噸は和蘭へ、一八噸は新嘉坡へ、一六噸は丁抹に向つた。二〇年及び二一年には各一二四噸及び七七噸の輸出を見た。脱穀肉荳蔻の輸出も増大し、二一年の一四噸から二四八噸となつた。和蘭は一・二九噸で仕向地の首位にある。バダンでも輸出は増大した。價格は年度を通じて引緊り未脱穀未精選でピクル一四―二〇盾の間にあつた。仕上濟一等品はピクル四〇―五

○盾を稱へた。輸出は二〇年の二四六噸二一年の九八噸に對して一四〇噸に上つた。マカツサからは六、五一〇ビクルの輸出を見た。マカツサ市場の一月、五月、九月及び十二月のビクル當り相場は下の如くである。

種類	一月	五月	九月	十二月
サンギルII	一四一八盾	一盾	一盾	一盾
メナド	二〇	二二一二五	二〇一二五	二一一二四
バブア	一四一五	二〇一二三	一八一二〇	一七一二〇
シアウ	二五二六	二八一三〇	二五二八	二七一二九

三月迄は移入少なく賣行良好だつた。四月に至つて移入増加し需要若干減少したが其後は市況回復し、收穫の少ないと、反比例に需要は多く、八月にはストツク消滅し相場はノミナルとなつた。年度末三ヶ月間はメナド、バブア種に對してもバンド種と同じく需要強くマカツサの移入は甚だ増大した。輸出は主として新嘉坡と北米に向ひ若干は佛蘭西へ向つた。マカツサの輸入總計は九、七〇九ビクルで輸出は二一年の五、九一九ビクルに對して六、五一〇ビクルに上つた。メナドは三五四噸の肉荳蔻を主と

して獨逸と和蘭に輸出した。アツチエ及屬領の輸出は二一年の七七噸に對して七九噸に上つた。タルナテは未脱穀品八一噸、脱穀品一一噸を輸出した。二一年の數字は各一九〇噸及び一七噸である。

アムステルダムの肉荳蔻外皮及肉荳蔻市場 年初の市況は一月十一日、四月十二日、七月五日及び十月十一日に開かる可き競賣に關連して先待態度だつた。

肉 荳 蔻	七二二箱	二二二三俵
肉 荳 蔻 外 皮	四二二箱	三俵

一月の競賣にはの取引があつた。價格は不規則な動搖を示したが、興味多大の多め遙かに豫想賣價を超過した。競賣後も市況は手堅く殘留品には絶へず取引があつた。四月初めの市場は再び競賣値の先待ちに明けた。競賣中及び其後には豫想價格又はそれ以上で一、三〇三箱と二三二俵の賣買を見た。肉荳蔻外皮の提供高四四八箱と二俵は殆んど全て見積價以上で引取られた。競賣後も市價は手堅かつたが取引は僅少だつた。七月の市況は

一般の景氣が不順な爲め弱氣を見せ、興味は主として粗末な肉荳蔻に集中された。價格も不規則だつたがそれでも多くの場合見積を超過した。賣却されたのは全部で六七〇箱と一九二俵である。競賣に提供された三一八箱の肉荳蔻外皮は九箱を除き全て見積價又はそれ以上で引取られ、見積下以下だつたのは甚だ僅少である。十月には最後の競賣があつた。提供數量は肉荳蔻二、五八九箱と七七四俵で、賣却されたのは七六四箱と六四八俵であつた。外皮の提供高は六九八箱と一俵に上り、引取られたのは三五二箱と一俵であつた。賣買は實需品に限られた。價格は甚だ不規則だつた。然し普通品は絶へず見積よりも若干仙の高値で賣拂はれた。一一〇—一一五個バンド肉荳蔻の價格は年初の半貳五〇仙から年度中頃の五三仙に漸騰し、其後は再び五〇仙に低落して年を送つた。バンド肉荳蔻外皮の市價は年度を通じて昂騰傾向に在り、半貳八五仙から九〇仙、九五仙、一〇〇仙を経て年末四ヶ月には一〇五仙となつた。

胡椒

爪哇及マヅラの輸出は二〇年の一、六六一噸、二一年の一、八二六噸に對して一、五五五噸に上つた。下表に見へる通り米國が又もや最大の買手である。和蘭への輸出は激減しつゝある。

仕向地	噸			仕向地	噸		
	一九二〇	一九二一	一九二二		一九二〇	一九二一	一九二二
和蘭	三五五	一九一	七〇	支那	七五	四〇	四九
英國	三四九	九二	三一八	澳洲	三二九	二四五	八九
獨逸	九七	四六一	二三一	其他	三四	九四	三一
北米	四一六	六四一	七三八	計	一、六六一	一、八二一	一、五五五
新嘉坡	六	五七	二九				

外領の輸出は二〇年の四、一九七噸、二一年の五、七九〇噸に對して五、七八二噸に達した。殆んど全部新嘉坡行である。パタビヤの市況は次の如き経過を示した。一月中には多くの小數量なムントック白胡椒が四〇—四一盾で取引された。二月に至つて價格は四三盾に上騰したが賣手は四四盾を稱へてゐた。ストックは七千ピクル以下で若干の支那商人の手にあると憶測されたのである。三月には興味減退し、一輸出商が

小數量を地方商賣の支那人に賣拂つた事も與つて市況を軟弱ならしめた。買手は四二盾までオツファアしたが賣手は四三盾以下では手放さなかつた。然し四月に至つて後者の態度は一變し、四二盾での取引が若干あつた。五月六月は市況軟弱で價格は絶へず後退した。七月には三九盾―三八盾七五仙で僅少の取引を見た。八月も改善を齎らさず、云値は屢々歐米へ報道されたが返電さへ來なかつた。八月下半には三六盾と云ふ低値で若干の取引が成立した。九月は三三盾五〇仙のオツファアで買手なく、米國も何等の興味をも示さなかつた。歐洲からの注文は倫敦でバタバヤよりも安買が出来た爲め皆無に近かつた。月末には若干の取引が十一―十一月渡三三盾で成立した。十月には三二盾で多少の取引があつた。十一月も閑散だつた。唯月末になつて輸出業者は安値の仕入れ時期到れりとして活動し、三三盾―三三盾五〇仙で取引があつた。黒胡椒の値上りと呼應して白胡椒も昂騰し、年末近くには三七盾五〇仙となり、市場は買手三七盾五〇仙、賣手三八盾で年を送つた。

黒胡椒 爪哇の輸出は二〇年の七、五一四噸、二一年の一五、三〇八噸に對して一〇、一〇八噸に上つた。白胡椒に於けると同じく黒胡椒の主要仕向地も又米國である外領は二〇年の五、七八七噸、二一年の六、六五九噸に對し主として獨逸、新嘉坡、北米へ向け一二、七八四噸を輸出した。

バタバヤ市況 一月の相場は外國等價以上で輸出商の買付は皆無だつた。月末は買手一八盾、賣手一八盾五〇仙の市價であつた。二月は米國側の興味に依つて値上りを見せたが三月には再び外國等價以上の理由で低落した。三月末は興味増大し四月にも存続した。月末輸出商が拂つた値段は四―五月渡ファスト、コスト二〇盾三七二分の一仙で其後五月渡 *for nine* テロツクベトンに對しては二一盾二五仙乃至二一盾五〇仙を支拂つてゐる。低落氣味な米國相場と米國輸入税引上の見越に影響されて五月の市況は軟弱だつた。續く數ヶ月にも市況回復せず、九月には既に一六一―一六盾五〇仙に低落した。十月に至つてファスト、コスト胡椒値段は理由もなく昂盾したが中旬には

珈琲市場の恐慌が一般の注意を引き胡椒は顧みられなくなつた。十一月輸出商が大數量を買付くるに至つて興味再び増大し、十二月も米國が高相場を傳へたので市況活潑だつた。一月―三月渡に對しては二一盾二五仙の支拂を見た。年は良好な需要と引緊つた市況に閉じられた。

パレムバン市場 本年度の市況は甚だしく動搖した。上三ヶ月の市價はビクル一八盾五〇仙―一九盾五〇仙を上下し、四月六月の期間には二一盾七五仙に昂騰した。下半期には一五盾五〇仙まで漸落し、年末には再び二一盾五〇仙に回復した。主として新嘉坡に向けられ輸出數量は二一年の約二倍となり二、七四三噸に達した。

テロツクベトンの市場 船積量は八、一七一噸で、中輸出は五、八七一噸、主として米國三、〇九三噸新嘉坡一、三一七噸へ向けられた。残り二、二六二噸の船積先は爪哇である。市況は次の如き経過を示した。

二一年の五月乃至八月にバタバヤ投機商連が二五盾強までの値段で買付けた結果ラ

ムボンの二一年收穫は同年末殆んどストック無く、本年一月―三月には僅かな數量が六五盾一六盾―一七盾の現物渡値段でバタバヤに賣られたに過ぎなかつた。四月に至つて收穫が出初めると共に五月積米國行に對して若干の需要到來し、値段は約一九盾迄上騰した。然し其後は又もや逆轉を續け、八月初めの收穫時期には一六盾臺にあつた。提供品は絶へず増大するに投機者連は買煽らず、バタバヤ輸出商は指値を引下げ一方、八月末には早くも十四盾となり市場は崩壊に近かつた。内地奥の生産者に取つては此値段は採取費と港迄の運賃にも當らなかつた。然しバタバヤの市價高に困惑した多數の輸出商が突然買手として出現し、歐米への直送品を求め、諸汽船會社もテロツクベトン積込の爲め船腹を供給したので九―十月には多大の取引が成立した。九月末のファストコスト一四盾五〇仙、十月の一五盾を経て、締結された諸輸出契約に對するカバー困難な事が判明した事はバタバヤの投機商連が再現したのと相俟つて市價は奔騰し、年末は在荷不足に約二〇盾を稱へて終つた。スマトラ東海岸の胡椒は

云ふに足らぬ。ランカットの輸出は五六一噸に上つたが全てアツチエからの胡椒である。アツチエの輸出は二一年の約五千噸に對し約四、三五〇噸に上つた。主要仕向地は卑南と新嘉坡である。値段はビクル一三盾一八盾を往來した。産額は二一年と二二年の輸出差が想はせるよりも遙かに少なかつた。蓋し二〇年と二一年の胡椒で貯藏されてゐたものが本年の高値に賣拂はれたからである。土人の胡椒栽培に對する興味は減少しつつある。多くの胡椒畑は特に東海岸州に於て、死滅し閑却されてゐる。

一七、砂 糖

ウイレットグレーに依れば世界の二二―二三年に於ける甘蔗糖産額は一二、六七五、八九六噸の見積である。二〇―二一年及び二一―二二年の産額は一二、〇八一、八三一噸及び一二、六六五、四九八噸に上つた。

甜菜糖産額は二〇―二一年及び二一―二二年に於て各々四、六八五、四八〇噸、四、九八五、一六四噸に上つたが二二―二三年は五、三七〇、五〇〇噸の見積である。従つて

世界の砂糖産額合計は二二―二三年に於て一八、〇六四、三九六噸に上る見込で二二―二二年よりも三九五、七三四噸の増加見積である。サルニコウは歐洲に於ける砂糖産額及び消費高を各々四、四六〇、五〇〇噸及び六、五三二、〇〇〇噸と豫想してゐる。従つて之れから生ずる二、〇七一、五〇〇噸の不足は甘蔗糖を以て補充されねばならぬ譯である。本年度の紐育に於ける粗糖市價は各月初めに於て下記に上つた。單位はアムステルダム封度當りの弗仙である。

一月 四日	三・四八	五月 二日	三・九七五	九月 六日	五・一二
二月 一日	三・六六二五	六月 一日	四・二八七五	十月 二日	五・〇三
三月 一日	三・七八七五	七月 六日	五・〇〇六二五	十一月 十四日	五・一〇
四月 四日	四・〇三七五	八月 八日	五・三五	十二月 十四日	五・五三

本年度の爪哇糖輸出は一、四〇七、三六八噸に上つた。白糖の仕向先別は下表の如くである。(單位千冠)

仕 向 先	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二一	一九二二	一九二二
和蘭及和蘭 I/O	九、一三四	一五、三九三	三〇、八三四	英 國	五、二〇三	一〇、二八九
						七九、七五五

